

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
(本編)							
I 日本、天皇、日本史、日本思想、教育							
(1) 日本							
1	外国人の見た七十年代の日本—ロベール・ギラン「成功の理由」「日本の挑戦」		昭和44年11月29日	1綴(B5 19頁)		タイプ	
2	外山正一氏の経歴と思想		昭和51年12月24日	1綴(400字 3枚)		手書	
3	我が国建国の意義		昭和53年5月	1綴(B5 1頁)		活版	『自立』創刊号 自立社
4	松下幸之助「私の夢 日本の夢 21世紀の日本」を読む		昭和53年5月16日	1綴(400字 7枚)		手書	
5	国体と自由経済の見えざる力		昭和56年12月26日	1綴(400字 2枚)		手書	
6	「夫婦の証言」(佐藤欣子) より		昭和57年1月17日	1綴(400字 2枚)		手書	『自由民主』昭和57年2月号
7	国の特色について—「天声人語」(昭和58年5月15日 朝日)評		昭和58年5月15日	1枚(400字 1枚)		手書	
8	急のおねがい—江戸城天守閣再建案について—		昭和60年7月15日	1綴(400字 3枚)		手書	
9	江上波夫博士『騎馬民族と日本の起源について』を読む		昭和60年7月20日	1綴(400字 16枚)		手書	
10	神の国とキリシタンの国		昭和60年8月15日	1綴(400字 5枚)		手書	
11	元日や一系の天子不二の山(鳴雪)			1綴(400字 3枚)		手書	
12	皇室と日本民族			1綴(400字 2枚)		手書	
13	わが国体—天皇家と国民の関係			1綴(400字 2枚)		手書	
14	西独ボン大学 オットー・カロン教授の日本観			1綴(400字 2枚)		手書	
15	女王の引用された日本史の序文について			1綴(B4 2枚)		タイプ	
16	ケンピア「日本歴史」より抜粋—ほか			1綴(B5 7枚)		手書	
(2) 天皇							
17	おほきみはかみにしませば(メモ)		昭和39年1月	1綴(400字 4枚)		手書	
18	イギリスの戴冠式の意義		昭和51年9月29日	1綴(400字 4枚)		手書	
19	聖なる夜景を偲ぶ(初稿の初稿)		昭和51年11月	1綴(400字 22枚)		手書	
20	聖なる夜景を偲ぶ(初稿)		昭和51年11月20日	1綴(400字 30枚)		手書	
21	聖なる夜景を偲ぶ(第2稿)		昭和51年11月20日	1綴(400字 33枚)		手書	
22	聖なる夜景を偲ぶ(第3稿)		昭和51年11月20日	1綴(400字 33枚)		手書	

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
23	“象徴”天皇の意義		昭和51年12月20日	1綴(400字 3枚)		手書	
24	「聖なる夜景」を偲ぶ―在位50年に当って―		昭和52年3月10日	1冊(B6 51頁)		活版	
25	神皇正統 万世一系		昭和56年8月2日	1綴(400字 7枚)		手書	
26	天皇の見える統治力		昭和56年12月25日	1綴(400字 2枚)		手書	
27	皇統一系の天子を戴きて		昭和60年5月16日	1綴(A4 半頁)		活版	『日本の息吹き』第7号
28	中江兆民の天皇観		昭和61年2月14日	2綴(同文)(400字 2枚)		手書	
29	急のおねがい(江戸城天守閣再建案)		昭和61年7月15日	1綴(400字 1枚)		手書	
30	外国人の天皇観(アインシュタイン、オットー・カロン)			1綴(400字 4枚)		手書	
31	吉田兼好の天皇観			1枚(400字 1枚)		手書	
32	象徴天皇の重大な力			1綴(400字 3枚)		手書	
33	元日や一系の天子 不二の山(鳴雪)			1綴(400字 4枚)		手書	
(3) 日本史							
34	諸外国の対日史観―NHK特集「世界の教科書から」を観て―		昭和58年5月13日	1綴(400字 1枚)		手書	
35	古事記 上つ巻		昭和60年12月8日	1綴(400字 12枚)		手書	
36	明治35年から今日(昭和60年)までの83年間の歴代内閣の回顧		昭和60年	1綴(400字 11枚)		手書	
37	日本最初の自覚の書、古事記を読む―人間の喜怒哀楽悲喜明暗		昭和56年8月	1綴(400字 96枚)		手書	他に、末法思想、太平記、百人一首
38	古事記(メモ)		昭和58年4月26日	1綴(400字 3枚)		手書	
39	古事記(抜粋)		昭和58年3月	1綴(400字 36枚)		手書	
40	武部敏夫氏『和宮様御留』と史実を読む		昭和60年7月	1綴(400字 5枚)		手書	
41	儒仏の摂取過程		昭和59年1月25日	1綴(400字 8枚)		手書	
42	葛飾北斎の生き方を偲ぶ、武田信玄公訓言、中江兆民の天皇観		昭和61年3月12日	1綴(400字 5枚)		手書	
43	武部敏夫氏“『和宮様御留』と史実”を読んで			1綴(400字 1枚)		手書	
44	日本の神―本居宣長『古事記伝』巻3―			1綴(200字 5枚)		手書	
45	神皇正統記(抜粋)			1綴(400字 9枚)		手書	
46	近衛家略系図/藤原系譜/古事記 上巻ヨリ 木の花佐久夜ひめ/古事記 中巻ヨリ 神功皇后/太平記 ヨリ/古事記伝 巻三ヨリ 日本の神/神皇正統記ヨリ/皇室典範ヨリ			1綴(400字 26枚)		手書	

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
47	〔欠番〕						
48	『日本史のしくみ』(林屋、梅棹、山崎氏)中公文庫を読む			1綴(400字 20枚)		手書	
(4) 日本思想							
49	外国人の見た日本の風光・風物		昭和47年	1綴(400字 12枚)		手書	
50	親房卿の教訓―神皇正統記より―		昭和48年8月10日	1綴(400字 3頁)		手書	
51	知的な分析は分裂をもたらし、無心の行は統合をもたらすこと		昭和55年1月8日	1綴(400字 4枚)		手書	
52	本居宣長の「道」		昭和57年1月15日	1綴(400字 4枚)		手書	
53	清少納言―枕草子 第71段 鈴木正三―三毒・嗔恚・貧欲・愚痴		昭和59年1月21日	1綴(400字 3枚)		手書	
54	ゴッドとカミのちがい		昭和59年12月29日	1綴(400字 23枚)		手書	
55	仏教について―中村元氏の講談から―		昭和61年3月15日	1綴(400字 4枚)		手書	
56	英国社会学者ドナルド・ドーア氏の談話について		昭和61年3月21日	1綴(400字 3枚)		手書	
57	社会に尊敬・服従関係の生れる事情			1綴(400字 5枚)		手書	
58	思慮の限界			1綴(400字 4枚)		手書	
59	方丈記から			1綴(400字 2枚)		手書	
60	万葉集の歌 所感			1綴(400字 2枚)		手書	
61	万葉集 摘要			1綴(400字 7枚)		手書	
62	三浦梅園「条理学」			1綴(400字 2枚)		手書	
63	日本民族の個性と外来文化(小堀桂一郎教授の見解)			1綴(400字 3枚)		手書	
64	私(わたくし)について			1綴(400字 3枚)		手書	
65	米寿の春を迎えて			1綴(400字 3枚)		手書	
66	松原久子『日本の知恵 ヨーロッパの知恵』			1綴(400字 2枚)		手書	
67	武田信玄公の訓言・徳川家康の遺訓			1綴(400字 2枚)		手書	
68	『假名性理』の美文調の序			1綴(400字 2枚)		手書	
69	「手」を含む熟語			1綴(400字 2枚)		手書	
(5) 教育							
70	戦前の教育・学問の欠点		昭和51年12月1日	1綴(B5 5頁)		活版	明朗会発行『開日』第114号 所載

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
71	戦前の教育・学問の欠点			1綴(400字 13枚)		手書	
72	明治・大正の教育と学問			1綴(400字 12枚)		手書	
73	明治末期から大正期に活躍した思想家たちの傾向—人類と個性という立場			1綴(400字 2枚)		手書	
II 憲法・法							
(1) 憲法							
74	〔欠番〕						
75	憲法改正に関して—社会・自民両党に訴う—		昭和31年1月	1冊(A5 8頁)		活版	
76	第一条の改正を重視する理由		昭和58年5月18日	1綴(400字 6枚)		手書	
77	明治憲法第一条の由来—『梧陰存稿』より—		昭和58年9月9日	1綴(400字 3枚)		手書	
78	自由主義憲法において私有財産権は三大人権の一つであること		昭和59年4月23日	1綴(400字 4枚)		手書	
79	憲法28条			1綴(400字 5枚)		手書	
80	憲法28条の「団体行動」と「争議行為」			1綴(400字 35枚)		手書	
81	日本国憲法メモ 二篇			1冊(ノート 1冊)		手書	
82	デラウェア州(DELAWARE)と同州の憲法			1綴(400字 3枚)		手書	
III 自由・民主主義、社会・共産主義							
(1) 自由・民主主義							
83	ルードヴィヒ エアハルト—その人と政策—		昭和33年7月13日	1綴(A5 8頁)		活版	
84	「大企業」は悪か—競争の自由の意味—		昭和34年11月24日	1綴(400字 3枚)		手書	
85	対談 資本主義か社会主義か		昭和36年1月30日	1綴(A5 34頁)		活版	
86	自由主義市場の経済の擁護		昭和36年3月11日	1綴(A5 43頁)		活版	
87	自由主義市場の経済の擁護		昭和36年3月11日	1綴(A5 43頁)		活版	
88	自由経済・統制経済・社会主義経済		昭和36年	1綴(400字 83枚)		手書	
89	「自由」という言葉のいろいろな用法		昭和43年9月1日	1綴(B5 6頁)		タイプ	
90	自由経済体制を守らねばならぬ理由		昭和44年4月	1綴(A5 6頁)		活版	
91	自由主義市場経済のために—宮沢論文(自由新報)の検討—		昭和48年7月20日	1綴(B5 17頁)		活版	
92	自由主義市場経済のために		昭和48年9月5日	1綴(B5 31頁)		タイプ	

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
93	自由主義市場経済のために		昭和48年9月5日	1綴(B5 31頁)		タイプ	
94	自由主義市場経済のために		昭和49年3月20日	1綴(B5 30頁)		タイプ	
95	憲法—社会主義—自由 -政治大学院 研修資料-		昭和44年6月	1綴(B6 18頁)		活版	
96	自由の語義について		昭和49年10月15日	1綴(B5 39頁)		活版	
97	「市民的自由」についての立場		昭和49年10月25日	1冊(A5 9頁)		活版	
98	自由の語に与えられた諸種の意義		昭和49年10月	1綴(A5 19頁)		活版	
99	自由主義とは何か—西ドイツ経済を見て—		昭和32年9月18日	1綴(200字 92枚)		手書	
100	幸福について(農村生活の)		昭和38年	1綴(B4 6枚)		手書	
101	自由主義の政治と経済		昭和42年10月	1冊(ノート B5 1冊)		手書	
102	いま国民に問はれているものは何か？		昭和49年5月21日	1綴(B4 2枚)		活版	
103	自由共産の対決点—私有財産制の維持か廃止か		昭和49年6月21日	1綴(200字 4枚)		手書	
104	「市民的自由」の概念について(解答案)		昭和49年8月7日	1綴(400字 21枚)		手書	
105	「市民的自由」の概念について(解答)		昭和49年8月10日	1綴(B4 8枚)		タイプ	
106	メモ、レッセフェールと計画経ほか		昭和50年	1綴(B6 7枚)		手書	
106(細目)	レッセフェールと計画経済						
106(細目)	法の支配と人々のグループ分け						
106(細目)	シュンペーターの予言						
106(細目)	方法論上の二元論						
106(細目)	吉村正氏「民主主義の正しい認識」を読んで						
107	自由主義社会はどのような原則の上に成り立つのか—自由社会を救う道—		昭和51年3月10日	1綴(400字 31枚)		手書	
108	ウソと矛盾にみちた 日共の「自由と民主主義の宣言」(案)		昭和51年6月	1綴(200字 11枚)		手書	
109	二種の秩序—自生的秩序と組織		昭和51年6月	1綴(200字 4枚)		手書	
110	「自由と民主主義宣言」に関する「赤旗」号外を読む		昭和51年6月22日	1綴(B4 2枚)		タイプ	
111	平等に取り扱うことと平等にすることの差異(区別)		昭和51年7月19日	1綴(400字 3枚)		手書	
112	多数の支配(デモクラシー)の検討		昭和51年7月	1綴(400字 68枚)		手書	
113	アダム・スミスの見解		昭和52年2月	1綴(400字 5枚)		手書	

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
114	「自由を守るために」(講義案)		昭和52年2月12日	1綴(400字 28枚)		手書	
115	多数支配の論理—自由民主主義の諸問題— -ほか-		昭和52年3月30日	1綴(400字 54枚)		手書	
116	研修会講義案(自由民主党政治大学院)		昭和52年3月	1綴(400字 3枚)		手書	
117	自由社会をまもるために必要な知識		昭和52年8月25日	1綴(400字 4枚)		手書	
118	自由主義と福祉政策		昭和52年8月	1綴(A5 18頁)		手書	「講演」No.1239 東京講演会
119	自由経済の選択		昭和52年11月	1綴(A5 7頁)		手書	「自由思想」昭和52年11月号
120	真の法の属性		昭和52年	1綴(400字 15枚)		手書	
121	デカルト『方法叙説』理性と科学の尊重—		昭和52年	1綴(400字 32枚)		手書	
122	自由社会と福祉政策		昭和52年	1綴(400字 12枚)		手書	
123	自由経済の必要と条件		昭和53年3月11日	1綴(B4 24枚)		手書	
124	自力更生—自助(セルフ ヘルプ)		昭和54年2月	1綴(400字 3枚)		手書	
125	性格を異にする二つの秩序—「造られた秩序」と「生成した秩序」—		昭和54年4月9日	1綴(400字 14枚)		手書	
126	推薦のこぼ(村田稔雄教授訳 ミーゼス著『自由の決断』推薦文)		昭和55年7月6日	1綴(400字 8枚)		手書	
127	個人の運命に対する個人の責任と政府の責任(『選択の自由』より)		昭和55年9月20日	1綴(400字 11枚)		手書	
128	政府の任務についての発想の転換が必要		昭和55年12月13日	1綴(400字 6枚)		手書	
129	資料、「文明社記の精神的病い」(講演 翻訳)		昭和56年11月4日	1綴(B5 7頁)		活版	『エコノミスト』所載
130	自愛のこころ		昭和56年12月21日	1綴(400字 2枚)		手書	
131	資本主義(自由)制度は時代遅れになるような制度ではない		昭和57年4月8日	1綴(400字 3枚)		手書	
132	いわゆる「資本主義経済」は「自由経済」ではないこと		昭和58年8月9日	1綴(400字 8枚)		手書	
133	命令のない秩序		昭和58年11月17日	1綴(400字 4枚)		手書	
134	自由主義の中心となる考え方		昭和58年12月5日	1綴(400字 5枚)		手書	
135	自由主義の中心となる考え方		昭和58年12月5日	1綴(400字 4枚)		手書	
136	フリードマン『奇跡の選択』を読む		昭和59年7月13日	1綴(400字 2枚)		手書	
137	自由主義経済推進機構「構造的財政改革への提言」を読む		昭和59年5月	1綴(400字 40枚)		手書	
138	19世紀の脅威的進歩を齎した自由社会		昭和59年7月22日	1綴(400字 3枚)		手書	
139	自由主義の政治家に寄す		昭和59年7月23日	1綴(400字 5枚)		手書	
140	自由主義と利己主義の違い—政府サービスの条件—		昭和59年8月30日	1綴(400字 3枚)		手書	

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
141	「指示待ち人間」を読む (朝日 昭和59年9月1日)		昭和59年9月2日	1枚(400字 1枚)		手書	
142	「国営のリサイクル店大繁盛」(朝日 昭和59年9月7日)を読む		昭和59年9月7日	1綴(400字 1枚)		手書	
143	近時雑感—学者の責任		昭和59年10月7日	2綴(400字 5枚)		手書	
144	自由社会に対する二方面からの脅威		昭和59年10月9日	1綴(400字 4枚)		手書	
145	歯止めなき デモクラシーの危機		昭和59年11月22日	1綴(400字 7枚)		手書	
146	アダム・スミスの「自然的自由の体系」を想う		昭和60年5月16日	1綴(400字 5枚)		手書	
147	アダム・スミスの「自然的自由の体系」を想う		昭和60年5月16日	1綴(400字 5枚)		手書	
148	自民党の保守主義と自由主義の関係		昭和60年6月2日	1綴(400字 63枚)		手書	
149	自由考		昭和60年6月25日	1綴(400字 24枚)		手書	
150	自由考		昭和60年6月25日	1綴(400字 24枚)		手書	
151	レプケ スイスの村 読後感		昭和60年7月15日	1綴(400字 3枚)		手書	
152	山本七平「保護なき産業が生む奇跡」を読む		昭和60年7月23日	1綴(400字 3枚)		手書	『自由民主』8月号
153	林 勝氏「アメリカ知性の混乱」を読む		昭和60年9月23日	1枚(400字 1枚)		手書	「月曜評論」昭和60年9月23日
154	江藤淳氏『もう一つの戦後史』読後感—江藤淳氏への書簡		昭和60年10月22日	1綴(400字 3枚)		手書	
155	昭和23年1月1日マッカーサーの年頭教書を読んで		昭和60年10月28日	1綴(400字 12枚)		手書	
156	分業の重要性		昭和60年11月10日	1綴(400字 12枚)		手書	
157	社会的分業と貨幣の役割		昭和60年12月13日	1綴(400字 59枚)		手書	
157(細目)	自由主義の中心となる考え方						
157(細目)	需要と供給を調整する諸制度について						
157(細目)	レプケ「銃社会の経済学」						
157(細目)	駐日大使 M. マンスフィールドの講演						
157(細目)	分業の危険と限界						
157(細目)	国際収支問題						
157(細目)	W. レプケのケインズ批判						
157(細目)	分業の網の目						
158	自民党の保守主義と自由主義の関係		昭和60年	1綴(400字 63枚)		手書	

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
159	政界、忘れがたきこと―統制撤廃「自由主義の経済体制」貫く		昭和60年10月21日	1綴(新聞 7段)		手書	「自由新報」自由民主党機関紙掲載
160	〔欠番〕						
161	自由社会の理念からの遠い日本			1綴(400字 2枚)		手書	
162	「保守的」な「自由民主主義」			1綴(400字 3枚)		手書	
163	新自由主義者の言葉(抄)			1綴(A5 9頁)		手書	
164	自由主義の前提			1綴(200字 3枚)		手書	
165	自由と平等の関係			1綴(400字 2枚)		手書	
166	自由哲学の二つの伝統			1綴(400字 3枚)		手書	
167	自由主義の理念			1綴(200字 60枚)		手書	
168	近代的自由(市民的自由)の成立			1綴(400字 3枚)		手書	
169	自由経済“市場経済”資本主義経済			1綴(400字 2枚)		手書	
170	我々はなぜ自由経済を守らねばならないのか？(草稿)			1綴(400字 33枚)		手書	
171	健全な自由主義経済の擁立			1綴(400字 3枚)		手書	
172	自由経済システムの原点―アダム・スミスの考え方―			1綴(400字 5枚)		手書	
173	道があって歩んだのではなく 歩んでうちに道ができたのである			1綴(400字 8枚)		手書	
174	奨励したり制限したりするいつさいの体系は社会の進歩の速度をにぶらせる			1綴(400字 8枚)		手書	
175	急速に自由のシステムの一般的諸原則を明確にする必要			1綴(200字 4枚)		手書	
176	80年代日本の経済最大の課題は、自然的、自由な社会の維持である			1綴(400字 6枚)		手書	
177	秩序の存在			1綴(400字 3枚)		手書	
178	自発的努力の結果			1綴(400字 2枚)		手書	
179	自由社会における政府の役割			1綴(400字 2枚)		手書	
180	W. レプケが「人間の集まり住む もっとも喜ばしい形と讀えたあるスイスの村」			1綴(400字 3枚)		手書	
181	自由と平等―学生との対話に因んで―			1綴(400字 20枚)		手書	
182	自由主義と社会主義―なぜ社会主義を選ぶか、なぜ社会主義を捨てるのか―			1綴(400字 37枚)		手書	

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
183	社会主義の魅力			1綴(200字 3枚)		手書	
184	二者択一 自由主義経済か社会主義経済かー			1綴(200字 23枚)		手書	
185	自由経済か計画経済か			1綴(400字 3枚)		手書	
186	基本的人権の思想について考える			1綴(400字 3枚)		手書	
187	自由経済と社会主義経済の優劣			1綴(400字 8枚)		手書	
188	統制から自由への流れの変化			1綴(400字 3枚)		手書	
189	財産権は三大人権の一つである			1綴(400字 2枚)		手書	
190	民主主義論			1綴(400字 13枚)		手書	
191	民主主義の意味			1綴(200字 3枚)		手書	
192	自由主義と民主主義			1綴(400字 5枚)		手書	前半 欠
193	民主主義とは			1綴(400字 7枚)		手書	
194	民主主義だけで自由秩序は守れない			1綴(200字 4枚)		手書	
195	民主主義だけで自由は守れない			1枚(400字 1枚)		手書	
196	民主主義と自由主義			1綴(400字 8枚)		手書	
197	民主主義と自由主義			1綴(400字 10枚)		手書	
198	経済の倫理的基礎(ビジネス・プリンシプル)			1綴(400字 5枚)		手書	
199	所得分配の問題ーレブケに基いてー			1綴(400字 23枚)		手書	
200	デモクラシーの擁護論の検討			1綴(400字 2枚)		手書	
201	相対主義ーデモクラシーの悲劇			1綴(400字 3枚)		手書	
202	法と自由 (覚書)			1綴(400字 19枚)		手書	
203	ミルの「自由論」			1綴(200字 6枚)		手書	
204	なぜ政治家に敵視的知識が必要なのかーオルテガ…よりー			1綴(400字 6枚)		手書	
205	中曽根氏の“新自由主義”			1綴(400字 4枚)		手書	
206	孤立無援 (未完)			1綴(400字 2枚)		手書	
207	不公平な感情論			1綴(200字 4枚)		手書	
208	二値的な考え方			1綴(B5 13枚)		手書	
209	諸問題又は方法論			1綴(A5 21頁)		手書	

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
209(細目)	ストライキ権(スト権)は道徳的に是認するか?						
209(細目)	天道(自然)と人道の別						
209(細目)	マルクスの唯物論的弁証論						
209(細目)	いわゆる「自由世界」―必然と自由世界―						
210	日本における自由の危機			1綴(A5 3頁)		手書	
211	アダム・スミスが提示した自由の体系における政府の三つの任務			1綴(400字 3枚)		手書	
212	「自由」についての諸考察			1冊(ノート 1冊)		手書	
213	スミスの「自由体系」において留意すべき三つの点			1綴(400字 11枚)		手書	
214	秩序ある無政府 (レプケ)			1綴(400字 7枚)		手書	
215	自由経済について―スミス『道徳感情論』『富国論』フリードマン『選択の自由』より			1綴(400字 8枚)		手書	
216	自由(経済)に関する諸家言摘録			1綴(400字 8枚)		手書	
217	科学の価値―科学者の任務―価値判断についての一つの価値判断―相対主義の結末(レプケ)			1綴(400字 10枚)		手書	
218	歯止めなきデモクラシーの危機			1綴(400字 10枚)		手書	
219	ケインズ派財政政策に対する フリードマン、ハイエク、レプケの考え方			1綴(400字 88枚)		手書	
220	日本の民主主義をどう理解すべきか			1枚(400字 1枚)		手書	
221	平等な扱いと平等にすることとの別			1綴(400字 3枚)		手書	
222	自由党と自由主義 (未完)			1綴(400字 8枚)		手書	
223	自由党の保守主義と自由主義と民主主義の関係を考えるヒント			1綴(400字 2枚)		手書	
224	民主主義、自由主義、保守主義の関係			1綴(400字 7枚)		手書	
225	「自由」の基礎			1綴(400字 5枚)		手書	
226	智力家臣という病の一例			1枚(400字 1枚)		手書	
227	絶対主義の悲劇			1綴(400字 3枚)		手書	
228	保守主義、自由主義、民主主義とは			1綴(400字 5枚)		手書	
229	法と命令との区別			1綴(400字 3枚)		手書	
230	自由とは何か―自由といふ語のいろいろな用法―			1綴(200字 26枚)		手書	
231	理性の思い上がりについて―トインビー、紀平、ハイエク、レプケより―			1綴(400字 3枚)		手書	

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
232	個人目的と集团的利益			1綴(400字 15枚)		手書	
233	自民党の保守主義、自由主義、民主主義の関係			1綴(400字 6枚)		手書	
234	自由社会における政府の役割			1綴(400字 2枚)		手書	
235	自由経済、資本主義に関する覚書			2冊(ノート 2冊)		手書	
(2) 社会・共産主義							
236	政権は社会党に渡すべきか		昭和32年	1綴(B5 38頁)		謄写	
237	「経済表」に関する二つの論文—社会主義との袂別—		昭和36年	1袋(A5 47頁)		活版 校正	
237(細目)	「櫛田民蔵氏の経済表批評を評す」昭和2年筆						
237(細目)	「ケネーの経済表の種類について」昭和3年筆						
238	〔欠番〕						
239	低開発国と社会主義体制		昭和40年5月1日	1冊(A5 4頁)		活版	
240	日本社会党の本質—その空想性と欺瞞性—		昭和42年4月27日	1綴(B5 17頁)		タイプ	
241	第一回世界反共会議に出席して		昭和42年10月	1綴(B5 40頁)		タイプ	
242	社会主義体制の理想と現実		昭和44年11月21日	1綴(A5 10頁)		活版	
243	憲法—社会主義—自由 自由民主党 (中央政治大学院 研修資料)		昭和44年6月	1綴(B6 18頁)		活版	
244	日本共産党の主張と現実性—10篇		昭和44年	1冊(ノート B5 1冊)		手書	
244(細目)	「日本共産党」不破哲三—摘要と批判						
244(細目)	「暴力」の絶滅は共産主義の基本理念 成田十利						
244(細目)	共産主義の理念と自由の問題 榊 利夫						
244(細目)	社会主義・共産主義と私的所有の問題 小菅昭三						
244(細目)	議会制民主主義と日本共産党						
244(細目)	安保廃棄後の日本経済 宇野三郎						
244(細目)	集団農業の成績(自留地、集団化過程における悲劇、青天の霹靂農民一揆とスターリンの退却						
244(細目)	全学連(プロ学同、共学同、反帝学評)						
244(細目)	日本共産党第十一回大会決議案						
244(細目)	(外)						

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
245	欺瞞にみちた「共産党の宗教改革」		昭和45年2月	1綴(B6 5頁)		活版	自由民主党 宗教問題懇談会
246	社会主義(共産主義)に反対し、自由民主主義を守る理由		昭和45年3月31日	1綴(B6 4頁)		活版	自由民主党 特別通信教育参考資料
247	社会主義における自由の問題—2篇		昭和45年4月	1冊(ノート B5 1冊)		手書	
247(細目)	「社会主義における経済と人間」『世界』昭和45年4月号 正村公宏、佐藤経明、平田清明氏の諸論への批判						
247(細目)	レイモン・アロン『自由論』から						
248	社会主義体制批判—その理想と現実— 社会主義理論に先行するもの		昭和45年6月	1綴(B6 47頁)		活版	自由民主党 研修資料
249	社会主義と共産主義		昭和45年8月7日	1綴(A5 12頁)		活版	『政策月報』176号 抜粋
250	『マルクス「資本論」—解説と批判』(伊沢勝蔵著)の跋		昭和45年10月20日	1冊(B6 130頁)		活版	跋6頁
251	社会主義理論の前提 資本主義を悪とし社会主義を善とする		昭和46年6月15日	1綴(B6 13頁)		活版	自由文教人連盟中央本部
252	日本共産党への疑点 (1)		昭和48年3月10日	2綴(同文)(B6 32頁)		活版	時流シリーズ 第1集 時流社
253	日本共産党への疑点 (2) 農業、農民はどうなるか		昭和48年4月10日	1綴(B6 32頁)		活版	時流シリーズ 第2集 時流社
254	共産党の矛盾と盲点		昭和48年6月9日	1綴(B5 33頁)		タイプ	金曜会 部内参考資料
255	共産党の虚像と実像		昭和48年6月25日	1冊(B6 16頁)		活版	『前進』前進同志会
256	計画経済と国民の欲求		昭和48年10月	1綴(B5 6頁)		活版	
257	共産主義(社会主義)体制と自由の問題		昭和49年2月21日	1綴(B5 15頁)		活版	
258	日本における社会主義への道(初版)について		昭和40年4月	1綴(B5 4枚)		手書	月刊「社会党」臨時増刊のノート
259	ユートピア信仰の危機 アロンとマルクーゼのテレビ討論—		昭和48年3月8日	1綴(400字 11枚)		手書	
260	共産主義の理想と現実のひらき		昭和48年3月29日	1綴(400字 10枚)		手書	
261	社会主義体制のもとでなぜ国民の自由がなくなるか		昭和48年5月17日	1綴(400字 15枚)		手書	
262	共産体制と自由の問題		昭和49年2月19日	1綴(400字 31枚)		手書	
263	共産主義・社会主義体制と自由の課題(講義案)		昭和49年3月1日	1綴(200字 3枚)		手書	秋田研修会の講義案
264	緊張緩和と外交のかげり		昭和49年3月19日	1綴(200字 6枚)		手書	
265	共産体制と自由		昭和49年3月	1綴(200字 12枚)		手書	
266	アンドレ・ジイドと共産主義		昭和49年4月11日	1綴(200字 9枚)		手書	
267	共産国家に言論の自由はない		昭和49年4月21日	1綴(400字 3枚)		手書	

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
268	社会主義論法に対して		昭和50年7月	1綴(B6 2枚)		手書	『経済論壇』昭和50年7月号
269	マルクスのめざした未来社会		昭和52年8月	1綴(400字 13枚)		手書	
270	共産主義経済の暗礁		昭和54年2月27日	1枚(B4 1枚)		タイプ	共産主義研究講座 講義要綱
271	「身近に顔出す国家に驚き―訪中豆記者印象記―朝日記事を読んで		昭和53年5月7日	1枚(200字 1枚)		手書	
272	社会科の先生の話		昭和57年1月20日	1枚(400字 1枚)		手書	
273	断片 読書評(有斐閣「書斎の窓」)		昭和58年5月19日	1枚(1枚)		手書	
274	社会主義経済の直面する道徳的な知的な問題		昭和58年11月26日	1綴(400字 9枚)		手書	
275	「自由な社会主義」とか…		昭和60年7月29日	1枚(200字 1枚)		手書	『月曜報論』「社会主義の原型」 によせて
276	社会主義経済と市場経済			1綴(200字 26枚)		手書	
277	社会主義経済の生産性―資源配分の不適正と生産物の偏在による 浪費―			1綴(400字 6枚)		手書	
278	社会主義のもとにおける自由			1綴(400字 16枚)		手書	
279	社会主義国家が極端な独裁国家となるわけ			1綴(400字 5枚)		手書	
280	「われわれは何故社会主義を選ぶのか」「日本における社会主義への 道」批判			1綴(400字 4枚)		手書	
281	日本社会党「日本における社会主義への道」批判摘録			1綴(400字 4枚)		手書	
282	社会主義経済への弁証法的飛躍必然論の検討			1綴(400字 14枚)		手書	
283	社会党の性格について			1綴(400字 9枚)		手書	
284	日本社会党の本質―その空想性と欺瞞性―			1綴(A5 17頁)		タイプ	
285	日本社会党の本質―その空想性と欺瞞性―			1綴(B4 14頁)		タイプ	
286	日本共産党の目的			1綴(200字 8枚)		手書	
287	「市民的自由」に対する日本社会党と日本共産党の立場			1綴(400字 11枚)		手書	
288	再び共産党自由路線への疑問			1綴(400字 2枚)		手書	
289	統制論者の根拠―左翼イデオロギーのものを別にして			1綴(200字 5枚)		手書	
290	計画経済的発想の産物			1綴(200字 15枚)		手書	
291	マルクス・エンゲルスの階級なき社会の未来像			1綴(400字 4枚)		手書	
292	河上肇博士の「資本家的思想の一例」批判			1綴(400字 12枚)		手書	

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
293	マルクス「労働価値説」の吟味			1綴(A5 18頁)		手書	
294	経済発展段階説の基本的誤り			1綴(400字 4枚)		手書	
295	経済の発展段階説			1綴(400字 3枚)		手書	
296	社会主義と戦争責任について—予算委員会での発言—			1綴(400字 3枚)		手書	
297	対談録(宇都宮氏の「意見書」をめぐって)			1綴(200字 105枚)		手書	
298	〔欠番〕						
299	日本における自由の危機			1綴(A5 3頁)		活版	
300	共産主義国に自由はあるのかないのか			1綴(400字 12枚)		手書	
301	社会主義と個人的自由(河上肇博士)			1綴(400字 7枚)		手書	
IV 政治、政党、議会、速記録							
(1) 政治							
302	第90回帝国議会(昭和21年7月)議事録		昭和21年7月	1綴(議事録 13枚)		活版	
302(細目)	1.労働関係調整法案第一議会における質疑(7月13日)						
302(細目)	2.昭和21年度改定歳入歳出総予算案に対する質疑 7月31日						
303	社会党に訴える三つの論文		昭和31年6月5日	1綴(新書版 56頁)		活版	山本経済会 発行
304	社会・経済政策の盲点—衆議院予算委員会に於ける一般質問—		昭和33年2月26日	1綴(新書版 50頁)		活版	
305	池田内閣への期待	財政研究会	昭和35年8月1日	1綴(ダブロイド 1頁)		活版	財研通信 第167号
306	我が政治理想—立候補挨拶—		昭和35年11月	1綴(400字 16枚)		手書	
307	5月19、20日事件の反省—国会正常化の道—		昭和45年	1綴(400字 5枚)		手書	
308	いわゆる「企業ぐるみ選挙」とは何か		昭和49年7月4日	1綴(200字 5枚)		手書	
309	「新しい日本を考える会の総合的ビジョン案」		昭和51年6月	1綴(200字 7枚)		手書	
310	外交、安全保障の諸問題		昭和40年	1冊(ノート 1冊)		手書	
311	鯨岡代議士の論文(朝日「論壇」6月24日)を読んで		昭和51年6月	1綴(400字 5枚)		手書	
312	鯨岡代議士の論文を読んで		昭和51年6月	1綴(200字 9枚)		手書	
313	ロッキード事件の究明は最高の政治課題か—鯨岡氏の論文を読む—		昭和51年6月	1綴(400字 6枚)		手書	
314	ロッキード事件の究明は最高の政治課題か—鯨岡氏の論文を読む—		昭和51年6月	1綴(400字 6枚)		手書	
315	自由社会における政府の役割		昭和53年11月18日	1綴(400字 2枚)		手書	

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
316	自由市場経済を維持する為の政府(広義)の役割とその活動の限界		昭和53年12月17日	1綴(400字 13枚)		手書	
317	自由市場経済を維持する為の政府の役割とその活動の限界(覚書)		昭和53年11月21日	1綴(400字 5枚)		手書	
318	大平首相の進退		昭和54年11月	1綴(400字 5枚)		手書	
319	混乱の責任について思う		昭和54年11月3日	1綴(400字 4枚)		手書	
320	今後の政治の動き		昭和55年1月	1綴(400字 4枚)		手書	経済論壇 55年1月号 掲載
321	自民党起草委立案の「倫理憲章」案について		昭和55年4月21日	1綴(1枚)		手書	
322	ハイジャック対策を事前に		昭和55年10月2日	1枚(400字 5枚)		手書	
323	ハイジャック対策を事前に		昭和55年10月2日	1綴(400字 7枚)		手書	
324	私の提言—ハイジャック対策を今のうちに用意すること—		昭和55年	1綴(400字 5枚)		手書	
325	法要案内(明朗会)に対する返事		昭和56年8月	1綴(B5用箋 2枚)		手書	
326	戦後歴代内閣		昭和57年	1綴(B4 4枚)		手書	
327	河本候補よ、偽善者たる勿れ		昭和57年11月12日	1綴(400字 4枚)		手書	
328	自民党の民主主義、自由主義、保守主義の干係(最終案)		昭和58年10月31日	1綴(400字 8枚)		手書	
329	今次総選挙についての所感		昭和58年12月21日	1綴(400字 4枚)		手書	
330	自由社会を守るためのハイエク教授の議会改革案		昭和60年2月1日	1綴(400字 7枚)		手書	
331	私の接触した政治家の今昔		昭和60年3月19日	1綴(400字 3枚)		手書	
332	「政治家」という名の暴君			1綴(400字 5枚)		手書	
333	多数意見と少数意見			1綴(400字 2枚)		手書	
334	出来ない約束をするな			1綴(400字 2枚)		手書	
335	言論弾圧の戦前と戦後—私の経験から—			1綴(400字 3枚)		手書	
336	占領下の政治状況			1綴(400字 2枚)		手書	
337	「日本政治権力の分析と展望」を読んで			1綴(B4 2枚)		タイプ	
338	今後の政治の動き			1綴(400字 4枚)		手書	
339	石橋、池田両氏と私の関係について			1綴(400字 3枚)		手書	
340	治安維持力が試されている			1綴(200字 2枚)		手書	
341	地域給制度への苦言			1綴(B5 3頁)		手書	
342	ネスティング K.バンダ教授—誰が真のナショナリストか			1冊(ノート 1冊)		手書	

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
343	今後の政治の動き			1綴(400字 4枚)		手書	
344	安全保障問題(国民の合意を得るための姿勢について)			1冊(ノート 1冊)		手書	
(2) 政党							
345	保守新党の政策		昭和29年9月	1綴(A5 2頁)		活版	再建 昭和29年9月 より
346	保守合同の神話		昭和29年	1綴(A5 8頁)		活版	
347	保守合同の神話		昭和30年9月	1綴(A5 8頁)		活版	
348	保守新党の政策		昭和30年10月21日	1綴(B4 2頁)		謄写	
349	保守合同の展望		昭和30年10月28日	2枚(同文)(B4 1頁)		謄写	
350	社会党は革命の幻想を一掃せよ—政策綱領からみたその性格—		昭和30年12月	2綴(同文)(B5 6頁)		活版	
351	社会党及び総評の幹部に訴う—生産性向上運動党に関連して—		昭和31年3月21日	1綴(400字 11枚)		手書	
352	社会党及び総評の幹部に訴う—金の卵を産むアヒルを殺すな—		昭和31年4月	1綴(新書版 16頁)		活版	
353	岸氏はこの際総裁候補に立つべきではない		昭和31年11月	1枚(A5 4頁)		活版	
354	総裁選挙繰り上げに反対する—総務懇談会における発言要旨—		昭和33年12月22日	1綴(400字 4枚)		手書	
355	池田内閣への期待		昭和35年8月1日	1綴(ダブロイド 1頁)		活版	財研通信 昭和35年8月1日発行
356	総選挙対策		昭和35年8月13日	1綴(B5 12枚)		手書	
357	レプケ教授と自民党		昭和36年5月	1綴(B5 4頁)		活版	「経済従来」昭和36年5月
358	自民党への国民の信頼を一挙に回復する道		昭和54年11月1日	1綴(400字 2枚)		手書	
359	自民党への国民の信を一挙に回復する道はこれ以外にない		昭和54年11月6日	1綴(400字 2枚)		手書	
360	総理指名についての意見 具申		昭和55年6月27日	1綴(400字 2枚)		手書	
361	具申		昭和55年6月27日	1綴(400字 2枚)		手書	
362	自民党の民主主義・自由主義・保守主義との関係—講義要旨		昭和58年11月	1綴(400字 5枚)		手書	
363	自民党の民主主義・自由主義・保守主義の関係		昭和58年11月	1綴(400字 8枚)		手書	
364	自民党と他の政党とを分つ根本的な特徴は何か (問答式)			1綴(便箋 11枚)		手書	
365	自民党と他の政党との根本的ちがい			1綴(400字 4枚)		手書	
366	自民党と共・社・民社・公明党との根本的なちがい			1綴(400字 3枚)		手書	
367	自民党員と社会党・共産党・民社・公明党員とは人間の形を異にする			1綴(400字 3枚)		手書	

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
368	日本の政党の生ひたち			1枚(400字 1枚)		手書	
369	党の基本理念・組織・政策についての提言			1綴(B4 25枚)		タイプ	
370	自民党の性格(覚書)			1綴(400字 2枚)		手書	
371	新党(自由党)政策体網(山本案)			1綴(A4 4枚)		手書	
372	保守新党の新政策を語る			1袋(400字 20枚)		手書	
373	党内派閥解消の道			1綴(便箋 4枚)		手書	
374	自民・共産の対決点—私有財産制の尊重が廃止か—			1綴(200字 4枚)		手書	
(3) 議会							
375	議会は圧力団体と選挙民へのサービス機関か			1綴(B5 4頁)		活版	日本協会発行「時局時報」掲載
376	国会での偽証をどうみるか 朝日の「忠誠と偽証」を読んで			1綴(400字 5枚)		手書	
377	憂うべき今日の議会の機能			1綴(400字 3枚)		手書	
378	憂うべき今日の議会の立法機能			1綴(400字 2枚)		手書	
379	議員諸君に望む			1綴(400字 2枚)		手書	
380	法は「立法」よりも古い			1綴(400字 5枚)		手書	
381	F. A. ハイイク教授の議会制度改革案要旨			1綴(400字 7枚)		手書	
382	F. A. ハイイク教授の議会制度改革案要旨			1綴(400字 7枚)		手書	
383	F. A. ハイイク教授の議会民主主義制度改革草案			1綴(400字 6枚)		手書	
384	昭和28年 議会における質問草稿			1冊(ノート 1冊)		手書	
385	昭和29年 議会関係摘録			1冊(ノート 1冊)		手書	
386	昭和30年 議会における問題点			2冊(ノート 2冊)		手書	
387	国会質問要項			1冊(ノート 1冊)		手書	他にレブケ、エアハルトの翻訳あり
388	議会民主主義制度			1綴(400字 4枚)		手書	
389	今日の議会制民主主義が失敗した理由			1綴(200字 5枚)		手書	
390	藤山長官への質問要旨			2冊(ノート 2冊)		手書	
(4) 速記録							
391	第90回帝国議会 速記録—労働関係調整法案に対する質疑—		昭和21年7月13日	1綴(B5 3頁)		活版	

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
392	第九十回帝国議会、昭和二十一年度改定歳入歳出総予算案に対する山本勝市君(日本自由党)の質疑		昭和21年7月31日	1綴(「官報」11頁)		活版	
393	〔欠番〕						
394	第90回帝国議会速記録―昭和21年度改定予算案に対する質疑―		昭和21年7月31日	2綴(「官報」12頁)		活版	
395	第90回帝国議会速記録―昭和21年度改定予算案に対する討論―		昭和21年8月17日	1綴(「官報」3頁)		活版	
396	国会 速記録―経済安定委員会・独占禁止法に関する質疑―		昭和28年7月	1綴(「官報」32頁)		活版	
397	国会 速記録―独占禁止法及び公正取引の確保に関する法律改正案賛成演説		昭和28年7月25日	1綴(「官報」2頁)		活版	
398	第28国会 衆議院予算委員会 速記録		昭和33年2月26日	1綴(「官報」10頁)		活版	
399	物価問題等に関する特別員会議録		昭和41年6月1日	1綴(「官報」8頁)		活版	
400	物価問題等に関する特別員会議録		昭和41年6月1日	1綴(「官報」8頁)		活版	
401	第90回帝国議会速記録―昭和21年度改定歳入歳出総予算案に対する質疑及び討論―			1袋(「官報」32頁)		活版	391、392、398、399と重複
V 経済							
(1) 経済一般							
402	〔欠番〕						
403	ケネーの経済表の種類に就て	国民氏新文化研究所編	昭和3年2月	1綴(A5 11頁)		活版	時局国民精神読本第8輯
404	非常時局と経済生活		昭和12年11月20日	1冊(新書判 97頁)		活版	
405	統制解除の必要性についての認識程度	実業の日本社	昭和20年12月	1綴(400字 8枚)		手書	実業の日本 第49巻 第2号
406	日本経済再建の原則―自由主義経済の立場―		昭和21年2月1日	1綴(B5 7頁)		活版	
407	社会・経済政策の盲点―衆議院予算委員会における一般質問―		昭和33年2月26日	1綴(B6 50頁)		活版	
408	社会・経済政策の盲点―昭和33年2月26日 衆議院予算委員会における一般質問―		昭和33年2月26日	1綴(B6 50頁)		活版	
409	「経済表」に関する二つの論文―社会主義との袂別―		昭和36年4月11日	1綴(A5 47頁)		活版	山本叢書 第4号
410	「経済表」に関する二つの論文(自序)		昭和36年	1綴(400字 6枚)		活版	
411	レプケ教授は日本経済をどのように見たか		昭和36年8月15日	1綴(B5 8頁)		活版	日本経済調査報 第319号
412	レプケ教授は日本経済をどのように見たか―	日本政治経済調査会	昭和36年8月15日	1綴(B5 8頁)		活版	日本経済調査報 第319号

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
413	高度成長下の日本経済を診断する		昭和39年4月15日	1綴(B6 56頁)		活版	自由民主同志会発行
414	レブケ教授と自民党		昭和36年5月	1綴(A5 4頁)		活版	経済従来 昭和36年5月
415	レブケ教授は日本経済をどのように見たか	日本政治経済調査会	昭和36年8月15日	1綴(B5 10頁)		活版	日本経済調査報 第319号
416	高度成長下の日本経済		昭和39年8月	1綴(A5 16頁)		活版	政策月報 103号
417	有権者の皆さんに		昭和41年	1綴(400字 6枚)		手書	
418	なぜ政府の経済見通しは当たらないか—政府の長期経済計画批判		昭和52年11月	1綴(400字 49枚)		手書	
419	ハイエク教授の講演		昭和53年2月17日	1綴(400字 14枚)		手書	
420	M. フリードマンの『ガルブレイス批判』		昭和53年	1綴(400字 10枚)		手書	
421	目を覆うばかりの経済危機		昭和54年10月	1綴(400字 8枚)		手書	「経済往来」桜田武、西和夫氏の談を読んで
422	労賃率を持続的に増加させる唯一の道		昭和55年1月10日	1綴(400字 5枚)		手書	
423	宏池会 金曜研 メモ (当面の経済政策について)		昭和55年7月21日	1綴(400字 12枚)		手書	
424	M. フリードマン教授の講演と日経新聞論説主幹 鈴木幸夫氏の疑問について		昭和55年9月23日	1綴(400字 4枚)		手書	
425	自由主義経済思想の原点—アダム・スミスの『諸国民の富』—		昭和56年1月10日	1綴(400字 12枚)		手書	『国民同胞』昭和56年1月10日号
426	自由主義経済文明は必ずしも減びず		昭和56年12月23日	1綴(400字 5枚)		手書	
427	今日の豊かさは技術の結果ではない (ハイエクから)		昭和57年9月18日	1綴(3枚)		手書	
428	経済の盛衰を決定するもの		昭和58年1月22日	1綴(400字 7枚)		手書	
429	経済の盛衰を決定するもの (二)		昭和58年1月28日	2綴(400字 9枚)		手書	
430	警戒を要する事実		昭和58年1月	1綴(400字 5枚)		手書	
431	経済の繁栄衰退を決定するもの		昭和58年2月1日	2綴(400字 7枚)		手書	
432	経済の盛衰を決定するもの (一)		昭和58年2月16日	1綴(400字 5枚)		手書	
433	経済の盛衰を決定するもの		昭和58年2月25日	1綴(400字 4枚)		手書	
434	ジョージ・シュルツ著 “市場への信頼”		昭和58年3月11日	1綴(400字 3枚)		手書	
435	ローマ文明衰退の原因—L.. V. ミーゼスの解釈— ミーゼス「自由への決断」(村田稔雄訳)より		昭和58年9月	1綴(400字 4枚)		手書	
436	命令なき経済秩序—命令による経済秩序との比較—		昭和58年11月20日	1綴(400字 9枚)		手書	

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
437	周約的分業の前提		昭和58年11月20日	1綴(400字 12枚)		手書	
438	命令なき自発的経済秩序—それは現実に可能な唯一の経済秩序である—		昭和58年11月24日	1綴(400字 7枚)		手書	
439	資本主義経済システムは必然的に崩壊するものだろうか		昭和58年12月1日	1綴(400字 4枚)		手書	
440	経済の興隆・衰退を決定するもの—何よりも経済政策のよしあしによる—		昭和58年12月16日	1綴(400字 8枚)		手書	
441	経済の衰退を決する要因 (一)		昭和58年	1綴(400字 124枚)		手書	
442	高度分業の諸条件		昭和59年1月15日	1綴(400字 6枚)		手書	
443	気になる宮沢喜一氏の札幌での講演(資産倍増)		昭和59年5月9日	1綴(400字 6枚)		手書	
444	宮沢あいさつの誤報		昭和59年5月12日	1綴(400字 4枚)		手書	
445	アダム・スミス国富論の研究		昭和59年5月	1綴(400字 45枚)		手書	
445(細目)	重商主義体系についての結論						
445(細目)	重農主義体系						
445(細目)	生産的労働と不生産的労働						
445(細目)	地方的な性質を持つ公共土木事業は地方的な収入で維持						
445(細目)	分業について						
445(細目)	(その他)						
446	河本敏夫氏『内外経済の展望と日本の進路』(「自由民主」9月号)を読んで		昭和59年9月21日	1綴(400字 3枚)		手書	
447	河本企画庁長官『内外経済の展望と日本の進路』を読んで		昭和59年9月27日	1綴(400字 6枚)		手書	
448	河本企画庁長官『内外経済展望と日本の進路』を読んで		昭和59年10月26日	1綴(400字 6枚)		手書	
449	社会の自発的秩序は個人と意識的につくられた組織の両方からできていること		昭和60年1月15日	1綴(400字 6枚)		手書	
450	経済の政治化が諸悪の根源である		昭和60年3月31日	1綴(400字 5枚)		手書	
451	資本形成の類型について		昭和60年4月1日	1綴(400字 3枚)		手書	
452	アダム・スミス『国富論』から—我国が当面する困難を開くための指針		昭和60年6月19日	1綴(400字 5枚)		手書	
453	永遠の生命をもつ アダム・スミスの国富論		昭和60年6月21日	1綴(400字 6枚)		手書	
454	スミスの「自然的自由の体系」とは		昭和60年6月23日	1綴(400字 10枚)		手書	

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
455	経済永遠の課題		昭和60年10月9日	1綴(400字 4枚)		手書	
456	サンケイ新聞編集次長 清原武彦氏「日米問題をどう読むか」読後コメント		昭和60年11月14日	1綴(400字 1枚)		手書	「正論」昭和60年12月号
457	経済学方法論(ミーゼスから)考		昭和60年	1綴(400字 6枚)		手書	付 レプケ ハイエクから
458	経済の本質としての欲望充足の選択と制限		昭和60年	1綴(400字 82枚)		手書	
459	レプケ『ヒューマンイズムの経済学』の研究 I. II.		昭和34年2月	2冊(ノート 2冊)		手書	
460	経済思想史の概観			1綴(A5 18頁)		手書	
461	重農主義体系			1綴(400字 11枚)		手書	
462	経済の基礎的事実の認識			1綴(A5 20頁)		手書	
463	経済体制の選択			1綴(A5 16頁)		手書	
464	自由経済への転回			1綴(400字 8枚)		手書	
465	経済活動様式の変化適応			1綴(400字 2枚)		手書	
466	広汎な社会的分業の条件			1綴(400字 5枚)		手書	
467	安定化政策			1綴(400字 2枚)		手書	
468	分業に関する諸問題			1綴(400字 26枚)		手書	
469	驚くべき広汎複雑な分業—高い生産性の基礎—			1綴(400字 6枚)		手書	
470	経済政策要綱			1綴(B5 5頁)		謄写	(戦後かなり早い時期のもの)
471	経済政策要綱(案)			1綴(200字 8枚)		手書	
472	経済政策要綱(案)		(昭和20年カ)	1綴(B5 5頁)		謄写	
473	新総研「わが国経済の問題点と対策」を読む			1綴(400字 9枚)		手書	
474	金森久雄氏の「日本経済の現状と問題点」を読む			1綴(400字 5枚)		手書	
475	現在量と需要の調和—選択と限定の形式の種々相			1綴(200字 12枚)		手書	
476	経済の安定的進歩の道			1綴(400字 9枚)		手書	
477	経済生活における安定的進歩			1綴(200字 18枚)		手書	
478	経済的均衡の破壊—経済安定化の道—			1綴(400字 5枚)		手書	
479	経済の基礎事実の認識—経済の道徳的基礎—			1綴(A5 8頁)		手書	
480	経済の基礎事実の認識—経済行為の本質としての「選択」と「調和」—			1綴(A5 10頁)		手書	

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
481	経済の基礎事実の認識—限界効用説—			1綴(A5 23頁)		手書	
482	不況対策(メモ)			1冊(ノート 1冊)		手書	
483	不況対策—経済景気変動の緩和(メモ)			1冊(ノート 1冊)		手書	
484	アダム・スミスの見解			1綴(400字 4枚)		手書	
485	自由経済の道徳的基礎—レブケより—			1枚(400字 1枚)		手書	
486	レブケの「経済学」を参考に			1綴(400字 3枚)		手書	
487	経済秩序鶏の原則とその現象形態の峻別の必要—批判せらるべきものは原則そのものである—(レブケ)			1綴(400字 4枚)		手書	
488	経済の本質としての欲望充足の選択と制限(レブケ)			1綴(400字 4枚)		手書	
489	利己心の経済的作用の恩恵についてのA. スミスの信念			1綴(400字 3枚)		手書	
490	分業論			1綴(400字 20枚)		手書	
491	慢性インフレとその対策			1綴(400字 24枚)		手書	
492	経済の盛衰を決定するもの			1冊(ノート 1冊)		手書	
493	景気変動の論理 (レブケより)			1綴(400字 13枚)		手書	
494	日米関係を直視する(5) セオドア・ホワイトの発言について			1綴(400字 4枚)		手書	
495	経済問題解決の三つの型			1綴(400字 3枚)		手書	
(2) 経済と倫理							
496	シノプチック デリューションの犠牲者—マクロ経済学的政策の盲点—ハイエク		昭和53年3月24日	1綴(400字 4枚)		手書	
497	経済の倫理的基礎(ビジネスの原則)		昭和59年1月19日	1綴(400字 9枚)		手書	
498	経済の倫理的基礎		昭和59年1月20日	1綴(400字 8枚)		手書	
499	経済の倫理的基礎		昭和60年12月25日	1綴(400字 10枚)		手書	
500	ビジネスの道徳的基礎について		昭和61年2月28日	1綴(400字 5枚)		手書	
501	ビジネスの道徳的基礎について			1綴(400字 5枚)		手書	
502	分業の光と影			1綴(400字 5枚)		手書	
503	経済の道徳的基礎			1綴(200字 14枚)		手書	
(3) 政治と経済							
504	貧富の問題—如何にして労働者の生活をよくすることができるか—		昭和34年1月	1綴(400字 39枚)		手書	

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
505	貧富の問題—如何にして労働者の生活をよくすることができるか—		昭和34年3月	1綴(B5 16頁)		活版	
506	業種別、地域別の所得格差是正の問題		昭和35年12月25日	1綴(400字 11枚)		手書	
507	保守党最大の課題		昭和37年2月27日	1綴(400字 10枚)		手書	
508	保守党に与えられた課題	自由民主党	昭和37年3月	1綴(A5 4頁)		活版	政策月報 74号 抜刷
509	政府干渉をやめさせるための最も徹底的な方法—政府の統計を廃止すること—		昭和51年3月6日	1綴(400字 3枚)		手書	
510	「時の動き政府の窓」に対する所感—財政の所得再分配機能・景気調整機能について		昭和53年3月20日	1綴(B4 5枚)		手書	
511	自由社会における政府の役割		昭和55年	1綴(400字 50枚)		手書	
512	自由社会における政府の役割と市場の役割 M. フリードマンを参考に		昭和56年3月8日	1綴(400字 12枚)		手書	
513	社会正義の名による市場介入		昭和58年12月2日	1綴(400字 4枚)		手書	
514	「社会正義」という名の政府の市場介入の害		昭和58年12月2日	1綴(400字 8枚)		手書	
515	最大の禍根は経済の政治化である		昭和58年12月26日	1綴(400字 10枚)		手書	
516	最大の禍根は経済の政治化である		昭和58年12月26日	1綴(400字 7枚)		手書	
517	60年度予算		昭和60年2月10日	1綴(400字 5枚)		手書	
518	新しい経済政策(宮沢氏—所謂資産倍増論)		昭和60年6月15日	1綴(400字 4枚)		手書	
519	宮沢喜一氏の『新しい経済政策』(中間報告)を読む		昭和59年10月28日	1綴(400字 6枚)		手書	
520	市場メカニズムと両立する政府活動と両立しない政府活動の区別			1綴(A5 12頁)		手書	
521	財政赤字とインフレの結びつき—一般に信じられているほどには強くない			1綴(400字 6枚)		手書	
522	増税による財政再建に反対—自由主義政府の役割を反省せよ—			1綴(400字 8枚)		手書	
523	スイスの平和と繁栄の秘密			1綴(400字 26枚)		手書	
VI 市場、物価、独禁法、労組、中小企業、再販論							
(1) 市場							
524	米穀自由取引論—食糧危機の打開策—		昭和21年2月25日	1綴(B5 3頁)		活版	日本経済情報 第5巻第3号 創造社
525	自由主義市場経済の擁護		昭和36年3月11日	1綴(B5 43頁)		活版	『山本叢書』第3号
526	下村・美濃部氏の経済成長論争について		昭和36年12月20日	1綴(400字 6枚)		手書	
527	独占と競争—諸家の摘要—		昭和45年	1冊(ノート 1冊)		手書	

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
528	計画経済と国民の欲求		昭和48年9月17日	1綴(A5 6頁)		活版	政策月報 213号 抜刷
529	経済学の認識の限界―市場という計算の大家に代る力をもつ者はいない―		昭和48年10月11日	1綴(400字 6枚)		手書	
530	不況と失業を解決する本当の道		昭和52年7月1日	1綴(400字 8枚)		手書	
531	統制は統制を呼ぶ―例―生糸の一元輸入制について		昭和52年7月4日	1綴(B4 5枚)		手書	
532	市場のメカニズム回復の必要性―貿易黒字について―		昭和52年11月17日	1綴(400字 3枚)		手書	
533	自由市場経済の力を信じよう		昭和52年12月11日	1綴(400字 8枚)		手書	
534	西側諸国の直面するジレンマ		昭和52年12月	1綴(400字 6枚)		手書	
535	「十年後の日本経済研究」難波田春夫氏ほかを読んだの疑点		昭和53年1月	1綴(400字 2枚)		手書	
536	市場の力		昭和53年2月5日	1綴(400字 62枚)		手書	
537	われわれはなぜ自由な市場経済体制を維持せねばならないか(講義案)		昭和53年2月7日	1綴(400字 15枚)		手書	
538	市場経済の機能を信じよう		昭和53年5月27日	1綴(400字 6枚)		手書	
539	複雑広汎な分業社会		昭和55年10月15日	1綴(400字 8枚)		手書	
540	公正な分配とは?		昭和53年11月14日	1綴(400字 6枚)		手書	
541	諸価格の三つの機能と、この三機能は密接に関連して分離できないということ		昭和57年2月4日	1綴(400字 3枚)		手書	
542	市場メカニズムの重要性		昭和58年2月1日	1綴(400字 4枚)		手書	
543	ジョージ・シュルツ、ケネス・ダム著『市場への信頼』を読んで		昭和58年2月12日	1綴(400字 5枚)		手書	
544	ジョージ・シュルツ著『市場への信頼』から(1983年1月 サイマル出版)		昭和58年3月11日	1綴(400字 3枚)		手書	
545	マイナス経済との戦い―経済学・巨人たちの百年―を読んで		昭和58年3月	1綴(400字 4枚)		手書	
546	市場経済は永遠の秩序原則		昭和58年8月24日	1綴(400字 5枚)		手書	
547	税制・行政改革のためにも、財政再建のためにも、市場の役割を見直すことが先決		昭和60年1月31日	1綴(400字 7枚)		手書	
548	サロー、ハイル・ブローナー『経済学』を読む		昭和60年1月	1綴(400字 7枚)		手書	
549	自由市場社会への確信		昭和60年3月29日	1綴(400字 3枚)		手書	
550	業界介入の産業政策について―経団連の提言に関連して		昭和60年5月15日	1綴(400字 2枚)		手書	
551	A. スミスが自由市場経済を信頼する根拠、輸入制限と国内市場の独占関係		昭和60年6月24日	1綴(400字 8枚)		手書	

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
552	市場(価格機構)のはたらき			1綴(400字 4枚)		手書	
553	われわれの態度は単なる現状維持でもなく自由放任でもない			1綴(400字 5枚)		手書	
554	企業者利潤の分析—レブケ『自由社会の経済学』より 抄訳			1綴(400字 3枚)		手書	
555	自由経済の必要と条件—日経連新人社員のための講義案—			1綴(400字 6枚)		手書	
556	必要なことは市場機能の回復			1綴(400字 2枚)		手書	
557	大事なものは市場経済の健全化—無用の戯論をやめよ—			1綴(400字 2枚)		手書	
558	自由市場経済の調整力を信ぜよ			1綴(400字 6枚)		手書	
559	市場への信頼(シュルツ・ダム)より			1綴(400字 10枚)		手書	
560	競争の異なる二つの意味			1綴(400字 4枚)		手書	
561	市場への政府介入の結果—統制波及の法則			1綴(400字 5枚)		手書	
562	市場の失敗			1綴(400字 3枚)		手書	
563	市場の失敗と政府の失敗			1綴(400字 5枚)		手書	
564	自由取引を認めない理由			1綴(400字 2枚)		手書	
565	失業と自由市場			1綴(400字 8枚)		手書	
566	知力過信の一例としての技術マニア			1綴(400字 3枚)		手書	
567	市場とは何か、価格と生産費(覚書)			1冊(ノート 1冊)		手書	
(2) 物価							
568	物価体系の確立及価格統制の方針についてのコメント		昭和21年2月26日	1綴(B5 12頁)		手書	
569	政治に必要な経済の基礎知識		昭和33年	1綴(A5 5頁)		活版	
570	物価政策についての提言		昭和38年7月31日	1綴(400字 4枚)		手書	
571	物価政策についての提言		昭和38年7月31日	1綴(B4 2枚)		タイプ	
572	物価政策についての提言		昭和38年7月31日	1綴(B5 3頁)		タイプ	
573	物価政策についての提言		昭和38年12月	1綴(B5 5頁)		タイプ	
574	物価安定への道		昭和39年3月6日	1綴(B4 4頁)		タイプ	
575	“物価戦争”を読んでの所感(読売新聞)		昭和41年1月3日	1冊(A5 3頁)		手書	
576	物価安定の問題—為参議院火曜会—		昭和41年2月	3冊(A5 3冊)		手書	
577	今日の物価問題		昭和41年3月30日	1綴(B5 32頁)		謄写	

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
578	今日の物価問題		昭和41年3月30日	1冊(ノート 1冊)		手書	
579	今日の物価問題		昭和41年5月	1綴(A5 13頁)		活版	
580	物価指数論		昭和41年	1冊(A5 1冊)		手書	
581	卸物価の横ばい		昭和44年2月	1綴(400字 1枚)		手書	
582	国会の物価論議に失望		昭和44年	1綴(200字 3枚)		手書	
583	経済時事三題		昭和46年8月	1綴(A5 6頁)		活版	政策月報 181号 抜刷
584	標準価格は人心を惑わすだけ、物価と価格を混同するな		昭和49年2月24日	1綴(200字 3枚)		手書	
585	高橋亀吉氏の物価対策についての私の見解		昭和49年3月	1綴(200字 8枚)		手書	
586	物価対策についての高橋亀吉氏と私との見解のちがひ		昭和49年5月15日	1綴(200字 11枚)		手書	
587	物価対策についての高橋亀吉氏と私との見解のちがひ		昭和49年3月	1綴(B4 2枚)		タイプ	
588	物価とマネーサプライ		昭和49年4月2日	1綴(200字 5 枚)		手書	
589	もののねうち		昭和49年	1綴(B5 7枚)		手書	
590	政府による家賃統制の弊害—家賃統制は住宅事情を悪化させる—		昭和51年3月6日	1綴(400字 6 枚)		手書	
591	私の見解と問題		昭和53年4月14日	1枚(400字 1枚)		手書	
592	通貨政策の目標—通貨の安定に置き、雇用面への効果に置くべきではない		昭和53年10月11日	1綴(400字 7枚)		手書	
593	生産費・価格・独占についての誤った考え方		昭和54年3月24日	1綴(400字 5枚)		手書	
594	〔欠番〕						
595	大蔵省財政史室編「終戦直後の財政・通貨・物価政策」を読んで		昭和60年9月	1綴(400字 11枚)		手書	
596	物価の問題			1綴(400字 23枚)		手書	
597	今日の物価問題			1綴(B5 25頁)		タイプ	
598	物価と価格			1綴(200字 8枚)		手書	
599	物価と価格とを混同しないこと			1綴(200字 20枚)		手書	
600	相対価格の情報伝達機能			1綴(400字 6枚)		手書	
601	価格機構が果たす役割と政府が果たす役割			1綴(400字 5枚)		手書	
602	政府で価格を決めるとどうなるか(2)			1綴(200字 7枚)		手書	
603	地代家賃統制令			1枚(400字 1枚)		手書	

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
604	こうすれば物価は安定する			1綴(200字 19枚)		手書	
605	物価高の原因と解決—三教授の見解—			1綴(200字 6枚)		手書	
606	過去の物価史			1綴(200字 2枚)		手書	
607	総合物価指数の必要			1綴(400字 5枚)		手書	
(3) 独禁法							
608	独禁法改正の前提—OECD金融財政局 ジスレル女史説明要旨にふれて—		昭和29年9月4日	1綴(B5 14頁)		手書	
609	独占禁止法改正試案の骨子について註記		昭和49年9月	1綴(B5 11頁)		手書	
610	競争秩序破壊スル公取委案		昭和49年12月20日	1枚(新聞(投書))		活版	
611	独禁法の取扱いは慎重の上にも慎重に		昭和50年2月	1(400字 4枚)		手書	朝日「論壇」投稿
612	独禁法改正を支持する学者グループについて		昭和50年7月30日	1(400字 7枚)		手書	
613	独禁法改正の問題点—独禁法改正を支持する学者グループについて—		昭和50年7月30日	1(B4 3枚)		タイプ	
614	独禁法改正の問題点		昭和50年8月4日	1(B4 7枚)		手書	
615	独禁法改正の問題点—根本から考え直すべきだ—		昭和50年8月5日	1(B4 4枚)		タイプ	
616	独禁法改正の諸問題(第一稿)		昭和51年2月	1(400字 10枚)		手書	
617	独禁法改正の諸問題 第二稿		昭和51年2月16日	1(400字 17枚)		手書	
618	独禁法改正の問題		昭和51年2月	1冊(ノート 1冊)		手書	
619	独占禁止法改正に関する議会における質問			1綴(官報 2頁)			
620	独禁法改正の三大欠点と考える三点についての供述			1綴(B4 4枚)		タイプ	
621	独禁法の一部改正の法律案についての上述—参議院商工委員会—			1綴(400字 14枚)		手書	
622	篠田雄次郎教授の「異見番—トンチンカン社会」を読んで			1綴(400字 4枚)		手書	
623	独禁法改正の方針			1綴(200字 9枚)		手書	
624	公取の「独禁法改正試案の骨子」を読んで			1綴(400字 13枚)		手書	
625	公取の「独禁法改正試案の骨子」を読んで			1綴(400字 11枚)		手書	
626	独禁法の一部改正案に対する賛成演ずる(案)			1綴(400字 9枚)		手書	
627	高橋公取委員長の所見について			1綴(200字 3枚)		手書	
628	ハイエクの独占論			1綴(200字 9枚)		手書	

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
(4) 労組							
629	ILO第87号条約の批准に先行すべきもの		昭和39年6月24日	1綴(B5 4頁)		タイプ	
630	公労法第4条第3項とILO第87号条約の関係について		昭和36年	1綴(400字 72枚)		手書	
631	ILO第八十七号条約の批准と国内法改正の諸問題		昭和39年5月	1綴(400字 137枚と/活版 8頁)		手書	
632	悔いを将来に残すな—公労法改廃に関する一考察—		昭和39年12月	1綴(A5 8頁)		活版	
633	三公社五現業などのスト権問題		昭和50年11月19日	1綴(B5 35頁)		タイプ	
634	憲法がスト権を保障するとは思わぬ		昭和50年12月30日	1綴(400字 2枚)		手書	
635	憲法28条とスト権 ノート覚書		昭和51年1月	1冊(ノート 1冊)		手書	
636	憲法28条と争議権の保障		昭和51年2月28日	1綴(400字 枚)		手書	
637	憲法28条が争議権を保障するとの通説に反対する		昭和51年2月28日	1綴(400字 枚)		手書	
638	日本の憲法と争議権—憲法28条の「団体行動」と「争議行為」—		昭和51年3月14日	1綴(400字 枚)		手書	
(5) 中小企業							
639	「百貨店法」案の問題点		昭和31年2月6日	1綴(A5 9頁)		活版	
640	「中小企業等組織法案」について「中小企業団体法」についての意見		昭和32年2月15日	1綴(A5 13頁)		活版	
641	新自由主義における中小企業尊重の根拠		昭和32年2月5日	2綴(同文)(A5 6頁)		活版	
642	中小企業尊重の根拠		昭和35年	1綴(A5 8頁)		活版	
643	中小企業組織化の現状とカルテル強化の動向		昭和36年9月	1綴(400字 10枚)		手書	
644	中小企業について—「中小企業発展の機会」「朝日」社説に関連して		昭和58年4月23日	1枚(400字 1枚)		手書	
645	アメリカで甦える小企業精神		昭和58年6月1日	1綴(400字 2枚)		手書	
646	中小企業の尊重と新興の根本義—レブケ教授の思想(一)—			1綴(400字 19枚)		手書	
647	小売商業安定措置法案—百貨店法案に対する一つの代案—			1綴(400字 3枚)		手書	
648	百貨店法案についての意見			1綴(B5 4頁)		活版	
(6) 再販論							
649	再販問題について		昭和43年9月	1綴(B6 12頁)		活版	
650	再販制度の役割—自由経済における—		昭和45年11月20日	1綴(A5 42頁)		活版	
651	再販の理解について		昭和46年9月	1冊(A5 93頁)		活版	

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
652	再販制度の改正及び不当廉売の規制について		昭和48年9月13日	2綴(同文)(A5 19頁)		活版	
653	再販制度について			1綴(200字 132枚)		手書	
VII 福祉国家、社会保障、完全雇用							
(1)福祉国家							
654	書評 福祉国家亡国論	山本勝市著	昭和51年6月	1枚(A5 2頁)		活版	
655	福祉で国は亡ぶー福祉国家は社会主義の代用品ー		昭和50年12月8日	1枚(ダブロイド 1頁)		活版	週刊 世界と日本 50年12月8日
656	福祉国家亡国論ー日本の今日と明日 木内信胤氏との対談ー		昭和51年1月1日	1冊(A5 15頁)		活版	「動向」掲載
657	「時の動き」「政府の窓」53年3月20日号を読む		昭和53年3月20日	1綴(400字 2枚)		手書	
658	日本型福祉社会のために		昭和54年9月	1綴(400字 2枚)		手書	
659	日本型福祉社会の行方		昭和54年9月	1綴(400字 10枚)		手書	
660	福祉政策について		昭和55年2月	1綴(400字 74枚)		手書	
661	日本型福祉社会の本質		昭和55年3月	1枚(A5 2頁)		活版	経済論壇掲載
662	西欧型福祉社会の破綻(1)		昭和55年12月24日	1綴(400字 3枚)		手書	
663	西欧型福祉社会の破綻(2) 路線変更の急務ー		昭和55年12月26日	1綴(400字 5枚)		手書	
664	日本型福祉社会の本質		昭和55年	1綴(400字 4枚)		手書	
665	日本型福祉社会の骨格		昭和55年	1綴(400字 7枚)		手書	
666	民主主義的福祉社会と自由主義的福祉社会の区別		昭和55年	1綴(B4 34枚)		手書	
667	平櫛田中氏の死に想う		昭和54年12月31日	1綴(400字 3枚)		手書	
668	干渉的福祉国家の末路		昭和56年2月	1綴(400字 15枚)		手書	
669	福祉国家		昭和58年	1綴(400字 120枚)		手書	
670	『福祉国家亡国論』要領(講演)		昭和59年11月13日	1綴(400字 2枚)		手書	
671	福祉国家政策について(メモ)		昭和60年5月15日	1綴(400字 8枚)		手書	
672	福祉国家政策について(メモ)		昭和60年5月15日	1綴(400字 8枚)		手書	
673	福祉国家政策について		昭和60年5月15日	1綴(400字 9枚)		手書	
674	「福祉国家」について			1綴(400字 16枚)		手書	
675	「福祉国家」について			1綴(400字 5枚)		手書	

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
676	福祉国家のプログラム			1綴(400字 3枚)		手書	
677	国会における“福祉後退論”をきいて			1綴(400字 4枚)		手書	
678	自助と互助の精神に立つ福祉			1綴(400字 4枚)		手書	
679	とめどなき福祉費の膨張			1綴(400字 5枚)		手書	
680	干渉的福祉国家の末路―財政の行詰りと人心の荒廃―			1綴(400字 2枚)		手書	
681	干渉的福祉国家の末路―財政の行詰りと人心の荒廃―			1綴(400字 10枚)		手書	
682	福祉国家の末路			1綴(400字 11枚)		手書	
683	福祉国家の末路			1綴(400字 35枚)		手書	
684	福祉国家で国は亡ぶ			1綴(400字 11枚)		手書	
685	福祉国家で国は亡ぶ			1綴(400字 12枚)		手書	「世界と日本」原稿
686	自由市場は貧しい人を無視するか			1綴(400字 1枚)		手書	
687	貧乏追放の道			1綴(400字 9枚)		手書	
688	貧困救済の秘訣			1綴(400字 3枚)		手書	
689	福祉国家亡国論(レジュメ)			1綴(400字 2枚)		手書	
(2)社会保障							
690	真意を明らかにして旧軍人各位の教を請う		昭和32年10月25日	1綴(A5 2頁)		活版	
691	真意を明らかにして旧軍人各位の教を請う 遺族の処遇改善の方が先決である		昭和32年10月25日	1綴(B4 1枚)		活版	
692	戦没兵士の公務扶助料の引き上げについて		昭和33年1月23日	1綴(200字 11枚)		手書	
693	社会保障ムードは吉兆か？―自由社会における社会保障の限界―		昭和36年3月8日	1綴(400字 20枚)		手書	
694	社会保障ムードへの警告―自由社会における社会保障の限界―		昭和36年3月15日	1綴(400字 19枚)		手書	山本叢書 第5号 原稿
695	社会保障ムードへの警告―自由社会における社会保障の限界―		昭和36年6月5日	1綴(A5 26頁)		活版	山本叢書 第5号
696	社会保障ムードへの警告―自由社会における社会保障の限界―		昭和36年6月5日	1綴(A5 26頁)		活版	『山本叢書』第5号 (山本会出版)
697	社会保障関係費のとめどなき膨張		昭和54年4月25日	1綴(400字 8枚)		手書	
698	社会保障関係費のとめどなき膨張		昭和54年4月26日	1綴(400字 10枚)		手書	
699	福祉国家亡国論(講義要旨)		昭和59年11月13日	1綴(400字 2枚)		手書	
700	社会保障の安定した軌道とは？―原点に帰ることの急務について		昭和60年2月24日	1綴(400字 4枚)		手書	

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
701	社会保障が直面する困難—社会保障政策で留意すべきこと		昭和60年3月1日	1綴(400字 7枚)		手書	
702	社会保障が直面する困難—社会保障政策で留意すべきこと—		昭和60年3月1日	1綴(400字 7枚)		手書	
703	生活困窮者がなぜ増えるのか—現行社会保障組織の盲点		昭和60年3月2日	1綴(400字 7枚)		手書	
704	生活困窮者がなぜ増えるのか—現行社会保障制度の盲点		昭和60年3月2日	1綴(400字 7枚)		手書	
705	「生活困窮者」はなぜ減らないのか—現行社会保障制度の盲点		昭和60年3月4日	1綴(400字 6枚)		手書	
706	社会保障について(メモ)		昭和60年3月3日	1綴(400字 8枚)		手書	
707	『生活困窮者はなぜ減らないのか』現行社会保障制度の盲点		昭和60年3月4日	1綴(400字 6枚)		手書	
708	「まえ書き」—社会保障—			1綴(400字 6枚)		手書	
709	あいまいな社会福祉、社会保障制度の概念			1綴(400字 4枚)		手書	
710	社会保険の直面する困難			1綴(400字 4枚)		手書	
711	社会保障のコスト			1綴(400字 4枚)		手書	
712	社会保障制度が整うにつれて生活困窮者が増えるのは何事か			1綴(400字 3枚)		手書	
713	社会保険費			1綴(400字 3枚)		手書	
714	完全雇用という言葉の使用をやめよう			1綴(400字 12枚)		手書	
715	生活保護法ほか			1綴(400字 8枚)		手書	
716	社会保証の直面する困難			1綴(400字 3枚)		手書	
(3)完全雇用							
717	「完全雇用政策」の背景にある一般的な考え方		昭和52年	1綴(400字 3枚)		手書	
718	「完全雇用」という言葉を用いない方がよい		昭和53年11月6日	1綴(400字 3枚)		手書	
719	失業者のある国とない国		昭和53年11月7日	1綴(400字 2枚)		手書	
720	雇用政策についての政府の考え方		昭和53年12月	1綴(400字 16枚)		手書	
721	失業率と経済成長率は無関係—雇用問題の正しい道—		昭和54年2月7日	1綴(400字 5枚)		手書	
722	完全失業率と求人倍率を指標とする完全雇用政策		昭和54年2月17日	1綴(400字 8枚)		手書	
723	完全雇用政策を見直そう			1綴(400字 43枚)		手書	
724	完全雇用というデマゴギー			1綴(400字 11枚)		手書	
725	完全雇用というデマゴギー			1綴(400字 9枚)		手書	

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
726	完全雇用というデマゴギー			1冊(A5 7頁)		活版	雑誌「史」1979-39号 現代史懇談会
727	完全雇傭政策の幻想—財政再建の道—			1綴(400字 11枚)		手書	
728	“完全雇用”政策の幻想			1綴(B4 13枚)		手書	
729	完全雇傭政策の幻想—財政再建の道			1綴(B5 2頁)		手書	
730	完全雇用政策を見直そう			1綴(400字 22枚)		手書	
731	ケインズの完全雇用政策としての財政政策			1綴(400字 9枚)		手書	
732	完全雇用という言葉の乱用を戒しむ			1綴(400字 9枚)		手書	
733	完全雇用という言葉を用いない方がよい			1綴(400字 13枚)		手書	
734	新しい雇傭政策を評す			1綴(400字 4枚)		手書	
735	求人倍増の価値			1綴(400字 3枚)		手書	
VIII 財政、予算、公債、インフレ論、G N P、行革論							
(1) 財政							
736	地方財政の研究		昭和31年7月	1冊(ノート 1冊)		手書	
737	丹羽春喜氏「財政の基本政策について」批判		昭和52年11月25日	1綴(400字 4枚)		手書	
738	新総研・討議資料「わが国経済の問題点と対策」を読む		昭和53年5月23日	1綴(400字 3枚)		手書	
739	「新総研」学者グループの提言を読んで		昭和53年5月26日	1綴(400字 3枚)		手書	
740	『新総研』学者グループの「討議資料」(未定稿)を読む		昭和53年5月28日	1綴(400字 6枚)		手書	
741	金森久雄氏の所論を読んで(第一稿)		昭和53年10月7日	1綴(400字 6枚)		手書	
742	金森久雄氏の所論を読んで(第二稿)		昭和53年10月7日	1綴(400字 6枚)		手書	
743	政府支出の増減と景気		昭和53年10月20日	1綴(400字 5枚)		手書	
744	「生産力過剰＝総需要不足」という錯覚		昭和53年10月22日	1綴(400字 4枚)		手書	
745	自由市場経済の原点を志向するほかに財政健全化の道はない		昭和53年11月26日	1綴(400字 12枚)		手書	
746	福祉国家から自由国家の方向転回、それ以外に財政・経済を救う道はない		昭和53年12月2日	1綴(400字 10枚)		手書	
747	影響の無視できない一つの経済神話について		昭和53年12月4日	1綴(400字 8枚)		手書	
748	“新総研”学者グループの提言とそれに対する私の批判的見解		昭和53年12月19日	1綴(400字 8枚)		手書	
749	大蔵省主計局長 長岡実氏の「わたしの言い分」を読んで		昭和53年12月10日	1綴(400字 21枚)		手書	

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
750	近頃流行の財政論		昭和53年	1綴(400字 9枚)		手書	
751	ケインズの財政政策		昭和53年	1綴(400字 3枚)		手書	
752	金森久雄氏の所論に従えば		昭和54年1月23日	1綴(400字 4枚)		手書	
753	下村治氏の「潜伏期にある経済インフレ」を読んで		昭和54年3月	1綴(400字 4枚)		手書	
754	下村治氏「潜伏期にある経済インフレ」を読む(覚書)		昭和54年4月17日	1綴(400字 3枚)		手書	
755	財政再建の道		昭和54年4月22日	1綴(400字 4枚)		手書	
756	財政再建の道についての提言		昭和54年4月24日	2綴(同文)(400字 6枚)		手書	
757	予算編成の基本方針		昭和54年5月6日	1綴(400字 3枚)		手書	
758	財政再建の道はこれ以外にない		昭和54年6月13日	1綴(400字 2枚)		手書	
759	経済倶楽部講演メモ(財政再建)		昭和54年6月15日	1綴(B4 12枚)		手書	
760	財政再建のきめ手		昭和54年6月19日	1綴(400字 4枚)		手書	
761	財政再建の基本問題(メモ)		昭和54年6月22日	1綴(200字 15枚)		手書	
762	国家融資及び助成金の弊害		昭和54年7月	1綴(400字 3枚)		手書	
763	大蔵省が選んだ財政再建の道—国民の負担増—		昭和55年8月	1綴(400字 14枚)		手書	
764	新経済7ヵ年計画への評価		昭和54年8月	1綴(400字 7枚)		手書	
765	歳出の節約合理化の基準		昭和54年	1綴(400字 4枚)		手書	
766	備忘録(財政再建について)		昭和54年	1冊(ノート 1冊)		手書	
767	安くつく政府の実現へ—大蔵省の開眼—		昭和55年9月14日	1綴(400字 4枚)		手書	
768	財政再と赤字公債からの脱却とはイコールではないこと		昭和54年9月19日	1綴(400字 3枚)		手書	
769	財政再建をどうするか—9月23日NHK政治討論を聴いて—		昭和54年9月24日	1綴(400字 7枚)		手書	
770	歳出増を不可避とみることは誤りである		昭和54年9月30日	1綴(400字 5枚)		手書	
771	「新経済7ヵ年計画」に従うと財政・金融の破綻は必至である		昭和54年9月	1綴(400字 3枚)		手書	
772	大蔵省が増税を必要とする前提に誤りがある		昭和54年10月1日	1綴(400字 5枚)		手書	
773	敗因の反省		昭和54年10月9日	1綴(400字 3枚)		手書	
774	増税なき財政再建を！		昭和54年10月11日	1綴(400字 7枚)		手書	
775	財政再建には「大蔵省財政収支試案」“参考ケースB”が最も現実的		昭和54年10月18日	1綴(400字 4枚)		手書	
776	財政再建のための憲法私案		昭和54年10月13日	1綴(400字 3枚)		手書	

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
777	議会民主制度のもとでも財政赤字は宿命ではない		昭和54年10月22日	1綴(400字 4枚)		手書	
778	食糧管理法改正 外5篇		昭和54年10月～55年3月	1綴(A5 12頁)		活版	「経済論壇」
778(細目)	食糧管理法の改正		(昭和54年10月)				
778(細目)	安くつく政府の実現へ		(昭和54年11月)				
778(細目)	増税なき再建を！		(昭和54年12月)				
778(細目)	今後の政治の動き		(昭和55年1月)				
778(細目)	予算審議への提案		(昭和55年2月)				
778(細目)	日本型福祉社会の本質		(昭和55年3月)				
779	長期経済計画		昭和54年	1綴(400字 15枚)		手書	
780	財政の役割		昭和55年1月	1綴(B4 10枚)		手書	
781	重ねてお教を請う―財政健全化について		昭和55年2月15日	1綴(400字 2枚)		手書	
782	重ねてお教を請う		昭和55年2月15日	1綴(400字 2枚)		手書	
783	安くつく政府の実現へ・大蔵当局の開眼か		昭和54年11月	1綴(400字 4枚)		手書	
784	財政再建策についての覚書		昭和55年11月28日	1綴(400字 5枚)		手書	
785	丹羽春喜氏「財政の基本政策について」		昭和54年11月29日	1綴(400字 4枚)		手書	
786	財政再建への道		昭和55年12月4日	1綴(400字 2枚)		手書	
787	増税で財政再建はできない		昭和55年12月15日	1綴(400字 4枚)		手書	
788	老齢年金と財政再建		昭和55年12月20日	1綴(400字 4枚)		手書	
789	財政再建と来年度予算		昭和55年12月25日	1綴(400字 4枚)		手書	
790	財政再建と来年度予算		昭和55年12月23日	1綴(400字 2枚)		手書	
791	増税で財政再建はできない		昭和55年12月29日	1綴(400字 4枚)		手書	
792	財政再建は減税でやれ―増税路線は邪道		昭和55年12月	1綴(400字 3枚)		手書	
793	増税で財政再建はできない		昭和56年1月1日	1綴(400字 4枚)		手書	
794	財政再建の盲点―政府の役割を反省することが先決―		昭和56年1月4日	1綴(400字 4枚)		手書	
795	財政再建の盲点―政府の役割を反省することが先決―		昭和56年1月13日	1綴(400字 6枚)		手書	
796	増税による財政再建路線の盲点―政府の役割を反省することが先決―		昭和56年1月16日	1綴(400字 9枚)		手書	日経タイムス 昭和56年2月26日号

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
797	増税での再建、他国でも失敗		昭和56年1月20日	2枚		手書	朝日「声」欄 新聞切り抜き
798	「小さな政府論に疑問」(産経新聞)に対するコメント		昭和56年1月25日	1枚(400字 1枚)		手書	
799	真の問題は支出と税金が増加しつづけること (M. フリードマン)		昭和56年	1綴(400字 7枚)		手書	
800	「GNP神話」への反省が必要―行財政の危機打開のために―		昭和57年12月11日	1綴(400字 5枚)		手書	
801	財政再建の道―盲点はどこか― (宮沢喜一殿)		昭和57年12月28日	1綴(400字 3枚)		手書	
802	財政再建が進まない理由―盲点はどこにあるのか―		昭和57年12月28日	1綴(400字 4枚)		手書	
803	「増税なき財政再建」を支持する理由		昭和58年3月15日	1綴(400字 2枚)		手書	
804	「増税なき財政再建」の意義		昭和58年3月22日	1綴(400字 4枚)		手書	
805	財政制度審議会の中間報告について		昭和59年1月	1綴(400字 3枚)		手書	
806	増税なき財政再建は可能か？		昭和59年2月13日	1綴(400字 4枚)		手書	
807	「増税なき財政再建は可能か？」桜田武氏への返信		昭和59年2月19日	1通(便箋 3枚)		手書	
808	自由競争こそ改革への基本		昭和59年2月21日	1枚		活版	朝日新聞「声」欄 新聞切り抜き
809	税収増によって財政を再建しようとする意見の盲点		昭和59年2月29日	1綴(400字 6枚)		手書	
810	税収増によって財政を再建せんとする意見の盲点二つ		昭和59年2月29日	1綴(400字 5枚)		手書	
811	自由主義社会の基本―増税なき財政再建は不可能か―		昭和59年4月10日	1綴(B5 1頁)		活版	「国民同胞」昭和59年4月10日号
812	FFS提案への疑問		昭和59年5月10日	1綴(400字 2枚)		手書	
813	歳出の増加は良いことだという仮説はあやまり―「歳出入システムの概略」について		昭和59年5月12日	1綴(400字 2枚)		手書	
814	提案の「国債の負担」等について		昭和59年5月17日	1綴(400字 4枚)		手書	
815	5月7日の札幌での宮沢さんのあいさつ(新聞報道)に思う		昭和59年5月17日	1綴(400字 4枚)		手書	
816	5月8日の札幌での宮沢さんのあいさつについての報道		昭和59年5月17日	1綴(400字 6枚)		手書	
817	「自由主義経済推進機構」(FFS)の「提言」を読んで		昭和59年5月20日	1綴(400字 11枚)		手書	
818	地方的な公共土木事業は地方的な収入で維持すべきである		昭和59年5月26日	1綴(400字 2枚)		手書	
819	パーキンソンの財政改革案		昭和59年5月	1綴(400字 5枚)		手書	
820	シーリング論争に寄す―M. フリードマン教授の見解―		昭和59年6月6日	1綴(400字 13枚)		手書	
821	財政赤字とインフレの結びつき―一般に信じられているほど強くない		昭和59年6月22日	1綴(400字 6枚)		手書	
822	詭弁による常識の混乱		昭和59年6月22日	1綴(400字 2枚)		手書	

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
823	M. フリードマンのレーガンへの期待		昭和59年6月23日	1綴(400字 4枚)		手書	
824	「赤字国債の光と影」を読む		昭和59年7月24日	1枚(B4 1枚)		手書	
825	財政の役割について—予算編成の論議に思う—		昭和59年7月25日	1綴(400字 3枚)		手書	
826	予算編成の論議について—財政の機能を考える—		昭和59年7月26日	1綴(400字 5枚)		手書	
827	予算編成論争を見て—財政の機能を考える—		昭和59年7月27日	1綴(400字 3枚)		手書	
828	「村山調査会」の提言を読む		昭和59年10月5日	1綴(400字 5枚)		手書	
829	わが財政規模の膨張		昭和59年11月20日	1綴(400字 3枚)		手書	
830	我が国財政の現状と再建(講演)		昭和59年11月21日	1綴(400字 17枚)		手書	草加ロータリークラブ
831	財政再建—行政改革		昭和59年	1綴(400字 3枚)		手書	「朝日新聞」切り抜き
832	財政再建論(財政再建に関する諸論策)		昭和53年～昭和59年	1綴(400字 242枚)		手書	
832(細目)	長岡主計局長の言ひ分を読む		(昭和53年12月10日)				
832(細目)	福祉国家から自由国家の方向転回—それ以外に財政・経済を救う道はない		(昭和54年1月7日)				
832(細目)	一般消費税導入で財政は救えない		(昭和54年1月7日)				
832(細目)	自由経済を守るための政府の役割と、その活動の限界		(昭和53年12月17日)				
832(細目)	金森久雄氏「公債増発は“悪”ではない」を読む		(昭和53年12月4日)				
832(細目)	新総研学者グループの提言を読む		(昭和53年12月19日)				
832(細目)	無視できない一つの経済神話		(昭和53年12月4日)				
832(細目)	GNP実質成長率の論議は不毛		(昭和53年12月29日)				
832(細目)	雇用問題に対する正しい態度と誤った態度		(昭和53年12月22日)				
832(細目)	失業率と経済成長率は無関係		(昭和53年11月6日)				
832(細目)	完全雇用という言葉は用いない方がよい		(昭和53年11月6日)				
832(細目)	不況と失業を解決する本当の道		(昭和52年7月1日)				
832(細目)	自由市場経済の機能を信じよう		(昭和53年5月27日)				
832(細目)	下村治氏「潜伏期にある経済インフレ」を読む		(昭和53年4月17日)				
832(細目)	社会保障関係費のとめどなき膨張		(昭和54年4月26日)				
832(細目)	完全雇用というデマゴギー						

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
832(細目)	完全雇用政策の幻想		(昭和54年5月25日)				
832(細目)	財政再建のために―経費節減のための原則		(昭和54年6月11日)				
832(細目)	財政再建の決め手		(昭和54年6月14日)				
832(細目)	敗因の反省		(昭和54年10月9日)				
832(細目)	現代の議会民主制度のもとでも財政赤字は宿命ではない		(昭和54年10月22日)				
832(細目)	財政再建には大蔵省「財政収支予算」“参考ケースB”こそ最も現実的		(昭和54年10月18日)				
832(細目)	自民党が国民の信を一挙に回復する道		(昭和54年11月6日)				
832(細目)	今後の政治活動の動き(予想)		(昭和54年11月11日)				
832(細目)	予算審議への提案		(昭和54年12月14日)				
832(細目)	財政再建を阻害しているもの		(昭和57年12月18日)				
832(細目)	シーリング論争に寄す		(昭和59年6月6日)				
832(細目)	市場(価格機構)のはたらき		(昭和59年8月6日)				
832(細目)	河本企画庁長官「内外経済展望と日本の進路」を読む		(昭和59年9月27日)				
832(細目)	村山調査会の「提言」を読む		(昭和59年10月2日)				
832(細目)	物価安定への道		(昭和39年3月6日)				
832(細目)	宮沢喜一氏の「新しい経済政策」(中間報告)を読む		(昭和59年10月28日)				
833	対外援助の諸問題		昭和60年3月18日	1綴(400字 2枚)		手書	
834	財政支出によらない公共事業振興の途		昭和60年6月8日	1綴(400字 4枚)		手書	
835	スミス『国富論』第5篇 第1章「国の経費について」の結論		昭和60年6月21日	1綴(A5 4頁)		タイプ	
836	財政学講義(案)			1冊(ノート B5 1冊)		手書	
837	財政			1綴(400字 2枚)		手書	
838	財政再建の基本			1綴(400字 4枚)		手書	
839	財政計画の三原則			1綴(400字 2枚)		手書	
840	景気と物価の両にらみの財政運営			1綴(B4 19枚)		手書	
841	政治的側面からのアプローチ			1綴(400字 12枚)		手書	
842	財政悪化の要因―村山提言をよんで―			1綴(400字 4枚)		手書	
843	財政の破局とケンイズ派経済学の関係			1綴(400字 3枚)		手書	

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
844	「新経済社会7ヵ年計画」による財政再建策			1綴(200字 5枚)		手書	
845	財政制度審議会の中間報告について			1綴(400字 2枚)		手書	
846	福田赴夫氏の功罪			1綴(400字 10枚)		手書	
847	NHK座談を聴いて(私のコメント)—加藤六月氏宛			1綴(400字 4枚)		手書	
848	現金移転制度の三つの構成要素			1(400字 1枚)		手書	
849	行革と財政再建			1綴(B4 5枚)		手書	
850	財政再建策の二つの段階			1枚(400字 1枚)		手書	
851	財政再建をどうするか—NHKの政治討論を聴いて			1(400字 6枚)		手書	
852	財政再建の成否			2枚(同文)(B4 1枚)		手書	
853	財政再建の急務			1綴(400字 3枚)		手書	
854	レプケ教授の批判—不況対策について—			1綴(400字 4枚)		手書	
(2) 予算							
855	新予算はどう組むか		昭和53年11月28日	1綴(400字 4枚)		手書	
856	新予算はどう組むか—借金も税も増やさないで—		昭和53年12月2日	1綴(400字 4枚)		手書	
857	予算審議への提言		昭和55年2月	1枚(B5 2頁)		活版	
858	予算審議への注文			1綴(400字 3枚)		手書	
859	時代のニーズに合格した歳出構造への転換			1綴(400字 4枚)		手書	
(3) 公債							
860	—自由主義者の外交論		昭和41年1月25日	1綴(B6 47頁)		活版	「論策シリーズ」No.1 外交時報社
861	河本敏夫長官の公債論		昭和59年10月31日	2綴(400字 4枚)		手書	
862	忘れてならない改革の視点—狂っているのは人でなく制度であること		昭和60年6月13日	1綴(400字 4枚)		手書	
863	A. スミスの公債論「諸国民の富」第5篇 第3章			1綴(400字 5枚)		手書	
864	公債借換の意義			1綴(400字 7枚)		手書	
865	公債累積経過—この20年間になぜか借金もふやしたのか—			1綴(400字 4枚)		手書	
(4) インフレ論							
866	インフレ問題		昭和36年5月2日	1綴(400字 47枚)		手書	

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
867	慢性インフレとその対策—中央銀行の責任—		昭和36年5月12日	1綴(A5 18頁)		活版	
868	慢性インフレとその対策—中央銀行の責任—		昭和36年5月12日	1綴(A5 18頁)		活版	「山本叢書」第6号
869	慢性インフレとその対策		昭和40年1月	1綴(A5 11頁)		活版	「政策月報」第108号
870	美濃部亮吉氏『家計簿が実証するインフレ』という論文を読んで		昭和42年3月29日	1綴(B4 5枚)		タイプ	
871	美濃部亮吉氏「家計簿が実証するインフレ」という論文を読んで		昭和42年3月29日	1綴(B5 9頁)		タイプ	
872	インフレ阻止の論理		昭和48年12月3日	1綴(400字 11枚)		手書	
873	インフレ阻止の論理		昭和48年12月11日	1綴(B5 24頁)		タイプ	
874	インフレ阻止の論理		昭和48年12月11日	1綴(400字 34枚)		手書	
875	どうすればインフレはとまる		昭和49年1月24日	1綴(B5 5頁)		活版	「月刊 公民館」1974年3月号
876	どうすればインフレはとまるか—ある団体の需めに応じて—		昭和49年1月28日	1綴(200字 60枚)		手書	
877	どうすればインフレはとまるか		昭和49年1月29日	1綴(200字 53枚)		手書	
878	渡辺誠氏「スタグフレーションの経済学」を読んで		昭和50年3月2日	1綴(A4 4枚)		手書	
879	渡辺誠氏の「スタグフレーションの経済学」		昭和50年3月	1綴(A4 4枚)		手書	
880	私は完全雇用政策がインフレ阻止の政策を崩すことをおそれる		昭和52年11月	1綴(400字 9枚)		手書	
881	インフレ阻止の道		昭和55年7月21日	1綴(400字 6枚)		手書	
882	憂うべきインフレへの道		昭和55年7月24日	1綴(400字 28枚)		手書	
883	インフレ論(補遺)		昭和59年11月27日	1綴(400字 6枚)		手書	
884	敗戦日本に悪性インフレの心配なし		昭和60年10月10日	1綴(400字 6枚)		手書	
885	慢性インフレとその対策		昭和36年6月5日	1綴(400字 31枚)		手書	
886	インフレ考			1綴(400字 7枚)		手書	
887	インフレについて			1綴(400字 8枚)		手書	
888	インフレの原因			1綴(400字 7枚)		手書	
889	インフレーション			1綴(B4 6枚)		手書	
890	何に対して生産過剰か？ 好況不況交代の論理			1綴(400字 11枚)		手書	
891	予算赤字とインフレ			1綴(400字 3枚)		手書	
892	インフレと低成長(メモ)			1綴(B4 1枚)		手書	
893	抑圧されたインフレの害毒			1綴(400字 3枚)		手書	

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
894	われわれはいま重大な岐路に立っている			1綴(400字 5枚)		手書	
895	価格統制とインフレのローマ文明法会に及ぼした影響			1綴(400字 4枚)		手書	
896	インフレについて			1綴(400字 4枚)		手書	
(5) GNP							
897	国民所得は何を意味し—何を意味しないか—		昭和36年7月	1綴(400字 48枚)		手書	「山本叢書」原稿
898	国民所得は何を意味し—何を意味しないか—		昭和36年7月20日	1綴(A5 26頁)		活版	「山本叢書」第7号
899	国民総生産—国民所得計算の価値について(覚書)		昭和36年	1綴(400字 35枚)		手書	
900	G N P 実質成長率の論議は不毛		昭和53年12月23日	1綴(400字 6枚)		手書	
901	G N P への疑問(企画庁調整局調整課長補佐前田正博氏に聞く)		昭和54年1月19日	1綴(400字 3枚)		手書	
902	桜田氏の講演		昭和54年	1綴(400字 23枚)		手書	(付 54年度実質成長6.3%はいかにして算出したのか 400字3枚、特定数値による「長期計済計画」はナンセンス 200字18枚)
903	実質成長率の論議はナンセンス			1枚(400字 1枚)		手書	
904	国民総生産と国民所得			1冊(ノート B5 1冊)		手書	
905	国民所得と国民総生産			1綴(400字 6枚)		手書	
906	G N P の価値			1綴(400字 4枚)		手書	
907	「国民所得」方法・アプローチの欠点と危険について			1綴(400字 13枚)		手書	
908	実質成長率の論議はナンセンス(新聞投書)			1枚(400字 1枚)		手書	
(6) 行革論							
909	臨調の最終答申に想う		昭和58年3月17日、18日	3綴(400字 4枚)		手書	(3/18分 5枚)
910	行政改革と増税なき財政再建		昭和58年3月25日	1綴(400字 3枚)		手書	
911	「新しい経済政策」を読む		昭和59年6月15日	1綴(400字 4枚)		手書	
912	谷村 裕氏『行政改革と財政再建』を読む		昭和59年7月15日	1綴(400字 13枚)		手書	
913	谷村 裕氏『行政改革と財政再建』に対するコメント		昭和59年7月15日	1綴(400字 7枚)		手書	
914	谷村 裕氏『行政改革と財政再建』を読む		昭和59年7月16日	1綴(400字 6枚)		手書	
915	石村暢五郎氏「行政改革」八つの疑問について		昭和59年7月25日	1綴(400字 1枚)		手書	

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
916	行政改革と財政再建—橋本龍太郎代議士の代講—		昭和60年2月8日	1綴(400字 2枚)		手書	
IX 租税、税制改革、累進税、Gカード							
(1) 租税							
917	パーキンソンの第2の法則		昭和35年	1綴(B5 15頁)		活版	
918	〔欠番〕						
919	わが国国有の伝統的な美術工芸作品に対する物品税の廃止に関する 請願書 衆議院議長宛		昭和36年7月	1綴(B5 4頁)		タイプ	
920	一般消費税の導入でも財政は救われない		昭和54年1月	1綴(400字 10枚)		手書	
921	A. スミスの租税論から		昭和57年4月25日	1綴(400字 13枚)		手書	
922	相続税白書を読んで		昭和57年6月25日	1綴(400字 5枚)		手書	
923	利子配当分離課税派不公平税制か		昭和57年8月22日	1綴(400字 5枚)		手書	
924	今日の累進課税は出発当初のそれとは異質のものであること		昭和57年9月19日	1綴(400字 2枚)		手書	
925	累進課税の研究—累進課税と民主主義		昭和59年12月6日	1綴(400字 5枚)		手書	
926	税制改革についての国会論議に寄す		昭和60年1月23日	1綴(400字 4枚)		手書	
927	税の優遇措置に関する諸問題		昭和60年2月9日	1綴(400字 4枚)		手書	
928	石橋社会党委員長長の代表質問に対する中曽根総理の答弁、注目すべき3点		昭和60年2月9日	1綴(400字 1枚)		手書	
929	アダム・スミスが確立した租税の一般原則—『国富論』第5篇 第2章 第2節から—		昭和60年2月16日	1綴(400字 6枚)		手書	
930	課税物件としての地代と利子・利潤の違い		昭和60年2月17日	1綴(400字 14枚)		手書	付 地代・家賃・家屋に対する租税—『国富論 第5篇 第2章から—
931	不公平税制とは何か—税の見直しで留意すべきこと—		昭和60年2月18日	1綴(400字 5枚)		手書	
932	不公平税制とは何か—税の見直しで留意すべきこと—		昭和60年2月18日	1綴(400字 5枚)		手書	
933	租税は何のためのものか—税の見直しで留意すべきこと—		昭和60年2月21日	1綴(400字 5枚)		手書	
934	国民の税負担率とは何か—税の見直しで留意すべきこと—		昭和60年2月23日	1綴(400字 6枚)		手書	
935	負の所得税制度の検討—税の見直しで留意すべきこと—		昭和60年2月27日	1綴(400字 4枚)		手書	
936	サラリーマンの税金訴訟		昭和60年3月18日	1綴(400字 5枚)		手書	
937	根本問題に触れない税制論議		昭和60年3月21日	1綴(400字 10枚)		手書	

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
938	根本問題に触れない税制論議		昭和60年3月21日	2綴(400字 10枚)		手書	
939	自家営業者の所得課税のむつかしさについて		昭和60年3月26日	1綴(400字 12枚)		手書	
940	租税考		昭和60年3月	1綴(400字 42枚)		手書	
940(細目)	税の歴史—古代・中世・近代						
940(細目)	アンシアンレジーム制の教訓						
940(細目)	相続税は資本と所得の混同						
940(細目)	所得税は生産物価税の最も新しい形						
940(細目)	英米税制の相互関係(所得税特に累進課税に関して)						
940(細目)	支出は租税の結果である						
940(細目)	増税の結果(影響)						
940(細目)	課税の限界点						
940(細目)	福田幸弘氏の『税とデモクラシー』を読んで						
941	税金の限界について		昭和60年7月18日	1綴(400字 6枚)		手書	
942(細目)	租税について			1綴(400字 66枚)		手書	
942(細目)	税は農に甘し						
942(細目)	事業所得者の納税						
942(細目)	田村反十郎氏の場合						
942(細目)	36年度高額所得者50位						
942(細目)	脱税(パーキンソン第二法則より)						
942(細目)	確定申告 横澤光暉						
942(細目)	現行相続税 贈与税 所得税率						
942(細目)	現行日本の国税構成						
942(細目)	住民税						
942(細目)	累進税						
942(細目)	固定資産税						
943	大型間接税要望の根拠			1綴(400字 5枚)		手書	
944	間接税について			1冊(B5 43頁)		タイプ	

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
945	大型間接税は必要か			1綴(400字 4枚)		手書	
946	課税の公正・不公平について			1綴(400字 5枚)		手書	
947	現行の所得補償制度の弱点			1綴(400字 2枚)		手書	
948	増税による財政再建路線の盲点—政府の役割を反省することが先決—			1綴(400字 9枚)		手書	
949	資本財から生まれる収入に対する租税が課税される理由			1綴(400字 2枚)		手書	
950	課税物件としての地代と利子・利潤の違い			1綴(400字 10枚)		手書	
951	税制についてのメモ			1綴(400字 7枚)		手書	
952	税の現況(資料)			1綴(400字 2枚)		手書	
953	没収的課税(ミーゼス) 翻訳			1綴(400字 6枚)		手書	
954	相続税再考			1綴(400字 51枚)		手書	
955	相続税			1綴(400字 3枚)		手書	
956	美術品に対する税率を30%以下に引き下げること強調する理由			1綴(200字 7枚)		手書	
957	賀屋興宣氏の減税構想についての疑義			1綴(400字 6枚)		手書	
958	加藤六月先生 机下(税金)			1綴(400字 4枚)		手書	
959	相続税改正の意義			1綴(200字 9枚)		手書	
960	親愛なるミスター・プレジデント			1綴(400字 6枚)		手書	
961	米政府の税制改革は立派なフラットタックスである			1綴(400字 4枚)		手書	
962	政府支出が租税でまかなわれる場合			1綴(400字 4枚)		手書	
963	スミスの租税に関する一般原則			1綴(400字 3枚)		手書	
(2) 税制改革							
964	親と同居する直系卑属への相続税廃止の提唱		昭和57年6月20日	1綴(400字 13枚)		手書	
965	「政府税調の答申」を読む		昭和59年	1綴(400字 5枚)		手書	
966	何のための税制改革か		昭和60年1月23日	1綴(400字 8枚)		手書	
967	税制改革についての国会論議に寄す		昭和60年1月23日	1綴(400字 4枚)		手書	
968	竹下蔵相の財政演説で気にかかること		昭和60年1月26日	1綴(400字 2枚)		手書	
969	覚書—税制改革に関する		昭和60年1月	1綴(400字 9枚)		手書	

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
970	自民党税調副会長 山下元利氏の税制改革論		昭和60年2月7日	1綴(400字 5枚)		手書	
971	自民党税調副会長 山下元利氏の意見についてのコメント		昭和60年2月7日	1綴(400字 8枚)		手書	
972	山下元利氏の税制改革論—日本経済でのインタビューを読んで		昭和60年2月15日	1綴(400字 4枚)		手書	
973	税の見直しで留意すべきこと		昭和60年3月19日	1綴(400字 8枚)		手書	
974	加藤六月氏ラジオ講演について—同氏宛書信—		昭和60年5月5日	1綴(400字 4枚)		手書	
975	平田敬一郎・泉美之松氏『税制改革への期待』を読む		昭和60年5月12日	1綴(400字 7枚)		手書	
976	総理の税制改革発想に賛成			1綴(400字 2枚)		手書	
977	「税制の根本的見直し」とは何か			1綴(400字 2枚)		手書	
978	現行税制に寄せられている批判(メモ)			1枚(B4 1枚)		手書	
979	直間比率の見直し問題			1枚(400字 1枚)		手書	
980	E C 型付加価値税導入論者の種々相			1綴(400字 2枚)		手書	
981	小倉武一氏(政府税調会長)に聞く			1綴(400字 4枚)		手書	
(3) 累進税							
982	累進所得税への反省	自由民主党	昭和43年7月28日	1綴(A5 12頁)		活版	「政策月報」9月号
983	累進所得税への反省		昭和43年7月28日	1部(A5 6頁)		活版	「政策月報」9月号
984	米政府の税制改革案は累進税制からの転換を目ざしている		昭和57年6月12日	1綴(400字 5枚)		手書	
985	累進税方式見直しの急務		昭和57年6月17日	1綴(400字 8枚)		手書	
986	累進課税乱用の危険—プリンストン大学リュッツ教授の著書から—		昭和57年7月4日	1綴(400字 8枚)		手書	
987	累進課税について考慮すべきこと (1)		昭和57年7月18日	1綴(400字 6枚)		手書	
988	米国における累進課税廃止の動き—日本マスコミの誤解—		昭和57年8月19日	1綴(400字 5枚)		手書	
989	米国における累進税廃止の動き—日本マスコミの誤解—		昭和57年8月19日	1綴(400字 5枚)		手書	
990	米国における累進税廃止の動きについて		昭和57年8月19日	1綴(400字 6枚)		手書	
991	アメリカ政府・議会での累進税率廃止の動きについて		昭和57年8月	1綴(400字 9枚)		手書	
992	累進課税の歴史		昭和57年8月20日	1綴(400字 7枚)		手書	
993	累進税について		昭和57年8月28日	1綴(400字 6枚)		手書	
994	累進課税についての覚書		昭和57年8月29日	1綴(400字 9枚)		手書	
995	今日の累進課税は出発当初のそれとは異質のものである。		昭和57年9月22日	1綴(400字 3枚)		手書	

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
996	今日の累進税システムは出発当初のそれとは全く異質のものである		昭和57年9月29日	1綴(400字 8枚)		手書	
997	今日の累進課税システムは出発当初のそれとは異質のものである		昭和57年9月29日	1綴(400字 4枚)		手書	
998	累進税制の研究(一) 累進税の市場経済の作用に及ぼす結果		昭和59年11月29日	1綴(400字 7枚)		手書	
999	累進税の市場経済の作用に及ぼす結果—ミーゼス『人間行動論』から—		昭和59年11月29日	1綴(400字 7枚)		手書	
1000	累進税の市場経済の作用に及ぼす結果—ミーゼス『人間行動論』から—		昭和59年11月29日	1綴(400字 7枚)		手書	
1001	累進税制の研究(四)		昭和59年12月1日	1綴(400字 10枚)		手書	
1002	私の累進税制への批判的検討		昭和59年12月3日	1綴(400字 5枚)		手書	
1003	リュッツ教授の累進税批判		昭和60年1月10日	1綴(400字 24枚)		手書	
1004	累進税は複雑・曖昧で脱税の誘因となることについて		昭和60年1月11日	1綴(400字 9枚)		手書	
1005	累進税は複雑曖昧で脱税の誘因となることについて		昭和60年1月11日	1綴(400字 9枚)		手書	
1006	間接税の比率を上げるより累進税制の廃止が必要		昭和60年1月17日	1綴(400字 2枚)		手書	
1007	累進税制の変質—税の見直しで留意すべきこと—		昭和60年2月20日	1綴(400字 6枚)		手書	
1008	米政府の税制改革案は累進税制からの転換を目ざしている		昭和60年6月12日	1綴(400字 3枚)		手書	
1009	米政府の税制改革は累進税制から単一税制への転換である		昭和60年6月14日	1綴(400字 6枚)		手書	
1010	米政府の税制改革案は立派なフラットタックスである		昭和60年6月15日	1綴(400字 4枚)		手書	
1011	米政府の改革税制はフラットタックスである		昭和60年6月17日	1綴(400字 5枚)		手書	
1012	累進税制			1綴(400字 3枚)		手書	
1013	累進課税の起源			1綴(400字 2枚)		手書	
1014	わが国の累進税制の推移			1綴(400字 7枚)		手書	
1015	累進税制の研究—累進税制の根拠としての犠牲(効用)平等説			1綴(400字 4枚)		手書	
1016	累進税制の研究—累進課税が受け入れられる一つの思想的背景			1綴(400字 3枚)		手書	
1017	累進税制・相続税			1綴(400字 7枚)		手書	
1018	利子配当の分離は不公平か—累進課税の検討が先決—			1綴(400字 6枚)		手書	
1019	直間比率よりも累進税制の見直しが必要			1綴(400字 2枚)		手書	
1020	間接税の比率を上げるより累進税制の廃止が必要			1綴(400字 2枚)		手書	
1021	比例課税と累進課税			1綴(400字 5枚)		手書	

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1022	累進課税システムの再吟味の必要			1綴(400字 11枚)		手書	
1023	累進課税はなくなるか(ハイエク)			1綴(400字 3枚)		手書	
1024	ヴァージニア大学教授 M. ライトの累進税制批判(要約)			1綴(400字 23枚)		手書	
1025	累進税についての諸家の説(翻訳)			1綴(400字 93枚)		手書	
1025(細目)	累進税の市場経済の作用に及ぶ結果(L. ミーズス)						
1025(細目)	プリンストン大学リュッツ教授の累進課税批判						
1025(細目)	ヴァージニア大学 ライト教授の累進税制批判						
1025(細目)	A. ハイエク 課税と再分配						
1026	アメリカ累進税の進退			1綴(400字 2枚)		手書	
1027	アメリカ合衆国政府の累進課税—リュッツ教授—			1綴(400字 6枚)		手書	
1028	リュッツ教授 自由経済への道しるべ			1綴(400字 20枚)		手書	
1029	ライト教授 “累進課税批判”			1綴(400字 23枚)		手書	
1030	ブラム及びカルベン “累進課税の不安定な擁護論” 他			1綴(400字 48枚)		手書	
1031	アメリカに於ける累進課税の憲法論争について			1綴(400字 18枚)		手書	
1032	累進税を受け入れる思想的背景—「一つの適当な所得」という概念—			1綴(400字 3枚)		手書	
1033	累進税の採用は「財政上の必要」という説明は神話にすぎないこと		昭和59年12月5日	1綴(400字 4枚)		手書	
(4) Gカード							
1034	Gカード論			1綴(400字 5枚)		手書	
1035	Gカード推進論の盲点			1綴(400字 7枚)		手書	
1036	Gカード推進論の盲点			1綴(400字 11枚)		手書	
1036(細目)	1.公平原則以外の租税の原則無視						
1036(細目)	2.クロヨン現象の発生する理由						
1036(細目)	3.利子配当の分離課税は不公平か						
1036(細目)	4. Gカードは全ての国民に影響する						
1036(細目)	5.むすび						
1037	Gカード推進論の盲点—累進課税方式の見直しが先決—			2綴(同文)(400字 20枚)		手書	
1038	グリーンカード推進論の盲点			1綴(400字 7枚)		手書	

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1039	グリーンカード推進論の欠点—朝日新聞の堀昌雄氏の文を読んで—			1綴(400字 4枚)		手書	
1040	堀 昌雄氏のグリーンカード推進論への疑問			1綴(400字 3枚)		手書	
1041	堀 昌雄氏のグリーンカード推進論への疑問			1綴(400字 4枚)		手書	
X 貿易、為替、貨幣、金融							
(1) 貿易							
1042	貿易自由化の問題点		昭和35年5月15日	1綴(ダブロイド 1頁)		活版	「政治と生活」第70号 政治と生活社
1043	国際貿易と国際収支の問題点(覚書)		昭和36年	1綴(400字 35枚)		手書	
1044	国際経済論		昭和45年	1冊(ノート B5 1冊)		手書	
1045	国際経済論		昭和45年	1冊(ノート B5 1冊)		手書	
1046	国際経済		昭和46年	1冊(ノート B5 1冊)		手書	
1047	共産国との貿易で注意すべきこと		昭和53年11月5日	1綴(400字 6枚)		手書	
1048	国際経済の問題(メモ)		昭和58年4月8日	1綴(400字 3枚)		手書	
1049	日米財界人会議 所見		昭和58年7月7日	1枚(400字 1枚)		手書	
1050	貿易摩擦はなぜ起こるか		昭和58年8月1日	1綴(400字 6枚)		手書	
1051	貿易摩擦解消の道		昭和58年8月2日	1綴(400字 5枚)		手書	
1052	日米の貿易摩擦について—「市場を信頼して政府は何もしないのが最善」		昭和58年8月4日	1綴(400字 12枚)		手書	
1053	貿易摩擦はなぜ起るか？		昭和59年10月11日	1綴(400字 4枚)		手書	
1054	自由国家間の貿易摩擦はなぜ起るか		昭和59年10月12日	1綴(400字 5枚)		手書	
1055	日米貿易摩擦で留意すべきこと		昭和60年4月1日	1綴(400字 6枚)		手書	
1056	自由国家の間に貿易摩擦はなぜ起るか？		昭和60年4月4日	1綴(400字 12枚)		手書	
1057	いわゆる貿易摩擦について—自由貿易の成立条件についての合意が必要ではないか—		昭和60年4月8日	1綴(400字 9枚)		手書	
1058	いわゆる貿易摩擦について—自由貿易の成立条件についての合意が必要ではないか—		昭和60年4月8日	2点((400字 12枚))		手書・活版	
1059	いわゆる貿易摩擦について—自由貿易の成立条件についての合意が必要ではないか—		昭和60年4月8日	1綴(400字 12枚)		手書	
1060	貿易摩擦について(補遺)		昭和60年4月9日	1綴(400字 4枚)		手書	

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1061	いわゆる貿易摩擦について(補遺)		昭和60年4月10日	1綴(400字 4枚)		手書	
1062	シュルツ国務相の講演について		昭和60年4月12日	1綴(400字 3枚)		手書	
1063	対外経済問題諮問委員会報告(骨子)を読む		昭和60年4月14日	1綴(400字 13枚)		手書	
1064	対外経済問題諮問委員会報告(骨子)を読む		昭和60年4月14日	1綴(400字 13枚)		手書	
1065	貿易摩擦解消のために(再論)		昭和60年4月19日	1綴(400字 4枚)		手書	
1066	いわゆる貿易摩擦について(補足)		昭和60年4月19日	1綴(400字 4枚)		手書	
1067	貿易摩擦の解消は簡単		昭和60年4月19日	1綴(400字 2枚)		手書	
1068	いわゆる貿易摩擦について		昭和60年4月22日	1綴(400字 3枚)		手書	
1069	貿易摩擦を解消する道—余計な考慮は無益有害—		昭和60年4月30日	1綴(400字 6枚)		手書	
1070	駐日米大使M. マンスフィールドの講演		昭和60年4月	1綴(400字 5枚)		手書	
1071	貿易摩擦を解消する道 8篇		昭和60年4月	1綴(400字 38枚)		手書	
1071(細目)	山口大蔵次官の発言						
1071(細目)	新聞記事「輸入拡大の悩み」						
1071(細目)	新聞記事「長い老後」						
1071(細目)	オルコー米商務次官の証言						
1071(細目)	貿易摩擦を解消する道						
1071(細目)	対外経済問題諮問委員会報告(骨子)を読む						
1071(細目)	シュルツ国務相の講演について						
1071(細目)	いわゆる貿易摩擦について						
1072	貿易論議の盲点		昭和60年5月7日	1綴(400字 8枚)		手書	
1073	「内需拡大の手はないか」自民党4氏討論会(朝日所載)について		昭和60年5月18日	1綴(400字 12枚)		手書	
1074	駐日米大使マンスフィールド氏の講演について		昭和60年5月20日	1綴(400字 2枚)		手書	
1075	河本特命相の見解に対する若干の疑問		昭和60年5月22日	1綴(400字 9枚)		手書	
1076	自由貿易推進のために		昭和60年5月25日	1綴(400字 8枚)		手書	
1077	5月26日NHKの貿易に関する討論について—加藤 寛氏への書信		昭和60年5月27日	1綴(400字 2枚)		手書	(付)加藤 寛返信
1078	〔欠番〕						

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1079	いわゆる貿易摩擦について(覚書) 自由民主党前国会議員会会報第7号		昭和60年6月20日	1綴(B5 3頁)		活版	
1080	いわゆる貿易摩擦について(覚書) 自由民主党前国会議員会会報第7号		昭和60年6月20日	1綴(B5 3頁)		活版	
1081	木内信胤先生「よりよき日本になってみせるとはどうか」を読んで		昭和60年7月5日	1綴(400字 3枚)		手書	
1082	鐘紡会長 伊藤淳二氏の「経済摩擦に七つの提案」を読んで		昭和60年8月22日	2綴(400字 16枚)		手書	同題にて別稿(鉛筆書 400字 11枚)あり
1083	所謂 日米貿易摩擦について(メモ)		昭和60年9月15日	1綴(400字 7枚)		手書	
1084	貿易摩擦の新聞記事論説批判		昭和60年9月18日	1綴(400字 1枚)		手書	
1085	所謂日米貿易摩擦について(メモ)		昭和60年9月19日	1綴(400字 7枚)		手書	
1086	所謂日米貿易摩擦について(メモ)		昭和60年10月10日	1枚(A5 2頁)		活版	
1087	モイニハン上院議員の偏見―毎日(昭和61年1月1日)を読んで		昭和61年1月1日	1綴(400字 2枚)		手書	
1088	日米関係を直視する(1)(2) 毎日新聞 を読んで		昭和61年1月3日	1綴(400字 9枚)		手書	
1089	コーエン教授の発言(毎日61年1月9日)を読んで		昭和61年1月9日	1綴(400字 3枚)		手書	
1090	日米関係を直視する(1)(2) 毎日新聞 を読んで		昭和61年1月3日	1綴(400字 9枚)		手書	
1091	ダンフォース議員の提言「黒字削減目標を設けよ」に対するコメント		昭和61年1月12日	1綴(400字 2枚)		手書	
1092	ダンフォース上院議員の貿易観について		昭和61年1月13日	1綴(400字 3枚)		手書	
1093	ダンフォース議員発言「3－5年で輸入倍増を」コメント		昭和61年1月14日	1綴(400字)		手書	
1094	フェアプレイということば		昭和61年1月16日	1綴(400字 7枚)		手書	
1095	日本批判にどうこたえるか(朝日61年1月26日 社説)コメント		昭和61年1月26日	1枚(400字 1枚)		手書	
1096	日米関係を直視する―第一部米国報告「鷲の怒り」を読んで		昭和61年1月	1綴(200字 7枚)		手書	
1097	日米貿易摩擦に関するコメント 10篇		昭和61年1月2日	1綴(400字 31枚)		手書	
1097(細目)	ドロールEC委員長の発言						
1097(細目)	北出高一氏の発言						
1097(細目)	ライシャワー駐日大使の発言						
1097(細目)	セオドア・ホワイトの発言						
1097(細目)	コーエン教授の発言						
1097(細目)	ダンフォース上院議員の貿易観						

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1097(細目)	P・ドラッガー教授の意見						
1097(細目)	フェアプレイということば						
1097(細目)	正義と他の社会美徳の差異						
1097(細目)	アダム・スミスの自然的自由の体系と正義の法						
1098	〔欠番〕						
1099	〔欠番〕						
1100	真の日本人の姿から貿易摩擦解消論を見よ 自由民主党前国会議員 会会報 No.8		昭和61年2月28日	1部(B5)		活版	
1101	円高でアメリカの対日赤字はどうなるのか		昭和61年4月6日	1綴(400字 5枚)		手書	
1102	アダム・スミスの貿易均衡論			1綴(400字 20枚)		手書	
1103	非共産圏の国際貿易は国家間の取引ではない			1綴(400字 4枚)		手書	
1104	貿易摩擦解消の道			1綴(400字 3枚)		手書	
1105	貿易摩擦論議(メモ)			1綴(B4 6枚)		手書	
1106	「貿易摩擦」はなぜ生じたか			1綴(400字 4枚)		手書	
1107	貿易摩擦と自由貿易			1綴(400字 6枚)		手書	
1108	市場開放			1綴(400字 2枚)		手書	
1109	カルデア教授の提案「価格安定への各国協調」			1枚(400字 1枚)		手書	
1110	木内信胤氏の主張する「全世界貿易を支配すべき基本的プリンシ プル」			1綴(400字 2枚)		手書	
1111	セオドア・ホワイト氏の意図			1綴(200字 5枚)		手書	
1112	連邦国家アメリカと議院内閣制の国—その相違の一面			1綴(400字 2枚)		手書	
1113	日本はアンフェアだとする非難について(2)			1綴(264字 8枚)		手書	
1114	国際分業の条件			1綴(400字 5枚)		手書	
1115	米国が日本をフェア(公正)でないと批判しているのは由々しいことである			1綴(400字 9枚)		手書	
1116	駐日米大使マンスフィールド氏の言に寄せて			1綴(264字 7枚)		手書	
(2) 為替							
1117	円相場の動きに神経質になるな		昭和52年4月19日	1綴(400字 3枚)		手書	
1118	国際収支均衡への道—為替相場公定撤廃への提唱		昭和60年6月10日	1綴(400字 10枚)		手書	

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1119	固定相場制と変動相場制		昭和60年6月10日	1綴(400字 3枚)		手書	
1120	「円相場、動くサミット後」を読んで		昭和61年1月5日	1綴(400字 2枚)		手書	
1121	為替相場と国際収支			1綴(400字 7枚)		手書	
1122	円高についてのフリードマンの言葉から			1綴(400字 3枚)		手書	
1123	北出高一氏(シティバンク為替資金部担当副社長)談について			1綴(400字 5枚)		手書	
(3) 貨幣							
1124	貨幣の諸問題		昭和36年6月12日	1綴(400字 23枚)		手書	
1125	銀行の貨幣創造機能		昭和35年3月	1綴(400字 29枚)		手書	
1126	銀行の貨幣創造機能—貨幣価値不安定の要因—		昭和36年11月	1冊(A5 18頁)		活版	山本叢書第8号
1127	政府による貨幣の管理		昭和56年3月10日	1綴(400字 10枚)		手書	
1128	貨幣本質の発見			1綴(200字 5枚)		手書	
1129	貨幣価値の変動(メモ)			1綴(B4 3枚)		手書	
1130	今日の貨幣と物価			1冊(200字 3枚)		手書	
1131	マネタリストと資産選好理論 ほか			1綴(B5 9枚)		手書	
1132	社会主義社会における貨幣			1綴(200字 37枚)		手書	
1133	貨幣小史 外			1冊(ノート 1冊)		手書	
1133(細目)	貨幣小史						(項目) ◇良貨と経済の繁栄—悪貨と衰退◇交換の発生◇イングランド銀行◇金本位制のはじまり◇1844年のイングランド銀行条例◇1914～1918年の戦時金融◇コーン委員会◇現代の金融制度◇貨幣はいかにあるべきか◇物価水準の安定性と商品本位制◇対外投資◇債権国と債務国◇輸出の目的◇火星への大量貸付(夢物語り)◇経済の安定を維持することの困難について◇事情経済の罪か貨幣経済の罪か
1133(細目)	首都圏における新市街地開発にかんする新制度の問題点						
1133(細目)	W. Röpke教授の「共産主義」について語る						
(4) 金融							

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1134	国際金融の問題—ドルショックから円切上げまで		昭和47年1月	1綴(A5 8頁)		活版	
XI 農業問題							
(1) 農業問題							
1135	農業〇〇法について		昭和28年9月	1綴(B5 17頁)		手書	(前欠)
1136	余剰農産物物語		昭和34年7月	1綴(400字 10枚)		手書	
1137	「農産物価格安定法案」に反対する		昭和34年	1綴(400字 4枚)		手書	
1138	農民保護政策の必要と焦点(覚書)		昭和35年1月	1冊(B6 8頁)		活版	
1139	農村生活の幸福を語る—民主的な社会安定は農民と中小企業から— (政治と生活70号より)		昭和35年5月15日	2点(2頁)		活版	
1140	農業の所得格差の問題		昭和35年12月25日	1綴(400字 8枚)		手書	
1141	農業と競争秩序—農作物の価格支持化、生産の自由か?—		昭和35年12月25日	1綴(400字 8枚)		手書	
1142	麦の問題		昭和35年12月31日	1綴(400字 5枚)		手書	
1143	自由価格の作用—農作物価格支持制度の行方—		昭和36年2月11日	1冊(A5 30頁)		手書	「山本叢書」第2号 東京山本会
1144	農業政策の苦悶—価格支持制度の行方—		昭和36年2月	1綴(400字 5枚)		手書	
1145	人間と米の格付 元東京大学教授 河野重任氏の意見について		昭和54年10月	1綴(400字 2枚)		手書	
1146	米価紛争の解決—市場機能によるほか道なし—		昭和55年7月27日	1綴(400字 2枚)		手書	
1146A	弊害が山積の食管制度廃止 (朝日新聞投書 写)		昭和55年8月10日	1枚			朝日新聞「声」投書掲載
1147	これからの農業経済(講演要旨)			1綴(B4及A4 10枚)		手書	
1148	農業生活の幸福			1綴(200字 15枚)		手書	
1149	食管法の改正案			1綴(400字 4枚)		手書	
1150	池田総理への提言—農業問題—			1綴(400字 11枚)		手書	
1151	食糧管理法の改正			1綴(400字 9枚)		手書	
XII 住宅							
(1) 住宅							
1152	住宅不足の問題		昭和41年5月	1冊(B5 1冊)		手書	
1153	住宅問題		昭和59年9月14日	1枚(B4 1枚)		手書	
1154	われわれの住宅は“うさぎ小屋”か?		昭和59年9月16日	1綴(400字 枚)		手書	

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1155	住宅問題			1綴(200字 58枚)		手書	
XIII 中国、ベトナム、韓国、台湾							
(1) 中国							
1156	中共における自由抑圧の実情 (二) 小竹文雄『百家争鳴』		昭和31年	1綴(200字 7枚)		手書	
1157	中共承認を否とする理由		昭和39年3月22日	1部(A5 3頁)		活版	
1158	日本は中国問題にどう対処すべきか (対談) (「再建」18巻5号)		昭和39年6月1日	1冊(A5 69頁)		活版	
1159	外交 その他		昭和41年6月	1冊(ノート 1冊)		手書	
1159(細目)	共産主義思想と共産主義者						
1159(細目)	日本国憲法に対する社会党の態度、その他						
1160	Why Do I Oppose Dipromatic Recognition of Communistic China?		昭和41年9月28日	1綴(A4 2頁)		活版	Comgressional Recordのコピー
1161	中共問題 メモ		昭和41年	1冊(ノート A5 1冊)		手書	
1162	子どもによる劉少奇の罪状証言		昭和42年1月	1綴(200字 6枚)		手書	
1163	中共問題(メモ)		昭和43年	1冊(ノート A5 1冊)		手書	
1164	私は中共問題をこう見る		昭和46年1月26日	1部(A5 10頁)		活版	
1165	中国実態 (私の日記から)		昭和46年5月	1綴(200字 8枚)		手書	
1166	日中国交条約次第		昭和46年6月13日	1冊(ノート 1冊)		手書	
1167	「国益不在」の中共接近論		昭和46年9月	1冊(B6 20頁)		活版	
1168	誤れる中国のイメージ形成		昭和46年	1枚(200字 1枚)		手書	
1169	中国事情覚書		昭和46年	1綴(400字 11枚)		手書	
1170	共産支配下大陸の民犠牲—米国上院安全委員会の研究報告 (1917年)		昭和46年	1綴(B5 7枚)		手書	
1171	中共との平和共存を妨げるもの		昭和46年頃	1綴(400字 2枚)		手書	
1172	内在的敵人 The Enemy Wrtlin by R. J. De Joeghen		昭和46年	2冊(ノート B5 2冊)		手書	
1173	北京政府と国府の何れが正統か、何れが国連代表たる資格をもつか		昭和47年1月頃	1綴(200字 34枚)		手書	
1174	北京ムードへの警告		昭和47年3月4日	1冊(B6 53頁)		活版	
1175	中国対策に関し日本側の考え方を整理する必要について		昭和47年5月1日	1綴(200字 31枚)		手書	
1176	中国対策に関し日本側の考え方を整理する必要について(要約)		昭和47年5月1日	1綴(200字 24枚)		手書	

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1177	中国対策に関し日本側の考え方を整理する―三木武夫氏の発言に寄せて―		昭和47年5月1日	1綴(200字 53枚)		手書	
1178	中国対策に関し日本側の考え方を整理する必要について―三木氏に寄す―		昭和47年5月1日	1冊(B5 18頁)		タイプ	
1179	日中国交正常化は慎重に		昭和48年7月26日	1綴(B4 1枚)		タイプ	
1180	日中国交正常化に関する意見(自民党編「意見集」所収)		昭和47年8月10日	1冊(B5 22頁)		活版	
1181	日中国交正常化協議会総会における政府側の所信表明に対する質疑		昭和47年8月10日	1綴(400字 枚)		手書	
1182	日中国交正常化のためにわが方が持つべき原則と主張について		昭和47年8月10日	1枚(B4 1枚)		手書	
1183	日中国交正常化を理由に国連決議尊重を口にすることは日本の信用を傷つけるであろう		昭和47年8月14日	1綴(400字 2枚)		手書	
1184	「内政不干渉」の約束で中国の日本革命は防げない		昭和47年8月27日	1綴(400字 3枚)		手書	
1185	日中共同声明とアルバニア方式		昭和47年10月16日	1綴(200字 10枚)		手書	
1186	日中共同声明への疑義―声明はそれほど重要なのか―		昭和49年4月27日	1綴(200字 5枚)		手書	
1187	北京・台北の双方との同時外交関係の可能性		昭和49年5月2日	1綴(200字 9枚)		手書	
1188	不用意な日中共同声明の後遺症		昭和49年5月3日	1綴(200字 3枚)		手書	
1189	傅作義という人物		昭和49年5月24日	1綴(200字 3枚)		手書	
1190	共産中国の実態(メモ)		昭和49年5月	1冊(B5 1冊)		手書	
1191	「内政不干渉」の解釈のちがひ		昭和53年10月27日	1綴(400字 3枚)		手書	
1192	黄華外相の「愛国統一戦線」の呼びかけ		昭和54年12月26日	1枚(400字 1枚)		手書	
1193	『変わる中国―速報』(平田敬一郎氏 59年5月)を読んだの三つの所感		昭和59年6月8日	1綴(400字 3枚)		手書	
1194	中国問題断片			1綴(200字 6枚)		手書	
1195	日中問題断片			1綴(200字 10枚)		手書	
1196	革命は武力で行われる―毛沢東語録から―			1綴(200字 4枚)		手書	
1197	私が会った毛沢東の印象			1綴(200字 19枚)		手書	
1198	美化された中国のイメージ			1綴(200字 5枚)		手書	
1199	これが中国だ! ―木下 彪氏『日本と二つの中国』を読んで―			1綴(200字 11枚)		手書	
1200	中国には泥棒がないということ			1綴(200字 3枚)		手書	

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1201	「世界で一番共産化しないのは中国だろう」といわれていたのに、どうして共産革命が成功したのか？—(ジュゲル神父)			1綴(400字 9枚)		手書	
1202	香港への逃亡者と香港からの逃亡者			1綴(200字 5枚)		手書	
1203	中国の批孔運動に思う			1綴(200字 3枚)		手書	
1204	民衆裁判			1綴(200字 17枚)		手書	
1205	三木武夫先生机下—中国政策—			1綴(200字 9枚)		手書	
1206	日中国交回復促進議員連盟の「宣言」を読んで			2綴(同文)(B4 2枚)		タイプ	
1207	中共の国連加盟の論拠は何か？		昭和45年10月24日	1綴(A5 3枚)		手書	
1208	「再建」誌上に掲載の渡辺氏の手紙に対する返信—中国問題			1綴(書簡箋 6枚)		手書	
1209	日中貿易の将来—広州交益会から帰った商社マンの話を聞いて—			2綴(同文)(B4 2枚)		タイプ	
1210	中共における自由抑圧			1綴(200字 3枚)		手書	
1211	ナショナリストによる中国本土回復の可能性	Kim D. Combs氏 (山本訳)		1綴(828字 6頁)		タイプ	
(2) ベトナム							
1212	村上安氏の論文を読んで—ベトナム問題に関する—		昭和40年	1綴(200字 12枚)		手書	
1213	ベトコン(VC)についての考察		昭和41年10月1日	1綴(B5 5頁)		タイプ	
1214	東南アはどこへ行く—ベトナム視察記—		昭和41年11月5日	1部(新聞 2頁)		活版	国会新報 1043号 国会新聞社
1215	SONE THOUGHTS ON VIET CONG		昭和41年10月3日	1綴(A4 3枚)		タイプ	英文
1216	東南アはどこへ行く—山本代議士との対談—		昭和41年11月5日	1部(タブロイド 2頁)		活版	国会新報 1043号 国会新聞社
1217	「ベトナムにおける自由を伴う平和のための市民委員会」の声明		昭和41年11月28日	1綴(B5 9頁)		タイプ	
1218	ベトナム問題 (1) 歴史・教育・宗教のあらまし クオン・デ候の悲劇		昭和42年6月	1冊(ノート A5 1冊)		手書	
1219	ベトナム問題 (3)		昭和42年5月	1冊(ノート A5 1冊)		手書	
1219(細目)	百日の説法屁一つ						
1219(細目)	新聞の投書、ほか						
1219(細目)	“北爆”についての私案						
1220	ベトナム問題 (4)		昭和42年5月	1冊(ノート A5 1冊)		手書	

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1220(細目)	ジョンソン大使の説明に対して提起された疑問について						
1220(細目)	友笠睦人氏の考え						
1220(細目)	ベトナム・ラオス・カンボジアを巡って	千家欽也					
1220(細目)	「赤旗」5月14日号「数学者の声明」						
1220(細目)	5月16日ドゴールの記者会見での発言						
1220(細目)	友井氏の発言について						
1220(細目)	ベトナム紛争の事実関係						
1220(細目)	南北ベトナムに対する国際的承認の比較						
1221	ベトナム問題 (5) 問題の検討一		昭和42年5月	1冊(ノート A5 1冊)		手書	
1221(細目)	戦果のベトナムを訪問する決心をした理由						
1221(細目)	ベトナム戦争の本質—アメリカの帝国主義的史略だという見方—はるばる遠くアメリカが派兵した理由は何か？						
1221(細目)	南ベトナムの解放戦線・通常ベトコンと呼ばれるものの性格						
1221(細目)	南ベトナム政府は合法的政権か						
1221(細目)	ジュネーブ協定を違反したのはどの国か						
1221(細目)	人名尊重の理由でアメリカの出兵に反対することは正しいか						
1221(細目)	5月12日数学者たちのアピールについて						
1221(細目)	アメリカのベトナム援助は徒労か						
1221(細目)	アメリカ北爆をどう考えるべきか						
1221(細目)	価値判断を下す前に先ず事実関係を具体的にること						
1221(細目)	自由の国が自国に共産革命の起こる余地をなくすこと						
1221(細目)	ベトナム戦争の見通し						
1222	ベトナム問題メモ (6)		昭和42年6月	1冊(ノート A5 1冊)		手書	
1222(細目)	ベトナム反戦行動についての新聞への投書に						
1222(細目)	東光毒舌説法						
1222(細目)	「ベトナム式ウソ」—無意味なウソ						
1222(細目)	スコイギン首相の発言						

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1223	ベトナム問題 (7) ベトナム戦争の本質を理解するためには…		昭和42年5月	1冊(ノート A5 1冊)		手書	
1223(細目)	ベトナム戦争の本質を理解するためには						
1223(細目)	ペシール・ベン・ヤームド氏の報告を読んで						
1223(細目)	5月の「声」から—について						
1224	ベトナム問題 (8)		昭和42年6月	1冊(ノート A5 1冊)		手書	
1224(細目)	森 恭三氏の見解						
1224(細目)	民族自決主義						
1224(細目)	民族の独立ということ						
1224(細目)	新植民地主義ということ						
1224(細目)	固有の国土ということ						
1224(細目)	南ベトナムの国民の多数は自由民主主義を望んでいるのか、共産社会を望んでいるのか						
1225(細目)	ベトナム問題 (10)		昭和42年6月	1冊(ノート A5 1冊)		手書	
1225(細目)	ベトナム戦争の性格について						
1225(細目)	北(ハノイ)の理論づけ—アメリカとの考え方との違い						
1225(細目)	事実はどうか						
1225(細目)	ベトコンの性格—ハノイの共産主義政権との関係—						
1225(細目)	南ベトナム政府やアメリカがジュネーブ協定を破ったのではない						
1225(細目)	アメリカは速やかにベトナムから軍隊を撤収すべきだという考えについて						
1226	ベトナム問題 (11)		昭和42年6月	1冊(ノート A5 1冊)		手書	
1226(細目)	アメリカは速やかにベトナムから軍隊を撤収すべきだという考えについて—つづき						
1226(細目)	アメリカのベトナム介入はベトナム人の民族自決権を奪うものだという考え方について						
1226(細目)	アメリカ人に対するベトナム人の国民感情について						
1226(細目)	アメリカのベトナム出兵がアジアに軍事的緊張をもたらし、世界の平和の重大な脅威となっているという主張について						
1226(細目)	フランスのやり方とアメリカのやり方の違い						
1226(細目)	南ベトナムのことは南ベトナム人に委せろという考え方について						

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1226(細目)	アメリカがベトナムから手を引かない理由						
1226(細目)	アメリカのベトナム援助は徒労だという見解						
1226(細目)	アメリカ国内における論争						
1227	ベトナム問題 (12)		昭和42年6月	1冊(ノート A5 1冊)		手書	
1227(細目)	佐藤賢了元陸軍中佐の見解に対する批判						
1227(細目)	ニューヨークタイムスの見解に対する批判						
1227(細目)	坂本義和氏の見解に対する批判						
1227(細目)	穴戸寛氏の見解に対する批判						
1227(細目)	服部学氏の見解に対する批判						
1227(細目)	長州一二氏の見解に対する批判						
1227(細目)	日高六郎氏の見解に対する批判						
1228	ベトナム(13)		昭和40年	1冊(ノート A5 1冊)		手書	
1228(細目)	ベトナム戦争の性格についての両者の言い分						
1228(細目)	言葉の信頼度の問題						
1228(細目)	朝日ジャーナルの質問状に対する回答(自由民主党)						
1229(細目)	〔ベトナム問題 (14)〕「これがベトナムだ」(読売新聞)に対する批判―		昭和42年6月	1冊(ノート A5 1冊)		手書	
1230	ベトナム問題[の正しい理解のために] (1)		昭和41年10月～12月	1冊(ノート A5 1冊)		手書	
1230(細目)	国家安全保障の見地からみた内治外交の諸問題(メモ)						
1230(細目)	安全保障についての小坂試案を読んで						
1230(細目)	北朝鮮・金日成の独裁体制―共産北鮮の実情―						
1230(細目)	日本・大国の役割―ライシャワー大使語る						
1230(細目)	バンディ極東担当国務次官補の演説						
1231	ベトナム問題理解のために (2)		昭和41年10月～13月	1冊(ノート A5 1冊)		手書	
1231(細目)	中共の核ミサイル実験の成功について						
1231(細目)	ドゴール発言について―その思い上がりと非情性						
1232	ベトナム問題(新聞への投書)		昭和42年1月～6月	1冊(ノート A5 1冊)		手書	
1233	“Viet cong” ベトコン (1)		昭和42年6月	1冊(ノート A5 1冊)		手書	

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1233(細目)	共産主義者と国民主義者の葛藤						
1233(細目)	ベトコンの発展過程						
1233(細目)	闘争活動の二様式						
1234	Viet cong (2) テーラー大将、ウエストモーランド大将の報告、ほかー		昭和42年	1冊(ノート A5 1冊)		手書	
1235	Viet cong (3)		昭和42年	1冊(ノート A5 1冊)		手書	
1235(細目)	南ベトナムにおけるベトミン						
1235(細目)	ベトミンの勝利—その原因は何かー						
1235(細目)	広くナショナリストの組織について						
1236	ベトナム和平交渉の試み—グラスポロ会談についての所感 ほかー		昭和42年7月	1冊(ノート A5 1冊)		手書	
1237	ベトナム視察日程		昭和42年9月	1冊(ノート A5 1冊)		手書	
1238	ベトナム覚書 (1)		昭和42年	1冊(ノート A5 1冊)		手書	
1238(細目)	南ベトナムにおけるフランスの存在						
1238(細目)	ナショナリストの諸組織						
1239	ベトナム覚書 (2)		昭和42年	1冊(ノート A5 1冊)		手書	
1239(細目)	ナショナリストの諸組織 (つづき)						
1239(細目)	ホ・チミンの経歴						
1240	〔欠番〕		昭和42年				
1241	ベトナム覚書 (3)		昭和42年	1冊(ノート A5 1冊)		手書	
1242	ベトナム メモ (A)		昭和42年	1冊(ノート A5 1冊)		手書	
1243	ベトナム メモ (B)		昭和42年	1冊(ノート A5 1冊)		手書	
1244	ベトナム問題について(I)		昭和42年	1冊(ノート A5 1冊)		手書	
1244(細目)	まえがき						
1244(細目)	第1章 南北ベトナム人の性格—歴史のあらまし						
1244(細目)	第2章 フランスの支配と南と北で反仏レジスタンスの道						
1244(細目)	ジュネーブ協定の内容						
1245	ベトナム問題について(II)		昭和42年	1冊(ノート A5 1冊)		手書	
1245(細目)	第5章 ベトナム戦争の性格						

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1245(細目)	第6章 アメリカ国内における論争						
1245(細目)	第7章 現状と見通し						
1245(細目)	考え方についての反省						
1245(細目)	日本人として学ぶべき大事なことは何か						
1245(細目)	明治天皇 御製						
1246	ベトナムをこう考える。台湾紀行(摘要)		昭和42年	1冊(ノート B5 1冊)		手書	
1247	南ベトナム代表(ファン・フィ・クアット)氏の報告演説		昭和42年	1綴(B5 4頁)		タイプ	
1248	ベトナム問題—研究—		昭和42年	1冊(ノート B5 1冊)		手書	
1249	森 恭三氏「民族自決の原則を」を読んで		昭和18年1月20日	1冊(ノート 1冊)		手書	
1250	森 恭三氏のベトナム戦争論批判		昭和18年4月1日	(B5 13頁)		活版	「経済往来」昭和43年4月
1251	南ベトナム代表(ファット)氏の報告演説—山本勝市 訳—			1綴(B5 4頁)		タイプ	
1252	村山 安氏「民族自決の原理—アジア諸国民の志望」を読んで			1綴(200字 24枚)		手書	
(3) 韓国							
1253	韓国問題 メモ		昭和40年	1冊(ノート A5 1冊)		手書	{内容} ◇◇◇◇◇◇◇◇
1253(細目)	韓国人の忠告(朴 鉄柱氏)						
1253(細目)	朝鮮戦争の真相						
1253(細目)	韓国政府の性格						
1253(細目)	南北朝鮮の問題						
1253(細目)	朝鮮半島略史						
1253(細目)	日韓基本条約						
1253(細目)	在日韓国人の地位協定 ほか						
1254	日韓首脳会談について (メモ)		昭和58年1月13日	1綴(400字 2枚)		手書	
1255	日韓条約の成立について		昭和40年	1綴(400字 5枚)		手書	
1256	〔欠番〕						
(4) 台湾							
1256A	台湾紀行		昭和42年9月	1冊(ノート B5 1冊)		手書	
1257	台湾問題		昭和46年	1袋(200字 25枚)		手書	

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1258	台湾			1綴(A4 3枚)		手書	
XIV ヨーロッパ、ロシア、E E C							
(1) ヨーロッパ							
1259	ポーランドの実績 (織田幹雄氏「ワルシャワの印象」より抜粋)		昭和30年9月	1綴(200字 5枚)		手書	
1260	共産国の実績 (東ドイツ 西ドイツの比較)		昭和30年12月	1綴(200字 17枚)		手書	リーダーズ・ダイジェスト抜粋
1261	ハンガリーの実績 チャバ「自由のために、ただ自由のために」より		昭和30年	1綴(200字 4枚)		手書	
1262	東独紀行		昭和32年7月	1綴(B5 5頁)		活版	新聞切抜
1263	東独紀行—東独ロストック市の印象—		昭和32年7月	1綴(200字 21枚)		手書	
1264	東独ロストックを訪ねて		昭和32年7月	1綴(400字 15枚)		手書	
1265	アラスカ、ノルウェー、デンマーク、ドイツ、スウェーデン		昭和32年	1冊(ノート A5 1冊)		手書	
1266	渡欧日記		昭和32年37(3月7日?)	4冊(ノート A5 4冊)		手書	
1267	困難を克服し得ない欧州経済共同体 (レプケ教授)		昭和37年5月	1綴(B4 6枚)		タイプ	翻訳
1268	ヨーロッパの進歩—それはECCの結果か?		昭和37年10月	1綴(400字 31枚)		手書	翻訳
1269	困難を克服し得ない欧州経済共同体 (レプケ教授)		昭和37年	1綴(B5 12頁)		タイプ	
1270	私の見たEEC		昭和38年2月26日	1冊(B5 39頁)		タイプ	日本百貨店協会 経営研究講演会速記録
1271	EECに対するエアハルト経済相の考え方		昭和32年	1綴(200字 14枚)		手書	
1272	東独入りの苦心 (その一)		昭和32年9月14日	1綴(200字 31枚)		手書	
1273	欧州の繁栄とその教訓 他 (レプケ)		昭和40年4月	1冊(ノート 1冊)		手書	
1273(細目)	真の経済秩序の確立						
1273(細目)	手段と欲望を調和させる方法						
1273(細目)	経済の「ひずみ」の問題についての覚書						
1273(細目)	農村生活の価値について						
1273(細目)	アメリカのベトナムにおける行動とアメリカの日本における行動の比較—その同一性						
1273(細目)	他に 三篇(山本)						
1274	レプケ、欧州の繁栄とその教訓		昭和40年5月	1冊(A5 14頁)		活版	政策月報 112号 掲載

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1275	オルテガ ヨーロッパという一つの社会の存在		昭和51年8月30日	1綴(400字 3枚)		手書	
1276	西ドイツの経済の現状に想う—その盛衰と教訓		昭和59年6月29日	1綴(400字 5枚)		手書	
1277	ドイツの非インフレ的経済の経験			1枚(400字 1枚)		手書	
1278	欧州の進歩はEECのできた結果か？			1冊(ノート A5 1冊)		手書	
1279	ヨーロッパ視察旅行 (報告原稿)			1綴(B4 6枚)		手書	
(2) ロシア							
1280	ソ連式経済のついでメモ		昭和38年	1綴(B4 52枚)		手書	
1281	「モスクワの夏」について		昭和49年7月31日	1綴(200字 3枚)		手書	
1282	ソ連の国民生活を理解するために		昭和58年7月25日	1綴(400字 21枚)		手書	
1283	1917年以前のロシアの経済状態		昭和59年10月13日	1綴(400字 4枚)		手書	
1284	1918年以前のロシアの経済状態		昭和59年10月13日	1綴(400字 3枚)		手書	
1285	EECとレブケ教授		昭和47年11月13日	1冊(A5 7頁)		手書	自民党「政策月報」203号
1286	対ソ政策(翻訳)			1綴(400字 32枚)		手書	著者不詳
1287	ソ連のチェコ占領と米国のベトナム戦介入の違い			1枚(B5 1枚)		タイプ	
(3) EEC							
1288	EEC研究ノート			6冊(ノート 6冊)		手書	
1289	ECの統合について—質問と欧州各国公館責任者の回答			1冊(ノート 1冊)		手書	
XV 随想、日記、手帳、思い出、備忘録							
(1) 随想							
1290	人間の脳とコンピューターの差		昭和53年12月5日	1枚(400字 1枚)		手書	
1291	“息たえるまで” (蓮如御文に関連して)		昭和60年8月7日	(400字 2枚)		手書	
1292	太初に「行」ありき			1綴(400字 2枚)		手書	
1293	科学万能主義のもう一つの流れ			1綴(400字 4枚)		手書	
1294	知力過信という病の一例			1枚(B4 1枚)		手書	
1295	トインビーの二分法批判 ほか			1綴(400字 3枚)		手書	
1296	ケネディの死に思う			1綴(400字 3枚)		手書	
1297	知の立場と行の立場			1綴(400字 3枚)		手書	

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1298	「述而不作」			1綴(400字 2枚)		手書	
1299	中位			1綴(400字 2枚)		手書	
1300	寸言—正邪について—			1綴(400字 2枚)		手書	
1301	偶感			1綴(400字 2枚)		手書	
1302	近時雑感			1綴(400字 4枚)		手書	
1303	講演(挨拶)要旨—中央学院大学にて—			1綴(400字 5枚)		手書	
1304	悔いなき人生とは			1綴(400字 3枚)		手書	
1305	屑屋			1綴(400字 3枚)		手書	
1306	忘れ得ぬ言葉のいくつか			1綴(400字 6枚)		手書	
1307	学生動員についておもう			1綴(400字 3枚)		手書	
1308	河上博士の思い出の一つ			1綴(400字 2枚)		手書	
1309	大正七・八・九年頃の河上博士のマルクス狂信状態			1綴(400字 3枚)		手書	
1310	河上博士の『貧乏物語』			1綴(400字 3枚)		手書	
1311	提言—新聞の自由について—			1綴(400字 3枚)		手書	
1312	随想—生理学・生物学の認識と経済学の認識の限界			1枚(400字 1枚)		手書	
1313	徳山二郎氏の論点—日本人論について—			1綴(400字 2枚)		手書	
1314	コンピューターと人間能力 (パーキンソン)			1綴(400字 2枚)		手書	
1315	人間性について—生命と自由と幸福追求—			1綴(400字 13枚)		手書	
1316	随想—人はみな自分を大切にし、よりよい生活を求めて努力する—			1綴(400字 4枚)		手書	
1317	社会生活におけるある種の秩序			1綴(400字 2枚)		手書	
(2) 日記							※補遺その2(請求番号1832～1840)にも日記あり
1318	日記抄 国民精神文化研究所時代		昭和16年～20年	1冊(ノート 1冊)		手書	
1319	日録 昭和25年～26年		昭和25年～26年	1綴(半紙判 4枚)		手書	
1320	日記 昭和32年1月1日～3月26日		昭和32年1月1日～3月26日	1冊・1枚(ノート A5 1冊)		手書	(付)社会党政権の可能性
1321	来客名簿及び日誌 (三楽病院入院)		昭和35年	2冊(ノート 2冊)		手書	
1322	一日の日記		昭和39年9月15日	1綴(400字 4枚)		手書	

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1323	日記(断片)		昭和56年4月頃	1綴(400字 5枚)		手書	
1324	戦時日記抄		昭和60年10月15日	1綴(400字 4枚)		手書	
1325	佐賀日記(昭和43年6月)			1冊(ノート 1冊)		手書	
(4) 思い出							
1326	わが文章の思い出を語る―終戦以後―、―終戦まで―		昭和32年11月18日	2綴		手書	
1327	思い出の記―高商教授時代―		昭和38年4月30日	1冊(B6 57頁)		活版	
1328	思い出の記―大正6年三高入学まで―		昭和38年4月30日	1冊(B6 50頁)		活版	
1329	わが文章の思い出を語る―昭和20年8月終戦まで―		昭和38年5月30日	1冊(B6 48頁)		活版	
1330	思い出の記―大正六年三高入学まで―		昭和38年	2綴(400字 56枚)		手書	手書(筆)、美濃紙 17枚 別 あり
1331	経済博士山本勝市氏 談話 (戦前戦中回顧)		昭和54年5月1日	1綴(B5 9枚)		手書	
1332	思い出の記 (I) (II)		昭和53年	2冊(ノート 2冊)		手書	
1333	国民精神文化研究所時代―概説、研究生の思い出、研究所へ転任した経緯、研究所をやめたいきさつ			4点(ノート 2冊/原稿 2綴)		手書	
1334	思い出(未完)、平野増吉、小川平吉、平野三郎の諸氏に関する思い出			1綴(400字 5枚)		手書	
1335	思い出 (深井博青年のこと)			1綴(400字 6枚)		手書	
1336	〔欠番〕						
1337	国民精神文化研究所の思い出 (一) (二) (三)			3綴(400字 24枚)		手書	『思い出』(内容)
1338	研究生指導科の思い出			1綴(400字 24枚)		手書	『思い出』(内容)
1339	三高時代			1綴(400字 9枚)		手書	『思い出』(内容)
1340	和歌山から東京へ			1綴(400字 17枚)		手書	『思い出』(内容)
1341	和歌山高商時代			1綴(400字 8枚)		手書	『思い出』(内容)
1342	研究生指導科の思い出(はしがき)			1綴(400字 4枚)		手書	『思い出』(内容)
1343	大正六年―昭和三十五年の主なる出来事の覚書			1綴(400字 8枚)		手書	『思い出』(内容)
1344	思い出 補記			1綴(400字 7枚)		手書	『思い出』(内容)
1345	思い出 補記(まえがき)			1綴(400字 7枚)		手書	『思い出』(内容)
1346	思い出 (印刷の原稿)			1綴(400字 117枚)		手書	

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1347	私の履歴書 付・思い出―			1冊(ノート 1冊)		手書	
(5) 備忘録							
1348	備忘及び思いで		昭和22年～23年	1冊(ノート 1冊)		手書	
1349	メモ (日誌・住所録)		昭和33年	1冊(ノート 1冊)		手書	
1350	備忘録 (1)		昭和40年7月～8月	1冊(ノート 1冊)		手書	
1350(細目)	国家的信頼性についての米国大統領の態度						
1350(細目)	東京都議選の結果						
1350(細目)	フルシチョフ退陣後のソ連の政権						
1350(細目)	社会党政権と共産革命						
1350(細目)	不況対策(メモ)						
1350(細目)	宇都宮君と私との意見の相違						
1350(細目)	社会党の日韓条約批准反対の根拠						
1350(細目)	総評定期大会						
1350(細目)	公債政策とインフレの関係						
1350(細目)	経済成長論争について―下村、美濃部氏の見解						
1350(細目)	オートバイは日本が世界一						
1351	(メモ) MEMO (2)		昭和40年7月～8月	1冊(ノート 1冊)		手書	
1351(細目)	共産圏貿易を伸ばせ						
1351(細目)	7月28日のジョンソン大統領記者会見						
1351(細目)	大谷光瑞氏の“無題録”―成功と栄達						
1351(細目)	岡博士“春風夏雨”より						
1351(細目)	レプケ Civitas Humana 上巻						
1351(細目)	ソ連の農業						
1351(細目)	残暑猛烈―皆様お変わりはございませんか						
1351(細目)	浜地文平君へ―学者の役割について						
1351(細目)	外人記者クラブにおけるベトナム問題についての討論会						
1351(細目)	「呼び水」政策が成功するための条件						

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1351(細目)	安全というもの						
1351(細目)	共産党と公明党の抬頭						
1351(細目)	高坂正堯氏「アジアにおける日本の将来」						
1351(細目)	蔣總統の米誌記者への回答						
1351(細目)	衛藤藩吉氏の「北京外交の行動原則」						
1351(細目)	正しい力の行使						
1351(細目)	最近の政治の動き						
1351(細目)	米価についてのデマ報道						
1352	(メモ) MEMO (3)		昭和40年8月～11月	1冊(ノート A5 1冊)		手書	
1352(細目)	レプケ教授のいわゆる「第三経済」について						
1352(細目)	国際共産勢力の本質と動きをどうみるか						
1352(細目)	朝日ジャーナルの9月4日号を読んで						
1352(細目)	9月9日ドゴール大統領記者会見の発言						
1352(細目)	9月11日読売新聞「編集手帖」より						
1352(細目)	中共の国際的地位の変化						
1352(細目)	日韓友好条約問答						
1352(細目)	毛沢東の思想						
1352(細目)	米、税制上から企業近代化を促進						
1353	覚書— MEMO (4)		昭和40年9月	1冊		手書	
1353(細目)	「米へ加担するな—ソ連再び対日覚え書」						
1353(細目)	繁栄導いた安保体制(加瀬俊一)						
1353(細目)	経済管理改革を承認(ソ連中央委員会)						
1353(細目)	共産主義のもとにおける経済発展の計画化						
1353(細目)	日韓国交平常化の決断						
1353(細目)	日韓条約の締結と南北朝鮮統一との関係						
1353(細目)	外国人はアメリカをこう見る(ブルース・ハッケン)						
1353(細目)	アメリカ民主主義						

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1353(細目)	宇都宮君の論文(アジアの新興民主主義と北朝鮮。私の中国観。日韓条約と日本のアジア外交。)を読んで						
1353(細目)	宇都宮代議士の佐藤総理への「意見書」について						
1353(細目)	ライシャワー大使の講演より						
1354	メモ (II)		昭和40年	1冊(ノート A5 1冊)		手書	
1354(細目)	大平正芳氏の蒋介石及びスカルノの印象を聞く						
1354(細目)	尿尿処理のいろいろ						
1354(細目)	読売新聞「編集手帖」氏の論理						
1354(細目)	元中国総参謀長 羅瑞卿の「紅旗」にのせた論文						
1354(細目)	オイケン“国民経済学の基礎”						
1354(細目)	対日5年の印象 I. L.. スチュアート						
1354(細目)	谷川徹三氏「人類は運命共同体」—宗教と平和共存						
1354(細目)	ビルマ社会主義						
1354(細目)	32年前の写真						
1354(細目)	訪ソ「植村使節団」の報告						
1354(細目)	読売新聞「編集手帖」を読んで						
1355	読書メモ		昭和40年	1冊(ノート A5 1冊)	『経済困難』(松下幸之助)『異常事態』(木内信胤)をどう乗り切れるか	手書	
1356	備忘録		昭和40年	1冊(ノート 1冊)		手書	
1356(細目)	(1)低開発国の民族社会主義について						
1356(細目)	(2)国会正常化の私案						
1356(細目)	(3)ベトナムの民族主義者						
1356(細目)	(4)いわゆる混合経済と統制経済						
1357	備忘録 主に中国問題の他 自由社会の危機 等		昭和40年11月～12月	1冊(ノート 1冊)		手書	
1358	覚書		昭和41年4月	1冊(ノート 1冊)			
1358(細目)	非常□を忘れた日本経済—動脈硬化したケインズ派経済政策—						
1358(細目)	国会審議について思う						

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1358(細目)	ラスク米国務長官のパリ・マッチ誌(仏)とのインタビュー						
1358(細目)	“今日のソ連邦1966年5月1日号抜粋”						
1359	備忘録		昭和41年	1冊(ノート 1冊)		手書	
1359(細目)	9月2日の林彪「人民戦争勝利万才」						
1359(細目)	今日の侵略者—共産主義—レプケ教授						
1359(細目)	「社会主義協会」の明らかにした社会党と共産党の関係						
1359(細目)	レプケの「ヒューマニズムの経済学」						
1359(細目)	市場経済の現象形態が、その本質とは無関係にいろいろな形をとるもの だということだ						
1359(細目)	われわれと共産主義・社会主義者とのちがいについて						
1359(細目)	アメリカのニグロ問題に想う						
1359(細目)	疑義に答う						
1360	備忘録 (東南アジア紀行)			1冊(ノート 1冊)		手書	新聞切抜を含む
1361	備忘録		昭和42年2月	1冊(ノート 1冊)		手書	
1361(細目)	人民内部の矛盾を正しく処理する問題について						
1361(細目)	三八運動と四清運動						
1361(細目)	昭和42年1月29日の「選挙公報」						
1361(細目)	NPD(ドイツ国民民主党)の本質						
1361(細目)	正直とは						
1361(細目)	国民の声						
1361(細目)	悪性インフレ誘起—かえって国民に不安を招く						
1362	備忘録		昭和42年4月	1冊(ノート 1冊)		手書	
1362(細目)	劉少奇夫妻、子どもと押問答						
1362(細目)	都市と保守党、都知事選の結果と今後の課題						
1362(細目)	自民党治安対策調査委員会での私の提言						
1362(細目)	夢						
1362(細目)	昭和42年4月、京都市						

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1363	備忘録		昭和42年4月	1冊(ノート 1冊)		手書	
1363(細目)	金東光の毒舌演説						
1363(細目)	都知事選の教えるもの						
1363(細目)	憲法研究会と憲法調査会のメンバー						
1363(細目)	世界の中の日本						
1363(細目)	いわゆる「移行モデル」について						
1364	備忘録 日本の家庭―ほか		昭和42年	1冊(ノート 1冊)		手書	
1364(細目)	日本の家庭						
1364(細目)	ジャーナリズムの任務と危険						
1364(細目)	美濃部亮吉氏の偏向理論						
1364(細目)	中野好夫氏の思想						
1365	桑の葉		昭和43年	1冊(ノート 1冊)		手書	
1366	読書余録		昭和44年、45年	5冊(ノート 5冊)		手書	
1367	病床から (録音テープより)		昭和61年7月18日	1綴(B5 20枚)		謄写	(付 三浦貞蔵 註記)
1368	抜書			1冊(ノート 1冊)		手書	
1368(細目)	1.レブケ『経済原論』第一章 第二章						
1368(細目)	2.「日本の経済社会体質改善研究会」趣意書 (案)						
1368(細目)	3.自由主義者の確信						
1368(細目)	4.恥を知ること						
1369	メモ			1冊(ノート 1冊)		手書	
1369(細目)	職人堅気						
1369(細目)	勇気						
1369(細目)	戦争と平和に関するソ連共産党の立場						
1369(細目)	日本教育における明治百年(勝部真長)						
1369(細目)	蔣総統の大陸反攻は夢か？						
1369(細目)	国民審議を正常化する方法						
1369(細目)	所感						

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1370	メモ			1冊(ノート 1冊)		手書	
1370(細目)	東京都議選に関する週刊現代の記事						
1370(細目)	レプケ教授の景気変動論から						
1370(細目)	ベネディクト『菊と刀』から						
1370(細目)	社会党に投票することは共産党に投票することであり共産革命を促進するものである						
1371	メモ 第4号 レプケ摘訳 他			1冊(ノート 1冊)		手書	
1372	断片とメモ			1綴(400字)		手書	
1372(細目)	P.1 論理的に見れば偽証より偽善が悪い						
1372(細目)	P.4 十七条憲法第一条の理解の仕方						
1372(細目)	P.6 山鹿素行「謫居童問」18欲心 19利心						
1372(細目)	P.8 本居宣長「玉勝間」巻の四 巻の二十						
1372(細目)	P.13 われわれはインフレの中にあるという認識が必要である						
1372(細目)	P.15 小島祐馬『中国の社会思想』						
1372(細目)	P.19 宮代町の多目的議場						
1372(細目)	P.20 臨調の最終答申に思う		昭和58年3月18日				
1372(細目)	P.25 福祉国家亡国論—木内信胤氏の対談 (『動向』昭和51年1月号)						
1372(細目)	P.26 藤村操「巖頭の感」						
1372(細目)	P.27 教育基本法						
1372(細目)	P.28 河上 肇						
1372(細目)	P.31 井上 毅「五倫と生理の関係」						
1372(細目)	P.38 相対主義—デモクラシーの悲劇—ケルゼンの説に関して						
1372(細目)	P.41 不変の原則と不変の現象形態						
1372(細目)	P.43 分業の網の目						
1372(細目)	P.44 アメリカ合衆国の所得保障政策						
1372(細目)	P.53 江戸時代の文運		昭和59年8月25日				
1372(細目)	P.57 ミルの『自由論』第一章 序説						

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1372(細目)	P.61 政府の経済統計を廃止した場合のプラスとマイナス						
1373	覚書			1綴(400字 24枚)		手書	
1373(細目)	マルクスの「資本主義的生産法」						
1373(細目)	青山秀雄「資本主義経済の特徴」						
1373(細目)	「現代用語基礎知識」に見る経済体制に関する説明						
1373(細目)	林健太郎氏「西洋史用語の解説」マーカンティリズム レッセフィール 近代社会						
1373(細目)	レプケの資本主義という言葉の用法						
1373(細目)	私が資本主義という言葉を選んだ理由(山本)						
1374	覚書			1綴(400字 3枚)		手書	
1374(細目)	二つの対立する価値観(どちらが勝つか)						
1374(細目)	経済伝説と世論						
1374(細目)	政府支出と税金の関係						
1375	覚書			1綴(400字 8枚)		手書	
1375(細目)	自民党政治大学院講座「福祉国家亡国論」の項目(昭和59年11月13日)						
1375(細目)	私の信じる長命のこつ						
1375(細目)	大蔵大臣ロイド・ジョージの4時間半にわたった予算説明の最後の言(1909)						
1375(細目)	帝国憲法とは知らずの意なり						
1375(細目)	歴史と史観						
1375(細目)	誤解を招く新聞報道—自由主義の意味について						
1375(細目)	肉体の疲労と精神の疲労の別						
1376	〔欠番か?〕						
1377	山下寅蔵語録			1綴(A5 9枚)		活版	
1378	桑の葉 第1号 昭和39～40年			1冊(ノート 1冊)		手書	
1378(細目)	P.1 ある工場の盛んなスイス—農村の社会的横断面						
1378(細目)	P.2 理想を尊重すること						

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1378(細目)	P.3 理性に反対するもの 理性の誤った使い方						
1378(細目)	P.4 合理主義のあやまり						
1378(細目)	P.5 我々が知性主義者 合理主義者を非難する理由						
1378(細目)	P.6 理性の思い上り						
1378(細目)	P.8 共同体と空間的協会の関係						
1378(細目)	P.9 自由と拘束						
1378(細目)	P.10 合理主義者、啓蒙思想家の誤った道の歴史的起源						
1378(細目)	P.12 フランスの社会史、精神史						
1378(細目)	P.13 科学万能の考へ方						
1378(細目)	P.14 経験主義と実証主義の関係						
1378(細目)	P.15 実証主義と技術万能の考え方や集団主義との関係						
1378(細目)	P.17 科学技術の信仰						
1378(細目)	P.18 科学の自己反省—健全な社会では科学や理性に如何なる地位を与えるべきか						
1378(細目)	P.22 精神的な科学万能主義						
1378(細目)	P.23 科学万能主義の二つの流れ—分析的批判の流れ、唯物技術主義的流れ						
1378(細目)	P.24 鉛のように重苦しい世界						
1378(細目)	P.25 近代社会における科学主義の役割—思い上りは破滅のもと						
1378(細目)	P.29 科学者の任務						
1378(細目)	P.31 価値判断についての一つの価値判断						
1378(細目)	P.33 母と子						
1378(細目)	P.34 一保安官のNapoleonに与えた美しい言葉、市民の勇気						
1378(細目)	P.35 Philipp II治下の Spain 政府委員会の決定						
1378(細目)	P.39 考える経済秩序の三つの種類						
1378(細目)	P.42 集団主義の欠点						
1378(細目)	P.43 ソ連における需給の不均衡(局部肥大症)						
1378(細目)	P.46 草野心平の「名誉心」						

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1378(細目)	P.47 Röpke “Civitas Humana” 第1版 序文						
1378(細目)	P.51 秩序あるアナーキー						
1378(細目)	P.53 私の家から国道までの人々						
1378(細目)	P.59 7人の中共記者団						
1378(細目)	P.64 限界効用						
1378(細目)	P.66 三高時代の思い出						
1378A	桑の葉 第2号			1冊(ノート 1冊)		手書	
1378A(細目)	1.税制に関する問題点―主として中小企業に対する― (昭和40年頃)						
1378A(細目)	2.レブケ 抄訳等						
1378A(細目)	3.日本の資源						
1379	桑の葉			1綴(400字)		手書	
1379(細目)	P.137 鳩山一郎の回顧録 (文芸春秋昭和34年4月号特輯号)						
1379(細目)	P.145 敗戦直後の演説会での思い出						
1379(細目)	P.148 終戦時の思想状況と各政党の基本綱領						
1379(細目)	P.152 本居宣長 古事記伝三之巻 日本の神 小林秀雄『本居宣長』457頁以下						
1379(細目)	P.160 オルテガ『大衆の反逆』より―大衆支配の結果―						
1379(細目)	P.164 自由企業原則採用の功績						
1379(細目)	P.166 日本社会党「立党宣言」より						
1379(細目)	P.172 J. エクルズ(ニューヨーク州立大学名誉教授)の第6回ICUSの開会式挨拶より						
1379(細目)	P.175 NHKドラマ「おていちゃん」						
1379(細目)	P.176 自由経済を維持することの必要とその条件						
1379(細目)	P.186 政治的自由と経済的自由の関係						
1379(細目)	P.204 中江兆民の天皇観 (葦津珍彦)						
1379(細目)	P.207 金森久雄氏の昭和53年10月6日朝日論壇の論文						
1379(細目)	P.227 「民主社会主義」(フリードマン「資本主義と自由」)						

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1379(細目)	P.230 政治的中道主義(レオナルド F. リード)						
1379(細目)	P.236 中間と中庸(レブケ『ヒューマンイズムの経済学』)						
1379(細目)	P.240 フランスが革命や社会主義を生みだした理由(レブケ『ヒューマンイズムの経済学』)						
1379(細目)	P.244 ガルブレイス『不確実の時代』(著者と都留氏の対話より)						
1380	桑の葉 第5号 諸家の説一			1綴(400字)		手書	
1380(細目)	P.1 生活の安定(セキュリティ)ということ (レブケ)						
1380(細目)	P.11 概括的観察の欠点 (ハイエク)						
1380(細目)	P.13 集団主義(生活手段の公有制)で個人の自由はどうなるか (モスク)						
1380(細目)	P.14 デモクラシーと中間層—独立と財産の必要 (レブケ)						
1380(細目)	P.17 民主主義国家を救うための一つの方法 (レブケ)						
1380(細目)	P.20 一番悪いのはまじめな社会主義者、特にマルクス派の社会主義 (レブケ)						
1380(細目)	P.22 正しい行為のルール「直躬證父」(論語子路篇)						
1380(細目)	P.23 刑事訴訟法 証人尋問						
1380(細目)	P.24 わが刑法の定める罪						
1380(細目)	P.29 本居宣長 うはべをつくる世のならい イエス偽善を憎む(ヨハネ伝 第8章)						
1380(細目)	P.31 聖徳太子十七条憲法 第1条 第十条						
1380(細目)	P.32 桑原暁一君の太子憲法第一条の読み方						
1380(細目)	P.33 山鹿素行『謫居童問』 欲心 利心						
1380(細目)	P.35 ヨハネ伝 第8章						
1380(細目)	P.36 「隣人を愛せよ」という言葉の含蓄						
1380(細目)	P.43 現代革命の考察(勝田吉太郎)						
1380(細目)	P.54 デマゴグの本質(オルテガ)						
1380(細目)	P.58 ヨーロッパという一つの社会の存在						
1380(細目)	P.61 言葉の乱用						
1380(細目)	P.64 意識的計画と進化的成長(ハイエク)						

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1380(細目)	P.74 アテネ民主主義の末期症状(プラトン)						
1380(細目)	P.77 孟子梁 恵王章						
1380(細目)	P.79 ロッキード事件の真の意味						
1380(細目)	P.84 ヨハネ福音書						
1380(細目)	P.87 「聖なる夜景」木下道雄						
1380(細目)	P.90 デカルト的人間(政治に適用された理性主義＝革命主義) オルテガ						
1380(細目)	P.91 革命に対抗できる唯一の方法						
1380(細目)	P.93 イギリス象徴君主制の重大な役割						
1380(細目)	P.96 原始性と技術—自由民主主義の意義(オルテガ)						
1380(細目)	P.101 日本における革命の可能性						
1380(細目)	P.105 元号問題						
1380(細目)	P.109 イギリスの中間階級の没落の戒め(深田祐介)						
1380(細目)	P.111 政策がもたらす悪循環						
1380(細目)	P.113 物価対策についての高橋亀吉氏と私とのちがひ						
1380(細目)	P.115 ソ連の対日態度、特に社会党への接近						
1380(細目)	P.116 手形は既に振り出されている(社会保障費の将来)						
1380(細目)	P.114 宣長『玉勝間』より抜粋						
1380(細目)	P.122 エンゲルス『空想から科学へ』計画的意識的な組織						
1380(細目)	P.123 神をなおざりに思ひた奉る世のならひをかなしむこと (本居)						
1380(細目)	P.123 神皇正統記冒頭の文字						
1380(細目)	P.124 中臣壽詞						
1380(細目)	P.126 人のうまるはじめ、死後のこと						
1380(細目)	P.127 独禁法改正案問題点						
1380(細目)	P.136 日本における社会主義への道						
1380(細目)	P.142 社会主義協会のテーゼ						
1380(細目)	P.144 なるか社会党の再生						

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1380(細目)	P.146 山本経済学の歩み						
1380(細目)	P.148 自由主義経済思想の原点						
1380(細目)	P.149 自由社会の課題に熱っぽい論議(田久保忠衛)						
1381	桑の葉 (第6号) 共産主義と自由一			1綴(400字)		手書	
1381(細目)	P.1 共産国の国民に自由はない						
1381(細目)	P.11 非共産国の自由						
1381(細目)	P.14 共産主義と自由について(川井修治)						
1381(細目)	P.29 共産社会(社会主義国)ではなぜ自由がなくなるか						
1381(細目)	P.38 共産党のめざす自由						
1381(細目)	P.72 個人目的の追及とエゴイズム						
1381(細目)	P.80 いま日本国民に問われている真の課題は何か						
1381(細目)	P.87 共産国の自由化に望みはあるか						
1381(細目)	P.95 共産国における自由と民主主義						
1381(細目)	P.102 経済計画と自由						
1381(細目)	P.114 共産制下に自由の失われる理由						
1381(細目)	P.131 労働者、農民の生活は帝政時代よりよくなっているか(ジード)						
1381(細目)	P.141 怪物—福祉国家とインフレ						
1381(細目)	P.142 日本共産党と自由						
1381(細目)	P.150 私有財産と個人の自由						
1381(細目)	P.156 財産権は三大人権の一つである						
1381(細目)	P.159 日共のめざす自由の世界						
1381(細目)	P.177 社会主義過程における三大法則						
1381(細目)	P.180 人間の顔をした社会主義						
1381(細目)	P.179 利潤課税の意味						
1381(細目)	P.182 社会主義はマルクス主義から脱がられない						
1381(細目)	P.183 法は立法よりも古い						
1381(細目)	P.187 大東亜戦争悲願の碑						

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1381(細目)	P.188 自由市場経済の選択						
1381(細目)	P.232 自由を守るために						
1381(細目)	P.241 自由党员にとって必須の知識						
1382	桑の葉			1綴(400字 12枚)		手書	
1382(細目)	日本の神話・伝説・童話						
1382(細目)	皇統譜(神皇正統記による)						
1383	桑の葉 第9号			1綴(400字)		手書	
1383(細目)	P.1 大衆人とはいかなるものか(オルテガ)						
1383(細目)	P.5 渡辺 誠氏(大蔵省出身三井物産顧問)「スタグフレーションの経済学」を読んで						
1383(細目)	P.21 価値についての相対主義批判						
1383(細目)	P.30 緊張緩和への警告						
1383(細目)	P.35 レブケ 市場経済の原則と歴史的事実進行の別						
1383(細目)	P.38 レブケ 我々の改革が動いてゆくべき二つの焦点						
1383(細目)	P.44 自由主義と民主主義の別(自由主義によって民主主義に歯止めをかける事の必要)						
1383(細目)	P.49 独禁法一部改正についての衆議院での供述(案)						
1383(細目)	P.60 自由秩序の一般的性質						
1383(細目)	P.61 市場秩序の特質とその利潤の性質						
1383(細目)	P.62 社会正義又は分配正義						
1383(細目)	P.69 自由理論の二つの伝統						
1383(細目)	P.73 ハイエクの独占禁止政策の批判						
1383(細目)	P.79 それは大いにありうる						
1383(細目)	P.82 理性の思い上り—誤った考え方と正しい考え方						
1383(細目)	P.86 社会主義社会で自由の保持が困難な理由—独占と近隣効果の問題—						
1383(細目)	P.84 ユーロコミュニズム						
1383(細目)	P.85 ソ連革命10周年における ユーロコミュニズムの自由と民主主義の解明						

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1383(細目)	P.97 倒産もふえあるが新規企業もふえる						
1383(細目)	P.101 所得分配の問題 (1)						
1383(細目)	P.108 所得分配の問題 (2)						
1383(細目)	P.112 私は完全雇傭政策がインフレ阻止の政策を崩すことをおそれる						
1383(細目)	P.123 自由市場経済の力を信じよう						
1383(細目)	P.131 真に愛国的な自由人の問い						
1383(細目)	P.135 社会主義経済で自由の保証は幻想にすぎない						
1383(細目)	P.136 独占の原因						
1383(細目)	P.142 自由に対する二つの方向からの脅威						
1383(細目)	P.144 最近十年間の政府施策が失敗した主なる理由						
1383(細目)	P.147 フランクフルト宣言						
1383(細目)	P.148 自由社会における政府の役割と限界						
1383(細目)	P.151 万葉集「みたみわれ」「あおによし寧楽の京師は咲く花の」						
1383(細目)	P.152 実質成長の論議はナンセンス						
1383(細目)	P.153 80年代ソ連の展望(ロンドン国際戦略研究所)						
1383(細目)	P.154 李 正子さんの七宝焼き						
1383(細目)	P.155 ヨーロッパの繁栄とその教訓(レプケ)						
1383(細目)	P.181 スエーデン福祉国家のあえぎ						
1383(細目)	P.182 福祉国家で国は減ぶ(世界と日本)						
1383(細目)	P.183 「世界経済」10月号の案内						
1383(細目)	P.184 木内信胤氏 世界経済特報「総選挙の結果について」						
1383(細目)	P.185 無料診療の経済的心理的影響について						
1383(細目)	P.187 敗因の反省						
1383(細目)	P.190 わが国の人口問題の特徴						
1383(細目)	P.194 計画経済の国こそ戦争勢力である						
1383(細目)	P.195 内観—吉本伊信君の『事業は人なり』を読んで—						
1384	桑の葉 第10号			1綴(400字)		手書	

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1384(細目)	P.1 鴨の長明「行く川の流れば絶えずして」						
1384(細目)	P.2 実朝の歌「荒磯の波を見てよめる」						
1384(細目)	P.2-6 わが思い出(私の履歴書)						
1384(細目)	P.6-7 実朝の歌						
1384(細目)	P.8 徒然草						
1384(細目)	P.14 神神皇正統記						
1384(細目)	P.15 絵筆かろうか獄か						
1384(細目)	P.16 幼学綱要						
1384(細目)	P.17 私の言い分(桜田 武)						
1384(細目)	P.17 不連続線						
1384(細目)	P.17 新元号は「財政再建」						
1384(細目)	P.18 死生観						
1384(細目)	P.19 自助を忘れた日本人						
1384(細目)	P.20 レブケ『ヒューマンイズムの経済学』(Civitas Humana) 序文冒頭の一節						
1385	桑の葉			1冊(400字)		手書	
1385(細目)	P.1 勝利なきベトナム戦(ウォルター・リップマン)						
1385(細目)	P.3 宗教と政治(梶村 昇)						
1385(細目)	P.8 よみうり寸評(下田大使の演説)						
1385(細目)	P.9 春秋譜(新日本春秋 昭和42年12月5日)—小柳陽太郎「時勢を見る目 山県大弼と松宮観山」						
1385(細目)	P.10 北斎の言葉						
1385(細目)	P.12 ボンド切下げの教訓						
1385(細目)	P.13 ハダで感じた英経済の病根(読売 八木 ロンドン特派員)						
1386	論文 著者目録(未完)—昭和41年4月1日～昭和48年3月31日—			1冊(ノート 1冊)		手書	2頁のみ
1387	備忘録			3冊(ノート 3冊)		手書	
1388	抜粋 摘録			4冊(ノート 4冊)		手書	

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1389	桑の葉 第8号『福祉国家亡国論』に到達するまでの経過(考え方の変化) 社会主義の根本的な欠点 ほか			1綴(400字 15枚)		手書	
1390	メモ 福祉国家、福祉とは何か ほか			1冊(ノート 1冊)		手書	
XVI 講義録							
(1) 講義録							
1391	中央学院大学 経済学講義要綱		昭和50年	31綴(A4 174枚)		手書	
1392	中央学院大学 経済学講義講義要綱		昭和50年	14綴(A4 104枚)		手書	
1392(細目)	経済体制の選択						
1392(細目)	個人主義制下における自由は社会主義制下においてどう変わるか						
1392(細目)	マルクス「労働価値説」誤謬						
1392(細目)	マルクス「唯物史観」批判						
1392(細目)	マルクスの労働価値説						
1392(細目)	マルクス「賃金、価格、利潤」についての覚書						
1392(細目)	独占と競争						
1392(細目)	自由経済と独禁法の改正						
1392(細目)	自由経済と独禁法						
1392(細目)	マルクス・エンゲルスの「賃労働と資本」						
1392(細目)	レイモン・アロン『自由の論理』要約						
1392(細目)	レイモン・アロン『自由の論理』						
1393	都留重人 伊藤光晴 山崎芳夫 高等学校経済教科書『日本経済』三訂版 要約—学生の理解力を知るために—		昭和50年	1綴(A4 11枚)		手書	
1394	講義案 経済学講義—序説 及び 目次集		昭和50年	1綴(A5 16頁)		手書	
1395	講義案 第3回		昭和50年	1綴(A5 7頁)		手書	
1396	講義案 第4回 第5回 分業の諸問題		昭和50年	1綴(400字 30枚)		手書	
1397	講義案 第6回 費用とは何か(レブケ)		昭和50年	1綴(400字 9枚)		手書	
1398	講義案 なぜ自由経済主義は社会主義経済や干渉主義経済よりもすぐれているか？		昭和56年3月	1綴(400字 35枚)		手書	
1398(細目)	1. A. スミスの考え						

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1398(細目)	2. 山鹿素行の考え						
1398(細目)	3. 本居宣長の考え						
1398(細目)	4. 司馬遷の考え						
1398(細目)	5. ゲーテの考え						
1398(細目)	自らの幸福を追求する権利の意味(山本註)						
1399	講義資料		昭和56年11月	1綴(400字 86枚)		手書	
1400	退任の言葉—草稿		昭和59年	1綴(400字 5枚)		手書	
1401	失敗しても卑屈にならぬが肝要なり—中央学院大学退任の言葉		昭和60年1月21日	1部(ダブロイド 3/5号)		活版	『中央大学 学報』35号
1402	婦人と民法			1冊(ノート 1冊)		手書	鴻巣婦人会 婦人学級の講義
XVII ノート							
(1) ノート							
1403	労働のための自由(ゴールドワター『保守党員の良心』)(翻訳)		昭和36年	1綴(400字 34枚)		手書	
1404	レブケ、農業統合とEEC (1939)		昭和40年4月	2冊(ノート 2冊)		手書	
1405	ワルター・オイスケン著 国民経済学の基礎		昭和40年5月	3冊(ノート 3冊)		手書	
1406	ガルブレイス「新産業国家」要約		昭和44年1月	1冊(ノート 1冊)		手書	
1407	ハイエク『法・立法・自由』第4章 法概念の変化 第5章 自由の法		昭和51年4月	1綴(400字 184枚)		手書	付.学者としての私の使命
1408	ハイエク『法・立法・自由』第6章 立法の法		昭和51年5月	1綴(400字 49枚)		手書	
1409	ハイエク『法・立法・自由』より 社会的正義に関する項		昭和52年2月	1綴(400字 31枚)		手書	
1410	オルテガ『大衆の反逆』より		昭和52年	1綴(400字 3枚)		手書	
1410(細目)	“曾てのデモクラシーと今日のデモクラシー”						
1410(細目)	“優越感と不安感”						
1411	オルテガのいう デカルトの人間＝近代的人間		昭和52年	1綴(400字 2枚)		手書	
1412	デカルトのマキャヴェルリ『君主論』批判—エリザベト王女宛の手紙より		昭和52年	1綴(400字 6枚)		手書	
1413	価格と生産費に關係—W. レブケ		昭和54年	1綴(400字 10枚)		手書	
1414	古典派経済学の価値(価格)論—レブケ		昭和55年	1綴(400字 3枚)		手書	
1415	ジョン・ラスキン『この最後の者にも』—J・S・ミル「経済学」の批判—		昭和56年5月	1綴(400字 36枚)		手書	
1416	集団主義と戦争の準備—レブケ		昭和58年8月16日	1綴(400字 5枚)		手書	

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1417	レブケー貨幣経済における資本形成		昭和59年1月15日	1綴(400字 2枚)		手書	
1418	A・スミス 諸国民の富 第5編 第1章 第3節 第2項			1綴(400字 4枚)		手書	青少年の教育のための諸施設の 経費
1419	アダム・スミス『道徳感情論』(死の恐怖)		昭和51年6月19日	1綴(200字 8枚)		手書	
1420	A・スミス『道徳感情論』抜粋(要約)			1綴(400字 43枚)		手書	
1421	アダム・スミス『道徳感情論』摘訳			1綴(400字 88枚)		手書	
1422	A・スミス『道徳感情論』抜粋			1綴(400字 64枚)		手書	
1423	A・スミス『道徳感情論』抜粋			1綴(400字 33枚)		手書	
1423(細目)	第一部 第一篇 功績と罪過の感覚						
1423(細目)	序論						
1423(細目)	第二章 感謝と報復感の適切な対象						
1423(細目)	第五章 功績の感覚ならびに罪過の感覚の分析						
1423(細目)	第二部 第二編 正義と仁恵について						
1423(細目)	第二章 正義の感覚 悔恨の感覚						
1423(細目)	第一章 この二つの美德の比較						
1423(細目)	第三章 このような自然の摂理の効用について						
1423(細目)	第一部 第三篇						
1423(細目)	第二章 野心の起源ならびに身分の区別について						
1423(細目)	第三章 富者や偉人を賛美し貧困や下賤の者を軽蔑する傾向のためにおこる道徳情操の頹廃について						
1424	A・スミス『道徳感情論』抜粋、第七部 道徳哲学の諸学説について			1綴(400字 67枚)		手書	
1425	A・スミス、国富論 抜粋			1綴(400字 49枚)		手書	
1426	アダム・スミスの国富論から一わが国当面の困難を開く指針―			1綴(400字 5枚)		手書	
1427	アダム・スミス『諸国民の富』第四篇 第九章 重農主義批判			1綴(400字 4枚)		手書	
1428	A・スミス『道徳感情論』第一章 自然が個人を我々の配慮と注意に委ねる場合の順序について			1綴(400字 9枚)		手書	
1429	A・スミス『道徳感情論』第2部 第3篇 功績と罪過について			1綴(400字 32枚)		手書	
1430	A・スミス『道徳感情論』第6部 第3篇 自己統制について			1綴(400字 9枚)		手書	

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1431	ハイエク『法・立法・自由』緒言 及び 第一章「理性と進化」			2綴(400字 181枚)		手書	i 手書 400字 85枚/ii 手書 400字 83枚(両訳あり)/iii 他に手書 200字 46枚
1432	ハイエク『法・立法・自由』 緒言 第1章 理性と進化			1綴(400字 27枚)		手書	
1433	ハイエク『法・立法・自由』 緒言			1綴(200字 46枚)		手書	
1434	ハイエク『法・立法・自由』 第2章 コスモス(成長した秩序)とタキンス(造られた秩序)/第3章 原則と便宜			1綴(400字 91枚)		手書	
1435	ハイエク『法・立法・自由』 第2巻 第7章「一般的福祉と特定目的」			1綴(400字 70枚)		手書	
1436	ハイエク『法・立法・自由』 第8章 正義の研究			1綴(400字 51枚)		手書	
1437	ハイエク『法・立法・自由』 第9章 社会正義又は分配の正義			1綴(400字 69枚)		手書	
1438	ハイエク『法・立法・自由』 第10章 市場秩序(又はカタラシー)			1綴(400字 26枚)		手書	
1439	ハイエク『法・立法・自由』 第11章 抽象的ルール of 規律と種族社会の情緒			1綴(400字 45枚)		手書	
1440	ハイエク『自由の憲法』			7冊(ノート 7冊)		手書	
1440(細目)	第3章 進歩の常識						
1440(細目)	第6章 平等、価値及び功績						
1440(細目)	第8章 雇用と独立						
1440(細目)	第9章 強制と国家						
1440(細目)	第10章 法・命令および秩序						
1440(細目)	第14章 個人の自由安全装置						
1440(細目)	第18章 労働組合と雇用						
1441	ハイエク『自由の憲法』 抄訳 自由文明の創造力			1冊(ノート 1冊)		手書	
1442	ハイエク『自由の憲法』 第1部 第2章「自由文明の創造力」			1冊(ノート 1冊)		手書	
1443	ハイエク『自由の憲法』 第4章 自由・理性及び伝統			1綴(400字 48枚)		手書	
1444	ハイエク 第4章 自由・理性及び伝統			1冊(ノート 1冊)		手書	
1445	ハイエク『自由の憲法』 第5章 責任と自由			1綴(400字 24枚)		手書	
1446	ハイエク『自由の憲法』 第6章 平等、価値と功績			1綴(400字 49枚)		手書	
1447	ハイエク『自由の憲法』 第7章「多数原理」			1冊(ノート 1冊)		手書	
1448	ハイエク『自由の憲法』 第10章 法律、命令と秩序			1綴(400字 43枚)		手書	

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1449	ハイク『自由の憲法』第15章 経済政策と法治			1冊(ノート 1冊)		手書	
1450	ハイク『自由の憲法』第16章「法の衰退」			1冊(ノート 1冊)		手書	
1451	ハイク『自由の憲法』第20章 課税と再分配			1綴(400字 24枚)		手書	
1452	ハイク『自由の憲法』第20章 課税と再分配					手書	1.手書400字 31枚/2.手書 400字 48枚 両訳あり
1453	ハイク『自由の憲法』第20章 課税と再分配			1綴(400字 49枚)		手書	
1454	ハイク『奴隷性への道』			1冊(ノート 1冊)		手書	
1454(細目)	まえがき						
1454(細目)	序文						
1454(細目)	第1章 棄てられた道						
1454(細目)	第2章 偉大な空想						
1454(細目)	第4章 計画経済は不可避なりや						
1454(細目)	第5章 計画経済と民主主義						
1455	ハイク『奴隷性への道』第1章 放棄された道 第2章 偉大なる夢			1綴(400字 37枚)		手書	
1456	ハイク『奴隷性への道』第3章 個人主義と集団主義			1綴(400字 26枚)		手書	
1457	ハイク『奴隷性への道』第5章・第6章・第7章			1綴(400字 52枚)		手書	
1458	ハイク『奴隷性への道』第8章 誰が誰を？			1綴(400字 33枚)		手書	
1459	ハイク『奴隷性への道』第14章 物質的条件と自由			1冊(ノート 1冊)		手書	
1460	ハイク教授の見解 日本経済新聞社の講演(昭和52年2月)から			1枚(400字 1枚)		手書	
1461	適当な給与は唯一の報酬、ハイク『自由の憲法』より			1綴(400字 7枚)		手書	
1462	ハイク教授の見解—経済成長率について—昭和52年2月 日本経済新聞社講演から			1枚(400字 1枚)		手書	
1463	自主的秩序—造られた秩序との違い -ハイク-			1綴(200字 15枚)		手書	
1464	ハイク「課税と再分配」			1綴(400字 49枚)		手書	
1465	ハイク 第4章 社会主義は不可避か？			1綴(400字 30枚)		手書	
1466	法と命令の区別 -ハイク-			1綴(400字 3枚)		手書	
1467	現代の最大の精神病 ほか— -ハイク-			1綴(400字 5枚)		手書	
1468	デカルト派の考え方 -ハイク-			1綴(400字 5枚)		手書	

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1469	自発的秩序のルールと組織のルール -ハイエク-			1綴(400字 9枚)		手書	
1470	自由の法と組織の法の相違 ハイエク 法・立法・自由 第1章からの摘要―			1綴(400字 3枚)		手書	
1471	責任根を果たしうる人 -ハイエク-抄訳			1綴(200字 11枚)		手書	
1472	ハイエク『自由の条件』			1冊(ノート 1冊)		手書	
1473	ハイエク『自由の条件』			7冊(ノート 7冊)		手書	
1474	ハイエク『自由の条件』			7冊(ノート 7冊)		手書	
1474(細目)	第6章 平等、価値及び功績						
1474(細目)	第17章 社会主義の凋落と福祉国家の台頭						
1474(細目)	第19章 社会保障						
1474(細目)	第20章 租税と再分配						
1474(細目)	第21章 貨幣機構						
1474(細目)	第22章 住宅と都市計画						
1474(細目)	第24章 教育と研究						
1475	ハイエク「英国における法支配の衰退」復興する「法による支配」と自由			1綴(400字 14枚)		手書	
1476	ハイエク 自由理論の二つの伝統			1綴(400字 3枚)		手書	
1477	レプケ『自由社会の経済学』			5冊(ノート 5冊)		手書	
1478	レプケ『自由社会の経済学』第1章			1冊(ノート 1冊)		手書	
1479	レプケ『自由社会の経済学』第2章 経済の基礎事実			1綴(400字 6枚)		手書	
1480	レプケ『自由社会の経済学』第3章			1冊(ノート 1冊)		手書	
1481	レプケ『自由社会の経済学』第6章 市場と物価、6節 外国貿易と国際価格形成			1綴(A5 16頁)		活版	
1482	所得分配の理論(第7章)			1綴(A5 19枚)		手書	
1483	レプケ『自由社会の経済学』第8章 経済均衡の攪乱			1綴(400字 4枚)		手書	
1484	レプケ『自由社会の経済学』第8章 経済均衡の攪乱 2.景気変動(好況と不況)の理論 4.安定化政策について			1綴(400字 10枚)		手書	
1485	レプケ 将来の可能性と我々の任務―Civitus Humana 第1版 序文より―			1綴(400字 5枚)		手書	

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1486	レプケ 経済均衡の破壊と経済安定の道/ 景気変動の原因とその対策			1綴(400字 47枚)		手書	
1487	景気変動の原因とその対策 (レプケ)			1綴(400字 51枚)		手書	
1488	レプケ『人間国家(Civitus Humana)』序文冒頭の一節			1綴(400字 7枚)		手書	
1489	レプケ「ヒューマンイズムの経済学」序文の一節			1綴(400字 7枚)		手書	
1490	“それはおおいにありうる” -レプケ-			1綴(B5 5枚)		手書	
1491	レプケ『ヒューマンイズムの経済学』第2部 第1章 健全な国家と病む国家 (一部 摘訳)			1冊(ノート 1冊)		手書	
1492	理性の正しいつかい方とあやまったつかい方 レプケ『ヒューマンイズムの経済学』			1冊(ノート 1冊)		手書	
1493	レプケ 政治経済のヴィジョン W. Röpke Die Krise des Kollektivismus・Des Kulturideal des Liberalismus・Die Gesellschafts Krisis der Gegenwart より摘訳			1冊(ノート 1冊)		手書	
1494	レプケ 完全に自由な競争は殆ど存在しない			1綴(400字 19枚)		手書	
1495	ヨーロッパの繁栄とその教訓 -ウィルヘルム レプケ-			1綴(B5 26頁)		タイプ	
1496	レプケ教授からのノート			1綴(400字 10枚)		手書	
1497	経済体制(Wirtschafts verfassung) -レプケ-			1綴(B5 31頁)		手書	
1498	科学と分析の宗教 -レプケ-			1綴(400字 3枚)		手書	
1499	デラウェア州(DELAWARE) -レプケ-			1綴(400字 3枚)		手書	
1500	レプケの独占理論			1冊(ノート 1冊)		手書	
1501	レプケ 抜粋 ノート			1冊(ノート 1冊)		手書	
1502	レプケ 集産主義の動機			1綴(400字 37枚)		手書	
1503	W・レプケ 経済学教科書(第7増訂版)			1冊(ノート 1冊)		手書	
1504	ミーゼス「自由主義」抄訳			1綴(200字 17枚)		手書	
1505	干渉主義—ミーゼス『自由への決断』摘訳			1綴(B5 5枚)		手書	
1506	欲することを為す実力、欲望を充す力、開かれた代替物、選択の広さを意味する自由 -ハイエク-			1綴(200字 6枚)		手書	
1507	ミーゼス「思想の力」(自由の決断 151P)			1枚(400字 1枚)		手書	
1508	ミーゼス『反資本主義的心理の根源と結果』(全訳)			1綴(400字 154枚)		手書	(全訳 他に邦訳なし)
1509	エアハルトの研究			2冊(ノート 2冊)		手書	

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1510	フリッツ・マハラー著 独占の経済学 (2)			1冊(ノート 1冊)		手書	
1511	J・S・ミル『自由論』抜粋訳			1冊(ノート 1冊)		手書	
1512	カルブレイス『新産業国家』要約III			1冊(ノート 1冊)		手書	
1513	カルブレイス『新産業国家』要約II			1冊(ノート 1冊)		手書	
1514	ウォルター・リッブマン“The Good Society”			1冊(ノート 1冊)		手書	
1515	フリッツ・マハラー著 独占の経済学 (1)			1冊(ノート 1冊)		手書	
1516	H・ハズリット ケインジアンの誤謬の分析			3冊(ノート 3冊)		手書	
1517	ゴールドワター「農民のための自由」—『保守党員の良心』第五章の全訳			1綴(400字 9枚)		手書	
1518	—保守主義者の良心			1綴(A5 14頁)		活版	
1519	Berry Goldwater: The Conscience of Conservative			1綴(400字 24枚)		手書	
1520	アダム・スミス『国富論』第5編 第1章 国家の経費についての結論			1綴(400字 4枚)		手書	
1521	行為の一般原則の尊重すなわち人の義務感—A・スミス『道徳感情論』抄訳			1綴(400字 3枚)		手書	
1522	資本主義・自由主義—ミーゼス『自由への決断』摘訳			1綴(B5 18枚)		手書	
1523	社会における自発的秩序への依存は吾々の統制力をひろげかつ制限すること ハイエク抄訳			1綴(400字 5枚)		手書	
1524	ブキャナン、ワグナー『赤字財政の政治経済学』			3冊(ノート 3冊)		手書	
1525	レイモン・アロン『自由の論理』(部分)			1冊(ノート 1冊)		手書	
XIX 戦前 (昭和20年まで)[年代順]							
(1) 戦前							
1526	櫛田民蔵氏の経済表批評を評す		昭和2年9月	1綴(A5 41頁)		活版	「内外研究」(和歌山高商)第一巻 第一号
1527	フィジオクラートの価値論(上)(下)		昭和3年1月14日	1綴(18頁・12頁)		活版	『説苑』第26巻 第3号 及び第4号
1528	社会主義経済秩序の吟味 (一) (二)		昭和6年5月・8月	2綴(22頁・11頁)		活版	思想調査資料 第十輯・第十一輯 文部省
1529	学校騒動と人格問題—無視された教育制度の一面—		昭和9年7月14日	1冊(A5 3頁)		活版	『教育』第2巻 第8号 岩波書店
1530	[欠番]						

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1531	思想問題と母の愛行		昭和11年2月24日	1冊(B6 76頁)		活版	国民精神文化類 第12輯
1532	北一輝著「日本改造法案大綱」の検討		昭和11年5月	1綴(A5 17頁)		活版	陸軍「調査彙報」第50号
1533	所謂統制経済論を評す		昭和11年5月30日	1冊(B6 21頁)		活版	国民精神文化講演集第3冊 国民精神文化研究所
1534	電力民有国営案の批判		昭和11年10月	1綴(B5 10頁)		活版	『日本及び日本人』所載
1535	非常時局と経済生活		昭和12年11月20日	1冊(B6 97頁)		活版	時局国民精神読本 第8輯 国民精神文化研究所
1536	文章報国		昭和16年3月	1綴(400字 19枚)		手書	
1537	日本経済再編成の基本方針		昭和16年11月30日	1綴(B5 12頁)		タイプ	
1538	日本経済再編成の基本方針		昭和16年11月30日	2綴(B4 6枚)		タイプ	
1539	社会主義計画経済の検討		昭和18年6月	1綴(B5 36頁)		手書	外務省調査局 調第253号
1540	総力発揮の経済方式		昭和19年1月	1綴(B5 55頁)		タイプ	(昭和20年8月 陸軍軍務局戦備課に於いて印刷頒布)との墨書あり
1541	総力発揮の経済方式(序)		昭和19年8月10日	1綴(B5 6頁)		手書	
1542	経済時言		昭和19年8月10日	1綴(A5 67頁)		手書	
1543	行政査察・判決		昭和20年頃	1綴(B5 5頁)		手書	
1544	行政査察関係 新潟地方		昭和20年7月3日	1袋(B5 多数)		手書	{内容} ◇日誌(挨拶、関係者発言、懇談要旨) 判決 外
XX その他							
(1) その他							
1545	手塚壽郎の書評『計画経済の根本問題』		昭和14年5月25日	1枚		印刷	小樽高商「緑丘新聞」所載
1546	日本畜産振興株式会社関係		昭和22年	1冊・1通(ノート 1冊/+ 1通)		手書	(付)鳩山一郎葉書
1547	昭和32年総選挙で受けた陣中見舞(加須市の方)		昭和32年	1冊(ノート 1冊)		手書	
1548	日本経済の崩壊過程—佐藤賢了氏の文章より—		昭和38年3月	1綴(400字 7枚)		手書	
1549	佐藤吉之丞氏への弔辞		昭和40年3月2日	1綴		手書	
1550	山田健太郎君の叙勲推薦について		昭和49年12月	1綴(B4 5枚)		手書	
1551	〔欠番〕						
1552	言葉の乱用(オルテガ「大衆の反逆」仏語版への序文より)		昭和51年8月3日	1綴(400字 3枚)		手書	

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1553	あすを語る (M. フリードマン、西山千明 対談)		昭和52年3月28日	1冊		活版	読売新聞 25回連載
1554	ハイジャック対策についての提言 (衆議院議長 福田一氏宛)		昭和55年10月2日	1綴(400字 5枚)		手書	付 請願書
1555	赤軍(過激派)のハイジャック事件回顧		昭和55年10月2日	1綴(400字 10枚)		手書	
1556	請願書—ハイジャック対策に関する—		昭和55年10月3日	1綴(400字 5枚)		手書	
1557	ハイジャックの再発を防ぐために		昭和55年10月6日	1綴(400字 5枚)		手書	
1558	ハイジャックの再発を防ぐために 付 増田甲子七氏読後感		昭和55年10月	2綴		手書	「世界日報」掲載
1559	わが国防の理念—木内信胤氏の論文を読んで—		昭和57年11月7日	1綴(400字 2枚)		手書	
1560	〔欠番〕						
1561	「原爆が日本を救った」といえるか—武見太郎氏の発言について—		昭和58年10月3日	1綴(400字 2枚)		手書	
1562	誤ちを繰り返さぬこと		昭和58年12月11日	1綴(400字 2枚)		手書	
1563	知的研究の限界を内村鑑三氏に見る		昭和59年1月10日	1綴(400字 2枚)		手書	
1564	小ピット首相のA. スミスの評価		昭和59年1月16日	1綴(400字 3枚)		手書	
1565	大河内一男 元東大学長の死去		昭和59年8月10日	1綴(400字 2枚)		手書	
1566	ワイゼッカー「核の脅威を乗り越えるために」に対するコメント		昭和61年1月8日	1枚(400字 1枚)		手書	
1567	東京新聞論説主幹 広瀬一郎氏「このままにはいかぬ」について		昭和61年2月12日	1綴(400字 2枚)		手書	
1568	山本勝市博士の戦後公職追放・勅令違反事件顛末 (概要)		昭和61年11月28日	1綴(200字 17枚)		手書	
1569	山本勝市 履歴書		昭和61年	1綴(コピー)		タイプ	衆議院履歴書用紙 6枚
1570	「創世記」を読む		昭和57年3月22日	1綴(400字 2枚)		手書	
1571	〔欠番〕						
1572	[思想遍歴と著者 等]			1冊(ノート 1冊)		手書	
1573	山本勝市論—戦う経済学者	田々宮英太郎		(400字 15枚分)			新聞記載コピー
(補遺)							
I 日本、天皇、日本史、日本思想、教育							
1574	戦争犯罪について他			1綴			
1575	中央学院大学創立十周年記念特別講演「聖なる夜景を偲ぶ—御在位五十年に当たって」(原稿)		昭和51年11月	1綴			
1576	天覧相撲についての感想		昭和58年5月15日	1枚			

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1577	(エリザベス)女王の引用された日本史の序文について		6月10日	1綴			
1578	メモ(万葉集など)			1綴			
1579	紀貫之 古今集序			1綴			
1580	山鹿素行「謫居童問」メモ			1綴			
1581	和辻哲郎履歴写			1綴			
1582	小林秀雄「本居宣長」抜き書き			1綴			
1583	国民道徳に関する原稿			1綴			(前欠)
II 憲法・法							
1584	法とは(メモ)			1綴			
1585	個人の自由の安定装置－法の下における自由のための条件－(メモ)			1枚			
1586	言論の自由に関する原稿(断片)			1綴			
1587	美濃部氏所説批判(原稿)			1綴			(前欠)
III 自由・民主主義、社会・共産主義							
1588	選択の自由について他自由主義に関する原稿			5綴			
1589	自由社会は維持できるか(ハイク論文翻訳)			1綴			
1590	レプケの「健康な国家と病む国家」(メモ)			1綴			
1591	大正15年時代の思想状況を知る一助として(第一高等学校「瑞穂会」趣意書)		大正15年2月11日	1綴			
1592	集団主義哲学の動機(原稿)		昭和48年8月13日	1綴			
1593	集団主義に関する原稿			1綴			
1594	社会主義理論との闘い(山本勝市博士論文選集)コピー 国文研叢書 No.21	国民文化協会		1綴			
1595	(5)社会主義の理論に先行するもの／(6)社会主義経済に階級搾取は免れ難いこと			1綴			
1596	ソルジェニーツイン問題(原稿)			2綴			
1597	ソルジェニーツイン事件と「社会主義」			1綴			マスコミ文化昭和49年5月号抜き書きとコメント
1598	共産圏の生産力の低い事実			1綴			
1599	共産主義対策についての原稿			3点			

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1600	マルクス・エンゲルスの幻想－「共産党宣言の草案『共産主義の原理』にみる」			1綴			
1601	社会党批判原稿			1綴			
1602	自治労・日教組の行った10・21統一ストの事後処置について	自民党全国組織委員会	昭和41年12月	1冊			
IV 政治・政党・議会							
1603	政治体制に関する原稿			1綴			
1604	啓蒙時代指導者の理念(原稿)			1綴			
1605	日本人よ目を覚ませ！－真実の世界平和のために	河内正臣	昭和59年1月	1冊			
1606	第6章：政策と思想(メモ)			1綴			
1607	選挙制度に関する原稿			1綴			
1608	N H K 放映政治座談会感想			1綴			
1609	救国新党の結成について	堀内一雄		1綴			昭和20年代
1610	自由党からの離脱について		昭和29年9月15日	1綴			(前欠)
1611	新しい時代への前進(演説資料)昭和59年12月宏池会：を読む			1綴			
1612	「提言」へのコメント(コピー)			1綴			
1613	宏池会研修会に於ける講演	宮沢喜一	昭和60年10月3日	1冊			
1614	宮沢論文と自民党の政策について(原稿)			1綴			
1615	雑誌「自由民主」6月号所載中曽根首相論文に関する山本論文送付添状			1枚			
1616	昭和54年11月2日主流派・反主流派の両院議員総会の結果(メモ)			1綴			
1617	自由民主党中央政治大学院特別研修会日程表(第20、21回)			2枚			
1618	自由民主党夏季全国研修会研修ノート		昭和52年9月	1冊			
1619	石橋湛山に関する原稿			4点			
1620	鳩山一郎・自由党に関する原稿			5枚			
1621	池田勇人内閣成立に関する原稿			4枚			
1622	小島徹三法務大臣就任に関する原稿(断片)			3点			
1623	60年3月19日紐育ジャパン・ソサイティーにおけるマンスフィールドの講演			1綴			

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1624	マンスフィールド大使の発言について(メモ)			1綴			
Ⅴ 経済							
1625	経済政策に関する原稿			1綴			(前後欠)
1626	経済計画に関する原稿			3点			
1627	一国経済の計画化は不可能			1綴			(後欠)
1628	自由競争こそ改革への基本(コピー)	山本勝市		2枚(同文)			朝日新聞「声」欄への投書
1629	自由市場経済に関する原稿			1綴			(前欠)
1630	社会主義(集団主義)体制の経済的能率の問題 レブケ論文抜き書き			1綴			
1631	第5章「海外投資」(項目)			1綴			
1632	日本人の勤儉貯蓄			3枚			
1633	生産・所得に関する原稿			1綴			(前欠)
1634	都会の商業はどのようにして田舎の改良に貢献したか(抜き書き)			1綴			
1635	過度な分業の危険性(原稿)			1綴			
1636	生産財の生産について(原稿)			1綴			
1637	「受益者」という暴君(原稿)			1綴			
1638	政府経済演説に関する原稿		昭和54年1月	1綴			
1639	「自由民主」(58年1月号)所載飯田経夫の「経済政策のジレンマ」を読んでの感想			1枚			
1640	資産倍増論について(メモ)		昭和59年6月29日	1綴			
1641	内外経済の推移と問題点	金曜会	昭和59年8月21日	1綴			
1642	対論：宮沢「資産倍増論」の死角を衝く			1綴			諸君昭和59年9月号コピー
1643	自民党の経済原則(断片)			1綴			
1644	自民党による自由経済組織の歪曲			1綴			「経済時代」の原稿
1645	ケネー、スミスに関するメモ			1綴			
1646	フリードマン「選択の自由」のコピー(一部)			1綴			
1647	日本経済の光と影(コピー)	竹内宏		1綴			
1648	新説・山下経済学原稿(コピー) 第1編第6章、第2編第1～4章			1綴			

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1649	山下寅蔵著新説・山下経済学の概要書		昭和47年12月	1綴			
1650	下村治氏 昭和61年度の経済見通し		昭和60年12月12日	1綴			
1651	産計懇りポートNo.24	産業計画懇 談会	昭和61年1月30日	1冊			
VI 市場、物価、独禁法、労組、中小企業							
1652	自由主義市場経済の擁護	山本会	昭和36年3月	1綴			
1653	市場機能によらずして意識的・計画的に諸物価を適正にすることは不可能である		昭和60年11月	1綴			
1654	市場経済についての原稿			1綴			
1655	自由主義市場経済に関する原稿			1綴			
1656	真に労働者を守るものは雇主間の競争			1綴			
1657	アダム・スミス「国富論」の交換に関する原稿			1綴			
1658	消費者物価指数について			1綴			
1659	消費者物価に関する原稿			3綴			(前後欠)
1660	物価指数に関する原稿			1綴			(前後欠)
1661	物価指数に関する原稿			1綴			
1662	物価指数に関する原稿			1綴			(前欠)
1663	物価に関する原稿(断片)			2綴			
1664	政治価格に関する原稿			1綴			
1665	物価安定への道			1綴			
1666	物価安定の為の留意点			1綴			
1667	政府の物価政策についての原稿			1綴			
1668	価格統制の弊 山片幡桃「夢の夜」抜き書き等			1綴			
1669	「再販制度の改正及び不当廉売の規制について」(8月29日の公正取引委員会方針を読んで)		昭和48年9月	1冊			
1670	最近の独禁法改正論議に対する見解	経団連独禁 法研究会	昭和49年5月	1綴			
1671	独占禁止法改正試案の問題点について(メモ)		昭和49年10月	1綴			
1672	独占禁止法改正問題について	通商産業省	昭和49年10月	1綴			

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1673	独禁法改正に対する見解	経団連	昭和50年2月	1綴			
1674	独禁法改正関連資料	経団連産業部	昭和50年12月	1綴			
1675	改正案の問題点－独禁法改正に関する参議院商工委員会参考人供述用原稿		昭和52年5月	1綴			
1676	公取の独禁法改正の骨子を読んで			1綴			
1677	一、「自由な競争が少ない」というのでは、指定要件を欠くに至ったとは云えない			1綴			
1678	自由な競争が少ないということは、指定を取り消す理由とは成らない			1綴			
VII 福祉国家、社会保障							
1679	福祉国家亡国論			14綴			
1680	福祉国家亡国論(昭和50年)			1綴			
1681	福祉国家に関する論文へのまえがき		昭和50年8月	1綴			
1682	福祉国家に関する原稿			11綴			
1683	一、政党の綱領にみる福祉国家			1綴			
1684	福祉国家と計画経済に関する原稿			1綴			
1685	戦後の福祉国家に関する原稿			1綴			(前欠)
1686	福祉国家とピグー「厚生経済学」に関する原稿			1綴			
1687	イギリスの教訓(福祉国家関係原稿)		昭和54年5月	1綴			(前欠)
1688	保険診療に関する原稿			1綴			昭和20年代後半カ
1689	年金制度についての問題点	伊部英男	昭和52年4月	1冊			
1690	社会保障関係費(生活保護費)の増加			1綴			
1691	社会福祉費			1綴			
1692	文化人の福祉政策批判			1綴			
VIII 財政、予算、公債、インフレ論、G N P、行革論							
1693	財政に関する原稿			1綴			
1694	公債は追加的資本だという見解は誤り			1綴			
1695	政府の経済政策に関する原稿		昭和53年12月	1綴			(前欠)

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1696	政府の「呼び水」政策と企業の活動意欲に関する原稿(断片)			1袋			
1697	G N P 実質成長率論争は無意味			1綴			
1698	第2章：G N P 成長率は何を意味しないか			1綴			
1699	財政再建のきめ手(第2案) 原稿コピー		昭和54年6月	1綴			
1700	財政再建に関する原稿			1綴			
1701	財政再建に関する朝日新聞記事の感想(中曽根内閣当時)			1綴			
1702	増税なき財政再建は可能か			1綴			(後欠)
1703	増税なき財政再建は可能か？			1綴			
1704	財政再建についてのいろいろな考え方と盲点			1枚			
1705	財政悪化の要因として村山調査会提言に挙げられるもの			1綴			
1706	行政改革・財政再建に関する原稿(後欠)			1綴			
1707	臨調最終答申に関する原稿(後欠)			1綴			
IX 租税、税制改革、累進税、Gカード							
1708	租税に関するメモ			1綴			
1709	徴税費最小の原則－税の見直しで留意すべきこと			1綴			
1710	没収的課税(ミーゼスHuman Actionより翻訳)			1綴			
1711	税制に関する質疑メモ			1綴			
1712	竹下蔵相の税制改革発言に関するコメント			1綴			
1713	総理の税制改革発想に賛成(原稿)			1綴			
1714	税制改革についての国会論議に寄す		昭和60年1月	1枚			
1715	59年11月27日付米財務省税制改正案要綱の序言		昭和59年12月	1綴			
1716	一般消費税導入に関する原稿			1綴			
1717	日本の所得税法における「控除」と「非課税」			1綴			
1718	美術品の物品税撤廃の根拠			7枚(同文)			
1719	アメリカの税制に関する原稿			2綴			
1720	E C 型付加価値税諸国の税率変化			1枚			
1721	累進税に関する原稿			1綴			(前欠)

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1722	累進税に関する原稿(コピー)			1綴			(前欠)
1723	利子配当の分離は不公平かー累進課税の検討が先決			1綴			
1724	利子・配当の分離課税は不公平かーGカード論議の盲点			1綴			
X 貿易、為替、貨幣、金融							
1725	自由貿易と市場開放に関する原稿			1綴			(前欠)
1726	日米貿易についての自民党政策に関する原稿			1綴			
1727	多角貿易と双務貿易			1綴			
1728	貿易摩擦について(未完)			1綴			
1729	変動相場制についての山本論文送付添え状			1綴			
1730	外国為替制度に関する原稿			1綴			
1731	貨幣価値に関する原稿			1綴			(前欠)
1732	貨幣の一般的価値に関する原稿			1綴			
1733	通貨数量説の再認識(経済論壇1974年3月号抜き書き)			1綴			
XIII 中国、ベトナム、韓国、台湾							
1734	日中戦争の法的終結についての原稿			1綴			
1735	日中関係正常化について			1綴			(後欠)
1736	田中内閣の日中関係政策に関する感想			1綴			
1737	日中問題他			1綴			
1738	日中国交回復促進議員連盟の「宣言」を読んで			2綴(同文)			
1739	日中国交回復に関する小坂善太郎発言メモ等			2綴			
1740	日中貿易の将来ー広州交易会から帰った商社マンの話をきいて			2綴(同文)			
1741	比島訪中団に関する質問項目			1枚			
1742	日華平和条約に関するメモ			1綴			
1743	日中台関係に関する原稿			1綴			(前欠)
1744	中華週報No.869、872		1977年8月22日、9月12日	2部			
1745	ベトナムに関する原稿			6枚			

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1746	アジア諸国と言論の自由に関する原稿			1綴			
XIV ヨーロッパ、ロシア、E E C							
1747	E E Cについて			1綴			(前後欠)
1748	困難を克服し得ない欧州経済共同体(翻訳)	ウイルヘルム・レブケ教授		1綴			
1749	敗戦後の西ドイツと日本の比較			1綴			
1750	毎日新聞ヨーロッパ総局長和田俊氏の欧州知識人との一時間(1)	フランス文化人類学者ビストーヌ氏との会見記抄		1綴			
1751	ワルシャワ条約とコメコン体制の行方	佐瀬昌盛	昭和61年1月	1冊			新井経済研究所
1752	1917年以前のロシアの政治と文化			2枚			
1753	スチーブン・D・コーエン「日米関係を直視する8」			1綴			毎日新聞昭和61.1.9
XV 随想、日記、手帳、思い出、備忘録							
1754	手帳(戦前)			1冊			
1755	手帳(断片) 昭和26年5～7月		昭和26年5～7月	1冊			
1756	手帳 昭和28年		昭和28年	1冊			
1757	手帳 昭和30年		昭和30年	1冊			
1758	手帳 昭和31年		昭和31年	1冊			
1759	手帳 昭和34年		昭和34年	1冊			
1760	手帳 昭和38年		昭和38年	1冊			
1761	手帳 昭和40年		昭和40年	1冊			
1762	手帳 昭和41年		昭和41年	1冊			
1763	手帳 昭和42年		昭和42年	1冊			
1764	手帳 昭和43年		昭和43年	1冊			
1765	手帳 昭和44年		昭和44年	1冊			
1766	手帳 昭和45年		昭和45年	1冊			
1767	手帳 昭和46年		昭和46年	1冊			
1768	手帳 昭和47年		昭和47年	1冊			

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1769	手帳 昭和48年		昭和48年	1冊			
1770	手帳 昭和49年		昭和49年	1冊			
1771	手帳 昭和49年		昭和49年	1冊			
1772	手帳 昭和50年		昭和50年	1冊			
1773	手帳 昭和51年		昭和51年	1冊			
1774	手帳 昭和52年		昭和52年	1冊			
1775	手帳 昭和53年		昭和53年	1冊			
1776	手帳 昭和54年		昭和54年	1冊			
1777	手帳 昭和54年		昭和54年	1冊			
1778	手帳 昭和55年		昭和55年	1冊			
1779	手帳 昭和56年		昭和56年	1冊			
1780	手帳 昭和56年		昭和56年	1冊			
1781	手帳 昭和56年		昭和56年	1冊			
1782	手帳 昭和57年		昭和57年	1冊			
1783	手帳 昭和58年		昭和58年	1冊			
1784	手帳 昭和59年		昭和59年	1冊			
1785	手帳 昭和60年		昭和60年	1冊			
1786	手帳(戦後)			1冊			
1787	手帳(戦後)			1冊			
1788	手帳			1冊			
1789	手帳			1冊			
1790	手帳			1冊			
1791	選挙関係手帳			1冊			
1792	アメリカ旅行記録			1冊			
XVIII 翻訳							
1793	アダム・スミスの見解			1綴			
1794	アダム・スミス「道徳感情論」より			1綴			

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1795	アダム・スミス「道徳情操論」抜き書き			1綴			
1796	19世紀中葉のトマス・アコーレーの「英国史」の一節、ジョージ・ギルダー「富と貧困」の邦訳他			1綴			
1797	ハイク翻訳断片			1綴			
1798	ヨーロッパの繁栄とその教訓	レブケ		1綴			
1799	簡単な事実の洞察	フリードマン		1綴			
1800	インフレについての五つの単純な真理	フリードマン		1枚			
1801	秩序原理としての命令と自発的協同	フリードマン		1綴			
1802	ボン大学教授オットー・カロン博士の講演要旨			1綴			
＜その他の資料＞							
1803	山本経済学の歩み	古賀勝次郎		1綴			国民同胞昭57.10.10 コピー
1804	6.山本勝市経済学の歩み 古賀勝次郎「ハイク経済学の周辺」の一部			1綴			
1805	山本勝市経済学の歩み(コピー) 古賀勝次郎「ハイク経済学の周辺」より			1綴			
1806	指定解除の訴え(吉田首相宛て)	山本勝市	昭和24年2月	1綴			
1807	敗因の反省		昭和54年10月	1綴			
1808	自然法に関する原稿			1綴			
1809	メモ(「公平」など言葉の定義)			1綴			
1810	「素顔のオーストラリア」(NHK)を見ての感想		昭和58年6月	1枚			
1811	退任のことば			1綴			
1812	鉛筆について(メモ)			1綴			
1813	原稿及び切り抜き			1綴			
1814	年表(昭和22年～24年)			1綴			
1815	社会問題研究論文タイトル抜き書き			1綴			
1816	自由の連帯	遠山景久		1綴			知識昭60.7 抜き刷りコピー
1817	小野田寛郎「わがブラジル人生」からの抜き書き		昭和60年11月	1綴			

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1818	高校と教育No.94	福岡県教師 会高等学校 部会	昭和59年9月	1部			
1819	韓非子抜き書き			1綴			
1820	国民同胞No.238、282、283		昭和56年、60年	3部			
1821	経済資料No.300	経団連	昭和50年2月1日	1冊			
1822	《欠番》						
1823	新聞切り抜き(政治)			8点			
1824	新聞切り抜き(経済)			21点			
1825	経済・財政・福祉政策関係切り抜き等			1綴			
1826	新聞切り抜き(財政・行革)			27点			
1827	新聞切り抜き(租税)			15点			
1828	新聞切り抜き(貿易)			13点			
1829	新聞切り抜き(食糧など)			5点			
1830	新聞切り抜き(国際)			23点			
1831	新聞切り抜き(雑)			10点			
(補遺 その2)							
XV 随想、日記、手帳、思い出、備忘録							
<日記>							
1832	日記 昭和11年12月26日～昭和13年2月8日、昭和14年5月9日～11日、昭和19年7月25日～昭和20年10月30日		昭和11年12月26日～ 昭和13年2月8日、昭 和14年5月9日～11 日、昭和19年7月25 日～昭和20年10月30日	1冊			
1833	日記 昭和17年12月1日～昭和19年7月24日、昭和19年9月3日～14日		昭和17年12月1日～ 昭和19年7月24日、昭 和19年9月3日～9月 14日	1冊			
1834	日記 昭和25年3月23日～6月12日		昭和25年3月23日～6 月12日	1冊			

山本勝市関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	年月日	数量	内容	記述法	備考
1835	日記 昭和28年1月1日～5月10日、9月15日～12月31日、昭和29年1月1日～5月11日		昭和28年1月1日～5月10日、9月15日～12月31日、昭和29年1月1日～5月11日	1冊			
1836	遣米日誌 昭和31年9月7日～10月20日		昭和31年9月7日～10月20日	1冊			
1837	日記 昭和37年12月30日～昭和38年11月21日		昭和37年12月30日～昭和38年11月21日	1冊			
1838	日記 昭和40年1月1日～12月31日		昭和40年1月1日～12月31日	1冊			
1839	日記 昭和41年1月1日～9月24日		昭和41年1月1日～9月24日	1冊			
1840	日記 昭和41年9月24日～昭和42年6月5日		昭和41年9月24日～昭和42年6月5日	1冊			